

ウィズコロナにおける  
オンライン日本語教育実証事業  
委託業務

---

業務成果報告書

令和5年4月28日  
凸版印刷株式会社  
情報コミュニケーション事業本部  
ソーシャルイノベーション事業部

|                   |  |       |
|-------------------|--|-------|
| 0                 | 事業概要                                   | P.3   |
| 1                 | 1 実施体制                                 | P.4   |
|                   | 2 実施スケジュール                             | P.5   |
|                   | 3 参加企業・日本語教育機関一覧                       | P.6   |
| 2                 | ①自主事業A<br>ハイブリッド型日本語教育プログラムと学習管理システム   | P.7~  |
|                   | ②自主事業B<br>文法習得を目的としたビジュアル式学習アプリ        | P.15~ |
|                   | 1 ③自主事業C<br>AI対話型日本語会話                 | P.20~ |
|                   | ④自主事業D<br>VRを活用した新レッスンー仮想空間での会話授業パッケージ | P.25~ |
|                   | ⑤自主事業E<br>Try from 0（ゼロ） to A1         | P.31~ |
|                   | 2 教師研修                                 | P.36~ |
|                   | 3 実証事業                                 | P.43~ |
|                   | 4 事業全体の発信                              | P.57~ |
|                   | 3 効果検証                                 | P.64~ |
|                   | 4 事業全体総括                               | P.100 |
| 5 【参考】独自調査 海外調査事例 | P.101~                                 |       |

## 本事業の目的および凸版事務局で実施した事業全体像について

### 事業目的

**趣旨：** 新型コロナウイルス感染拡大による入国制限等の影響により、我が国に入国できない外国人留学生が増加の一途を辿っている。令和3年11月からの水際対策により段階的に外国人留学生の受入れを開始したものの、オミクロン株の影響もあり、外国人の入国停止措置が継続されている状況にある。

**目的：** コロナ禍でオンライン教育は増えてきているものの、各機関の取り組みは区々であり、**質の高い日本語教育をオンライン環境において実現することは必要不可欠**と考え、本事業は、入国が困難な外国人留学生等への**日本語教育環境を構築**するため、オンラインを活用した日本語教育を実証することで、**ウィズコロナにおける持続的な日本語教育のあり方**を検討する。

※令和4年2月時点の文化庁仕様書参照

### 実施した事業全体像・事業概要

#### 実施体制

事業全体を統括する凸版印刷と効果検証を担当するデロイトトーマツ、日本語教育関連の複数の有識者や一般財団法人 日本語教育振興協会との綿密な連携、日本語教育機関3団体との協力体制で事業を実施

詳細 p.4

#### 自主事業

##### モデルカリキュラム・教材開発

日本語教育のモデルとなるカリキュラム、教材等の開発に関する業務

詳細 p.7

##### 日本語教師研修

オンライン授業を実践するにあたっての各種の教師向けプログラムの提供

詳細 p.36

#### 実証事業

WEBサイト等を通じた公募業務（説明会を含む）、審査・選定業務、契約業務

##### 日本語教育機関に対する各種の支援

- オンライン環境・教材支援
- 実証に係る相談対応 等

詳細 p.43

#### 事業全体の発信

実証結果の成果をとりまとめた報告書の作成、ホームページ等を通じた公開

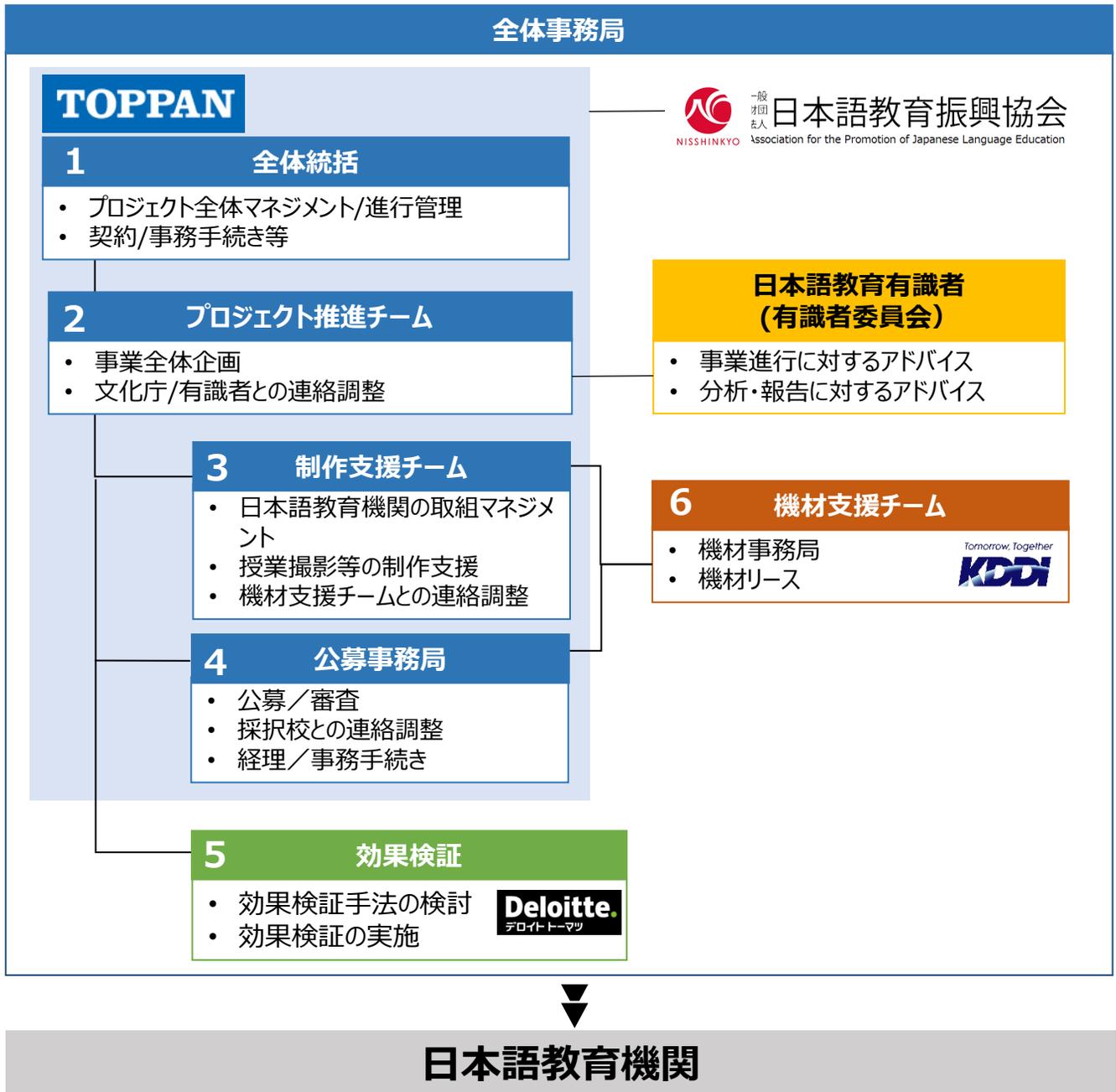
詳細 p.57

#### 各事業の効果検証

効果検証の設計、各日本語教育機関へのアンケート、外部評価委員会による分析 等

詳細 p.64

実施体制全体図



実施体制のポイント

- 公共調査・実証事業の経験豊富な人材をプロジェクト推進チーム、公募事務局に配置
- 制作支援チームは官公庁での制作実績が豊富なメンバーを起用
- 調査モデル構築経験豊富なデロイト社と協業する
- KDDIと綿密な連携体制を取ることで採択校が必要とする機材をスピーディーにリース対応
- 日本語教育の観点からの専門的なアドバイスを受ける有識者委員会を設置

## 業務全体スケジュールの概要

業務全体スケジュールの概要は、以下のとおり。

| 項目                       | 令和4年 |   |   |   |   |   |    |    |    |   | 令和5年 |   |
|--------------------------|------|---|---|---|---|---|----|----|----|---|------|---|
|                          | 4    | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2    |   |
| <b>■ 自主事業</b>            |      |   |   |   |   |   |    |    |    |   |      |   |
| ①                        |      |   | ■ | ■ |   |   |    |    |    |   |      |   |
| ②                        |      |   | ■ | ■ | ■ |   |    |    |    |   |      |   |
| ③                        |      |   |   |   | ■ | ■ | ■  | ■  | ■  |   |      |   |
| ④                        |      |   | ■ | ■ | ■ | ■ | ■  | ■  | ■  | ■ | ■    |   |
| ⑤                        |      |   |   |   |   | ■ | ■  | ■  | ■  | ■ |      |   |
| ⑥                        |      |   |   |   |   |   |    |    | ■  |   | ■    |   |
| <b>■ 実証事業</b>            |      |   |   |   |   |   |    |    |    |   |      |   |
| ①                        |      |   | ■ | ■ | ■ | ■ |    |    |    |   |      |   |
| ②                        |      |   | ■ | ■ | ■ | ■ | ■  | ■  |    |   |      |   |
| ③                        |      |   |   | ■ | ■ | ■ | ■  | ■  | ■  |   |      |   |
| ④                        |      |   | ■ | ■ | ■ | ■ | ■  | ■  | ■  |   |      |   |
| ⑤                        |      |   | ■ | ■ | ■ | ■ | ■  | ■  | ■  |   |      |   |
| ⑥                        |      |   |   |   |   |   |    |    | ■  | ■ | ■    |   |
| ⑦                        |      |   |   |   |   | ■ | ■  | ■  | ■  | ■ | ■    |   |
| ⑧                        |      |   |   | ■ | ■ | ■ | ■  | ■  | ■  | ■ | ■    |   |
| ⑨                        |      |   |   |   |   |   |    |    | ■  | ■ | ■    | ■ |
| ⑩                        |      |   |   |   |   |   |    |    |    |   | ■    |   |
| <b>■ 文化庁との連携及び報告書の作成</b> |      |   |   |   |   |   |    |    |    |   |      |   |
| ①                        |      | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ● | ●    | ● |
| ③                        |      |   |   |   |   |   |    |    |    | ● | ●    | ● |

自主事業日本語教育機関（3機関、6事業）、  
実証事業日本語教育機関（49機関、175クラス）と連携し、事業推進しました。

### 【自主事業・研修事業】日本語教育機関一覧

| 事業名  | 教育機関名            | 都道府県 | 事業名  | 教育機関名            | 都道府県 |
|--|------------------|------|--|------------------|------|
| <b>自主事業A</b><br>ハイブリッド型日本語教育プログラム<br>と学習管理システム | インターカルト<br>日本語学校 | 東京都  | <b>自主事業D</b><br>VRを活用した新レッスン<br>－仮想空間での会話授業パッケージ | インターカルト<br>日本語学校 | 東京都  |
| <b>自主事業B</b><br>文法習得を目的とした<br>ビジュアル式学習アプリ      |                  |      | <b>自主事業E</b><br>Try from O(ゼロ) to A1             | アジア学生文化協会        | 東京都  |
| <b>自主事業C</b><br>AI対話型日本語会話                     |                  |      | <b>オンライン教師研修</b>                                 | 東京中央日本語学院        | 東京都  |

### 【実証事業】日本語教育機関一覧

| 教育機関名              | 都道府県 | 教育機関名                    | 都道府県 |
|--------------------|------|--------------------------|------|
| 日立さくら日本語学校         | 茨城県  | 名古屋国際学院                  | 愛知県  |
| 松戸国際学院             | 千葉県  | E C C日本語学院名古屋校           | 愛知県  |
| 国書日本語学校            | 東京都  | ノースリバー日本語スクール            | 愛知県  |
| サム教育学院             | 東京都  | 京都励学国際学院                 | 京都府  |
| 青山スクールオブジャパニーズ     | 東京都  | 日本語センター                  | 京都府  |
| ヒューマンアカデミー日本語学校東京校 | 東京都  | エール学園日本語教育学科             | 大阪府  |
| ジェット日本語学校          | 東京都  | 大阪外語学院                   | 大阪府  |
| 申豊国際学院             | 東京都  | 大阪YMCA国際専門学校・大阪YMCA学院    | 大阪府  |
| 九段日本文化研究所日本語学院     | 東京都  | 国際未来学院                   | 大阪府  |
| 江戸川国際学院            | 東京都  | ダイワアカデミー                 | 大阪府  |
| YIEA東京アカデミー        | 東京都  | 大阪国際教育学院                 | 大阪府  |
| カナン国際教育学院          | 東京都  | 大阪みなみ日本語学校               | 大阪府  |
| 理知の杜日本語学校東京校       | 東京都  | ループインターナショナル日本語学校        | 大阪府  |
| 東京日野国際学院           | 東京都  | 神戸東洋日本語学院                | 兵庫県  |
| E C C日本語学院新宿校      | 東京都  | コミュニケーション学院              | 兵庫県  |
| のぞみ日本語学校           | 東京都  | 西日本ビジネス語学学院              | 兵庫県  |
| 東京桜橋外語学院           | 東京都  | E C C日本語学院神戸校            | 兵庫県  |
| 相模国際学院             | 神奈川県 | AMA日本カレッジ                | 兵庫県  |
| 横浜国際教育学院           | 神奈川県 | 広島YMCA専門学校               | 広島県  |
| A.C.C.国際交流学園       | 静岡県  | 学校法人さくら国際学園専門学校さくら国際言語学院 | 山口県  |
| 静岡インターナショナルスクール    | 静岡県  | 専修学校久留米ゼミナル              | 福岡県  |
| 湘南日本語学園浜松校         | 静岡県  | 熊本YMCA学院日本語科             | 熊本県  |
| 上山学院日本語学校          | 愛知県  | 熊本工業専門学校日本語科             | 熊本県  |
| ARMS日本語学校          | 愛知県  | 国際言語文化センター附属日本語学校        | 沖縄県  |
| H&A日本語学校           | 愛知県  |                          |      |

5つの自主事業を通じた標準モデルの構築を目指し、  
ウィズコロナにおける持続的な日本語教育の在り方を検討しました。

### 自主事業の考え方

自主事業は複数の候補の中から、下記の「有効性」・「継続性」・「新規性」の3つの視点を有する事業を抽出。多様な5つの事業を選出して事業を推進した。

#### ■ 事業選定の基準

| No | 視点  | 備考  |  |
|----|-----|---|--|
| 1  | 有効性 | 現状の日本語教育における課題の抽出が適切か、また本事業で構築する解決策が有益なものか    | より多くの日本語教育機関が使用出来るよう、簡易なものから高度なものまで幅広いモデル構築を実施 |
| 2  | 継続性 | 様々なトライアルを通じ成功例や課題を抽出し、オンライン教育の礎となる取り組みになっているか | 単発ではなく、長かつ多数の日本語教育機関が参考に出来るモデル構築を実施            |
| 3  | 新規性 | 新しいテクノロジー技術の活用や新たなオペレーションのトライアルになっているか        | オンラインならではの、テクノロジーの活用、効率の良いオペレーションの確立を目指した取り組み  |

### プログラム開発・教材開発の一覧

#### ■ 自主事業概要一覧

| No    | 事業名                              | 自主事業<br>日本語教育機関 | 制作物  |
|-------|----------------------------------|-----------------|--|
| 自主事業A | ハイブリッド型日本語教育プログラムと学習管理システム       | インターカルト日本語学校    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・e-ラーニング教材</li> <li>・操作マニュアル</li> <li>・受講ガイド</li> <li>・オンデマンド動画</li> </ul>      |
| 自主事業B | 文法習得を目的としたビジュアル式学習アプリ            | インターカルト日本語学校    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習アプリ</li> <li>・教師向け動画</li> <li>・操作マニュアル/受講ガイド</li> </ul>                      |
| 自主事業C | AI対話型日本語会話                       | インターカルト日本語学校    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI学習アプリ</li> <li>・授業マニュアル</li> <li>・操作マニュアル/受講ガイド</li> </ul>                   |
| 自主事業D | VRを活用した新レッスン<br>ー仮想空間での会話授業パッケージ | インターカルト日本語学校    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業マニュアル</li> <li>・学習用テキスト</li> <li>・VRアプリ操作マニュアル</li> <li>・教師向け説明動画</li> </ul> |
| 自主事業E | Try from 0(ゼロ) to A1             | アジア学生文化協会       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習教材</li> <li>・補助教材</li> <li>・授業カリキュラム</li> </ul>                              |

多様な外国人に対応していく目的のため、『日本語教育の参照枠』に則した効果的なオンライン日本語教育プログラムを開発しました。

### 開発背景と概要

|             |  |
|-------------|--|
| 背景<br>(課題)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>①海外からの多様な外国人受け入れにより、多文化共生社会への対応も急務（外国人に対する日本語教育に関する各種法律が整備）</li> <li>②「日本語教育の参照枠」（2021年10月）が文化審議会国語分科会より報告され、これを踏まえ、「活用の手引き」（2022年1月）が取りまとめられた</li> </ul> |
| 概要<br>(解決策) | <p><b>多様な学習者が、日本社会の一員として、エンパワメントを発揮するための、効果的なオンライン日本語教育プログラムの開発</b></p> <p>多様な学び方のニーズに対応し、かつ日本語教育の参照枠に即した効果的なプログラム</p>   |

### 目標設定

|    |                            |
|----|----------------------------|
| 質  | 日本語能力・モチベーションの向上           |
| 運営 | 学習進捗の状況を把握した、適切な指導法の確立     |
| 構成 | オンライン教育のためのモデルとなるカリキュラムの構築 |

### 特徴

|     |  |
|-----|--|
| 有効性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>①初級修了（B1）から上級（C）まで、多様なレベル・対象者が利用可能</li> <li>②理解を促すオンデマンド動画により、教師の指導能力の差を補完</li> </ul>       |
| 継続性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>①学習者自身が自身の課題と進捗を確認することが出来るため、モチベーションを持続</li> <li>②学習者の個別データにより、教師は計画的な授業を行うことが可能</li> </ul> |
| 新規性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>①話す能力向上のためのハイブリッド型学習プログラムと評価ツールを搭載</li> <li>②数値の変化の確認により、動機付けやモチベーションを向上</li> </ul>         |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> <li>①学習者用に5言語の操作マニュアルを教材内に搭載</li> </ul>   |

### 想定する対象

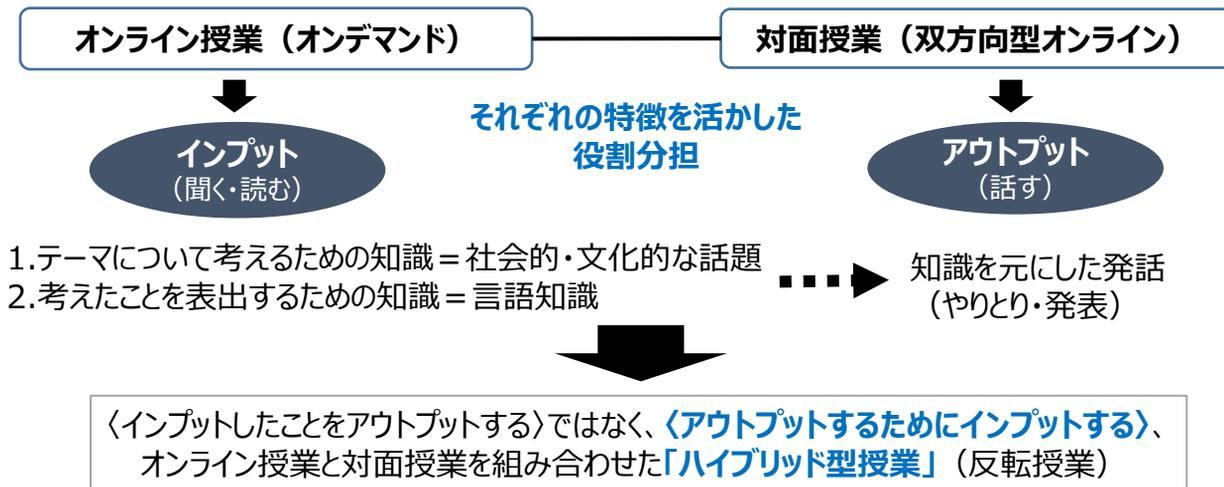
|      |                                 |
|------|---------------------------------|
| 対象   | B1、B2、C1（約20人）                  |
| 教育手法 | ハイブリッド（オンデマンド+双方向オンライン）         |
| 言語活動 | 話す（やりとり）、話す（発表）、聞く、読む、日本事情・日本理解 |

## 1. 自主事業A

## ：ハイブリッド型日本語教育プログラムと学習管理システム

## 実施概要（プログラムの形態）

本事業で「オンライン日本語教育の3つの構成要素」として、「質」（日本語能力・モチベーションの向上）、「運営」（学習進捗の状況を把握した、適切な指導法の確立）、「構成」（オンライン教育のためのモデルとなるカリキュラムの構築）を踏まえ、オンライン授業と対面授業それぞれの特徴を活かした、話す能力向上のためのハイブリッド型学習プログラムを開発した。



## 実施概要（プログラムの目標と「日本語教育の参照枠」における対象レベル）

## ■ 目標

新たに日本社会、企業、高等教育機関の中で生きようとする外国人の、エンパワメントの実現を目標とする。十分にインプットされた社会的・文化的知識を基盤とした自分自身の考えを、他者に伝え、やり取りすることによって人とつながり、自分らしさや本来持っている力を発揮、社会の一員として自立しあらゆる領域に参画できる人材を育成する。

※「日本語教育の参照枠」における言語教育観の柱とする、①学習者を社会的存在として捉える、②言語を使って「できること」に注目する ③多様な日本語使用を尊重する」を目標設定の基盤とした。

## ■ 対象レベル

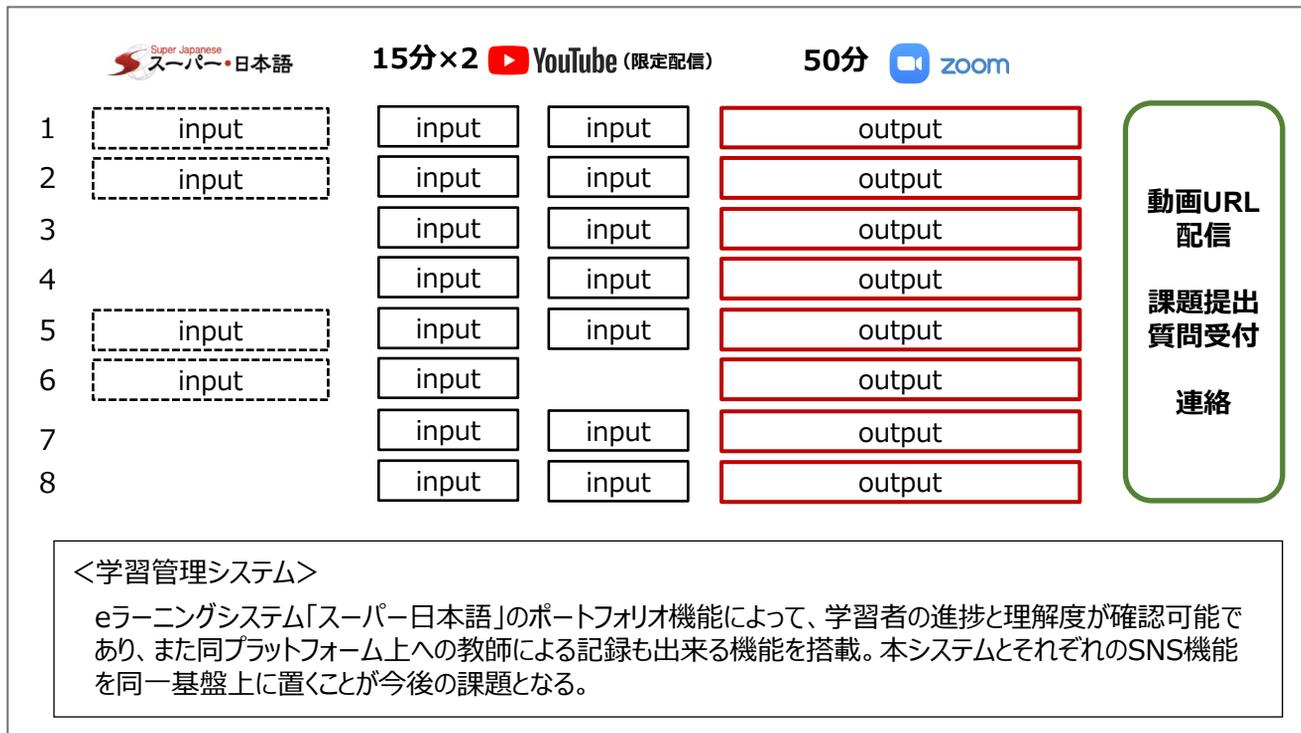
【理解】を基盤とした【話す】能力の育成を主眼に、B1をB2に、B2をC1にする。

| 段階        | レベル | 理解すること  |   | 話すこと  |  | 書くこと   |
|-----------|-----|---|---|---|--|--|
|           |     | 聞くこと  | 読むこと  | やり取り  | 発表   | 書くこと   |
| 熟達した言語使用者 | C2  | 生であれ放送されたものであれ、自然な速さで話されても、その話し方の癖に慣れる時間の余裕があれば、どんな種類の話し言葉も、難なく理解できる。   | 抽象的で、構造的にも言語的にも複雑な、例えばニュースや専門的記事、文学作品のテクストなど、専ら上あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。      | 慣用表現、口語表現をよく知っていて、いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。<br>自分を流ちょうに表現し、詳細に細かい意味のニュアンスを伝えることができる。表現上の困難に出合っても、周りの人がそれにほとんど気が付かないほどに修正し、修正の必要がない。 | 状況にあった文体で、はっきりとすらすらと流ちょうに記述や論述ができる。<br>効果的な論理構成によって聞き手に重要な点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。                                    | 明確な、流ちょうな文章を適切な文体で書くことができる。<br>効果的な論理構成で事情を説明し、その重要な点を読み手に気付かせ、記憶にとどめさせるように、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。仕事や文学作品の概要や評を書くことができる。             |
|           | C1  | たとえ構構がはっきりとなく、関係性が暗示されているに過ぎず、明示的でない場合でも、長い話が理解できる。特別の努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。  | 長い複雑な事象に基づいたテクストやテクニカルな文章の文体の違いを認識しながら理解できる。<br>自分の関連外の分野での専門的記事も長い技術的説明も理解できる。 | 言葉を味見せずに流ちょうに自然に自己表現ができる。<br>社会上、仕事上の目的に合った言葉遣いが、意のままに効果的にできる。<br>自分の考えや意見を正確に表現でき、自分の発言を上手に他の話の手の発言に合わせるができる。                        | 複雑な話題を、流暢な話し方で立ち入って詳しく論ずることができ、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。  | 適当な長さで纏ったの観点を示して、明確な構成で自己表現ができる。<br>自分が重要だと思う点を強調しながら、手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。<br>読者を念頭に置いて適切な文体を選択することができる。                         |
| 自立した言語使用者 | B2  | 長い会話や議論を理解することができる。また、もし話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑であっても理解できる。<br>大抵のテレビのニュースや時事問題の番組も分かる。<br>共通語の映画なら、大多数は理解できる。                         | 筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事や報告が読める。<br>現代文学の散文は読める。                               | 流ちょうに自然に会話をすることができ、熟達した日本語話者と普通にやり取りができる。<br>身近なコンテキスト(文脈・背景)の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明し、弁明ができる。  | 自分の興味関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。<br>時事問題について、いろいろな可能性の長所、短所を示して自己の見方を説明できる。                          | 興味関心のある分野内なら、幅広いいろいろな話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。<br>エッセイやレポートで情報を伝え、一定の視点に対する支持や反対の理由を書くことができる。<br>手紙の中で、事件や体験について自分ごととしての意義を中心に書くことができる。 |
|           | B1  | 仕事、学校、娯楽でふだん出合うような身近な話題について、明瞭で共通語による話し方の会話なら要点を理解することができる。<br>話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしていかなら、時事問題や、個人的話しは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。 | 非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテクストなら理解できる。<br>起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。     | 当該言語圏の旅行中に最も起こりやすい大抵の状況に対処することができる。<br>例えば、家族や趣味、仕事、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることと個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。                          | 簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語るることができる。<br>意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。<br>物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 | 身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテクストを書くことができる。<br>私信で経験や印象を書くことができる。   |

## 実施概要（プログラムの構成）

## ■ 授業形態

e-ラーニングによる自学自習教材を搭載した学習管理システムと、反転授業の形式によるカリキュラムを反映させたオンデマンド授業を「インプット」、双方向型オンライン授業を「アウトプット」とした。



## 制作物①インプット教材（e-ラーニング）

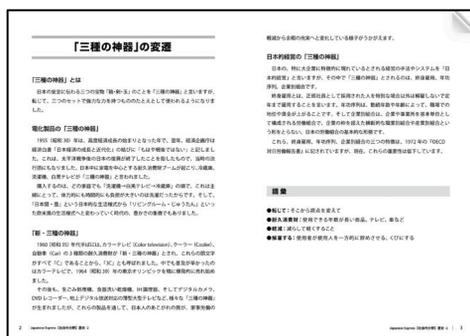
## ●【インプット教材】スーパー日本語



## ●マイページ：進捗管理画面



## ●読解テキスト



## ●マンガ教材

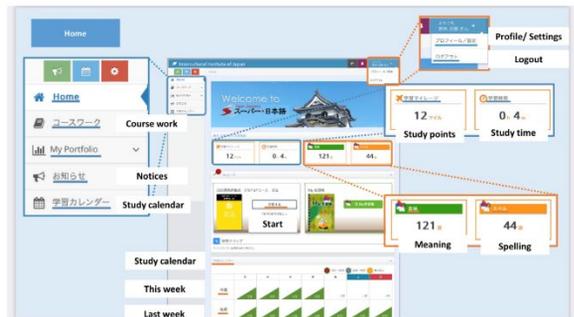
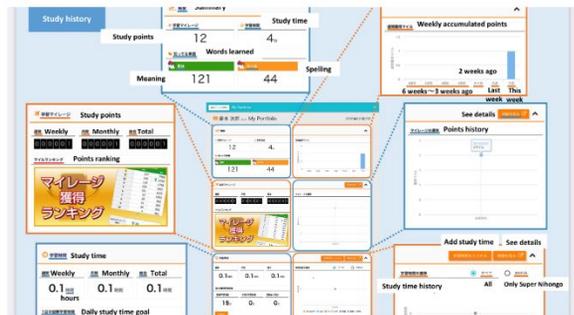
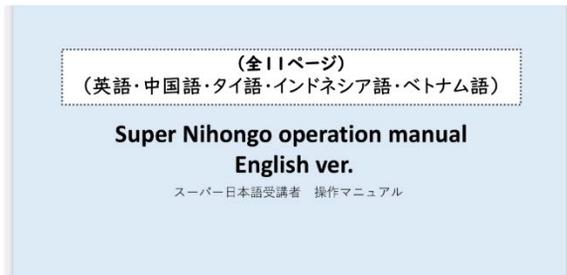


## 制作物①インプット教材 (e-ラーニング)

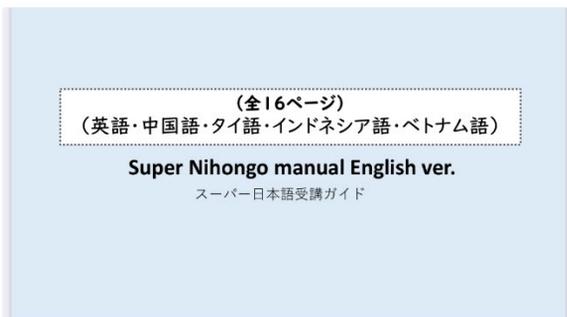
## ●e-ラーニング教材 (Reading Bank)



## ●e-ラーニング操作マニュアル



## ●e-ラーニング受講ガイド



- ▶ Study a course
  - ▶ Begin studying a course
  - ▶ Select a lesson
  - ▶ Select a tab/unit
  - ▶ Try course problems
  - ▶ Check problem explanations
- ▶ Check study history
  - ▶ Check study history
  - ▶ My Portfolio
  - ▶ Study time goal setting/add study time
- ▶ Change settings
  - ▶ Check settings
  - ▶ Change settings
  - ▶ Check notices
  - ▶ Logout from system

## Study a course -1 (Begin studying a course)



## Study a course -2 (Select a lesson)



## 制作物②インプット教材（オンデマンド動画）

## ●オンデマンド教材（コンテンツの内容）

|   | テーマ            |        | 対面授業での課題                | Aクラス (B2→C1) |
|---|----------------|--------|-------------------------|--------------|
| 1 | コンビニ業界好調       | 発表     | 自分にとって“コンビニ”はどんな存在か     |              |
| 2 | コンビニで働く人の事例    | インタビュー | 私が経験したカルチャーショック         |              |
| 3 | 非常時の買い占め       | 説明     | グラフからわかること              |              |
| 4 | 心理と生き方を考える     | 発表     | 私の人生のターニングポイント（メモにまとめる） |              |
| 5 | 地域おこしの方法は      | 説明     | 社会課題の現状と、その解決策          |              |
| 6 | SDGsで地域創生を実現   | 発表     | 私が考える「SDGsで地域創生」とは      |              |
| 7 | キャッシュレス化       | 説明     | キャッシュレス化に賛成か反対か         |              |
| 8 | withコロナのオンライン化 | 討論     | これからの日本語教育は…対面派vsオンライン派 |              |

|   | テーマ            |        | 対面授業での課題                | Bクラス (B1→B2) |
|---|----------------|--------|-------------------------|--------------|
| 1 | 日本の弁当は芸術的？！    | 発表     | 私の国の「ハレの日」の特別な料理は…      |              |
| 2 | コロナ後の社会の変化     | インタビュー | 私のコロナ後の変化               |              |
| 3 | SNSのメリット・デメリット | 説明     | グラフからわかること              |              |
| 4 | 自分自身について考える    | 発表     | 私の人生のターニングポイント（メモにまとめる） |              |
| 5 | 三種の神器の変遷       | 説明     | 私の「三種の神器」、その理由          |              |
| 6 | ジェンダーについて考える   | 発表     | 私が考えるジェンダーのこと           |              |
| 7 | 「今まで」と「これから」   | 説明     | 10年後の私                  |              |
| 8 | 見方を変えてみる       | 討論     | 私はこうやって日本語の“苦手”を克服した    |              |

## テスト施行の様子

## ●オンデマンド教材/配信動画（input）

各テーマの動画授業を作成し、毎週学習者に配信した。（15分×2本/週×8週間 ×2クラス）

## ●オンライン双方向授業（output）

eラーニングとオンデマンド動画のインプット授業で出された課題について、学習者一人一人が考えたり調べたりしてアウトプットのための準備をし、双方向授業に臨んだ。（50分/回/週×8週間 ×2クラス）

Aクラス



Bクラス



## 成果

事業の目標として設定した「質」、「運営」、「構成」について、以下の各方法により成果の確認をした。

|    |                            |
|----|----------------------------|
| 質  | 日本語能力・モチベーションの向上           |
| 運営 | 学習進捗の状況を把握した、適切な指導法の確立     |
| 構成 | オンライン教育のためのモデルとなるカリキュラムの構築 |

### ■ オンライン会話テストの実施：日本語能力

「PROGOS Japanese」（運営：レアジョブ社、東京外国語大学との共同研究により開発）を、プログラム開始前と終了時に学習者全員に対して実施した。

テストはCEFRの基準に準拠、①インタビュー、②音読、③スピーチ、④プレゼンテーション、⑤ロールプレイによる音声回答を通して、表現の幅、正確さ、流暢さ、やり取り、一貫性、音韻それぞれに対して評価。採点后、学習者各自に詳細なフィードバックが送信され、学習者はそれを意識しながらプログラムを受講、教師も各回の授業に課題を反映させた。

【結果】 テスト前後の評価・レベルがアップした学習者数  
（双方向型オンライン対面授業（50分/回×8回）終了後）

|      | Aクラス<br>n=6人 | Bクラス<br>n=8人 | 計<br>n=14人 |
|------|--------------|--------------|------------|
| 総合評価 | 2            | 3            | 5          |
| 表現の幅 | 0            | 0            | 0          |
| 正確さ  | 4            | 1            | 5          |
| 流暢さ  | 2            | 2            | 4          |
| やり取り | 1            | 2            | 3          |
| 一貫性  | 1            | 5            | 6          |
| 音韻   | 0            | 0            | 0          |

「PROGOS Japanese」評価者からの全プログラム終了後の総合コメントにおいて、以下に顕著な向上が見られたとの分析が示された。

- ・話の展開の仕方
- ・構文の使用
- ・発話の一貫性

これらは、共有されたプログラム開始前のテスト結果を踏まえて教師が特に重点を置いて授業に反映させた項目だった。

### ■ アンケートの実施：モチベーション・適切な指導法の確立・オンライン教育のためのカリキュラム構築

#### ■ 総合的な満足度はどのくらいでしたか

- ①とてもよかった 75%  
②よかった 25%

#### ■ 満足だった理由は何ですか（複数回答）

- ①授業・コンテンツの内容 100%  
②先生の教え方 79%  
③授業の受けやすさ 64%

#### ■ 不満だったのは何ですか（複数回答）

- ①なし 79%  
②先生やクラスメイトと会えなかった 17%  
③その他 29%  
（授業時間の短さ・通信環境の問題）

#### ■ 今後も今回のような動画予習と対面授業を組み合わせたいですか

- ①とても続けたい 50%  
②続けたい 50%

## 成果

## ■ インタビューの実施：モチベーション・オンライン教育のためのカリキュラム

今回の形態の授業（オンデマンド動画＋オンライン対面授業）はどうか

- ・予習動画では、見逃したところやわからないところが何度も繰り返し見られた。流れがわかりやすかった。
- ・普通の文化の話ではない社会的な大人の話、トピックが出てきて楽しかった。これは重要なポイント。
- ・友だちだけでなく先生とも意見やアイデアの交換でき、共感できることも多くとても勉強になった。

## ■ 授業への参加率：モチベーション

出席率（双方型オンライン対面授業）：94.6%（Aクラス 91.6% Bクラス 97.5%）

【有識者のコメント】※ 松岡洋子先生：岩手大学教授 文化審議会「日本語教育の参照枠補遺版に関する検討WG」委員

- ・日本語のクラスが、ただ文法や語彙を増やすというだけでなく、学生にとって新しい世界を知るきっかけになるという意味で、このような授業は非常に良い。
- ・オンラインは独特の配慮が必要。間の取り方、理解の確認の仕方などを取り入れることにより、「参照枠」での仲介力や文化対応力を含めたコミュニケーション能力を伸ばすことができるのではないかと。
- ・考えを深めるために、グループ活動等で複言語環境を整え、自分の考えを仲間とシェアするのもよい。

## 実施結果

クラス名称：Aクラス（多様な属性・国内外）

教師名：加藤、佐藤

クラス名称：Bクラス（多様な目的・国内留学生）

教師名：佐藤、加藤

|          |   |
|----------|---|
| 受講者レベル   | B2  |
| 言語活動     | 話す（やりとり・発表）・聞く・読む・日本事情  |
| 重点Can-do | 【目的達成のための協同作業】原因や結果を推測し、異なるアプローチの利点と不利な点を比較考量しながら、論点や問題の概略をはっきりと述べるができる |
| 教育方法     | ハイブリッド（オンデマンド＋双方向）  |
| 人数       | 7名  |
| 属性特長     | タイ3名、中国1名、台湾1名、マレーシア1名、香港1名   |
| 授業回数     | オンデマンド16回・双方向8回   |

|          |   |
|----------|---|
| 受講者レベル   | B1  |
| 言語活動     | 話す（やりとり・発表）・聞く・読む・日本事情  |
| 重点Can-do | 【長く一人で話す：経験談】現実や想像上の出来事を述べるができる<br>【情報の交換】細かい指示をしながら、やり方を説明することができる |
| 教育方法     | ハイブリッド（オンデマンド＋双方向）  |
| 人数       | 8名  |
| 属性特長     | 中国3名、ブラジル1名、イタリア1名、ロシア1名、香港1名、アルゼンチン1名                              |
| 授業回数     | オンデマンド16回・双方向8回   |

## 課題・今後の展開

|       |  |
|-------|--|
| 課題    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・e-ラーニング、オンデマンド動画、双方向授業が一つのプラットフォーム上にあることが必要</li> <li>・オンデマンド動画作成のための教師の負担軽減のため、ある程度の教材化が必要</li> <li>ただし、教師によるより創造的な授業提供につながるため、どこまで画一化するかは課題</li> <li>・1回の双方向型オンライン対面授業で学生数一人一人が十分に発話できる設定時間と学習者数を再考する必要（学習者8人に対して授業時間50分は短すぎた）</li> <li>・「日本語教育の参照枠」とプログラムの整合性をよりとることが必要</li> </ul> |
| 今後の展開 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体系的テーマの設定、「日本語教育の参照枠」とのレベルの整合性の検討、プラットフォームの整備、アウトプットの時間配分の見直し等を行うことにより、あらゆる対象者や受講地域に対して効率的な教育の形として展開すること</li> <li>・A1、A2レベルの学習者へのハイブリッド型反転授業の展開も需要の可能性が十分あること</li> <li>・目的を持ったアウトプット授業のためのインプット教材としてのオンデマンド授業の作成と授業の実施を、教師研修として展開すること</li> </ul>                                     |

文法学習の標準化、会話力を向上していく目的のため、学習アプリとオンライン会話授業を融合させた、オンデマンド教材を開発しました。

### 開発背景と概要

|             |  |
|-------------|--|
| 背景<br>(課題)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 多種多様な学習者の増加に伴い、時間の限られた授業だけでは文法理解に差が出ており、本来は個別フォローが必要であるものの、実施できていない</li> <li>② 授業では文法説明や定型的な練習に時間をかけている為、会話等の実際に日本語を使えるようにする時間が十分に取れていない</li> <li>③ オンライン授業での自習は、必ずしもオンラインの特性を踏まえた内容ではなく、対面授業の延長線上で行われていることが多い</li> </ul> |
| 概要<br>(解決策) | <p><b>オンライン 反転授業のための、スマートフォン教材アプリの開発</b></p> <p>音声聞き取り、自身で発話したものをアプリが判定することで授業理解の定着及び発話の促進を図る</p>  |

### 目標設定

|    |                         |
|----|-------------------------|
| 質  | 学習者のモチベーション維持・向上        |
| 運営 | アプリの活用のしやすさ・効果的な活用方法の確立 |

### 特徴

|     |   |
|-----|---|
| 有効性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 各場面のシーンや音声会話など、実際の会話をベースに学習が可能</li> <li>② 文法構造のアニメーション表示により、直感的な文法理解が可能</li> </ul> |
| 継続性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 文型単位の構成となり、各校が使用する初級の日本語教材に対応が可能</li> <li>② 積み上げ式教材のため、継続的な能力の向上が見込まれる</li> </ul>  |
| 新規性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>① アニメーション表示による学習による学習機能が搭載</li> <li>② 再生された音声を聞き取り、自身で音声入力したものをアプリが判定</li> </ul>     |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教師によるオンライン授業では会話能力の向上に専念することが可能</li> </ul>   |

### 想定する対象

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 対象   | A1 (約40人)                  |
| 教育手法 | オンデマンド                     |
| 言語活動 | 話す (やりとり)、話す (発表)、聞く、読む、書く |

## 実施概要

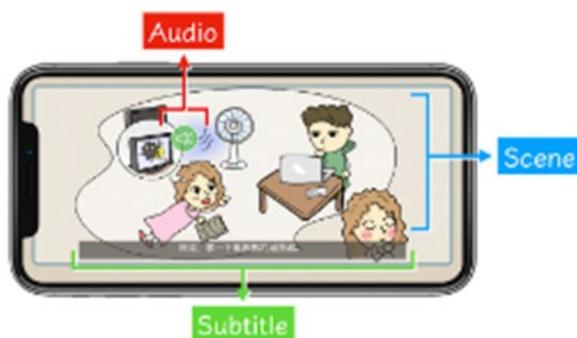
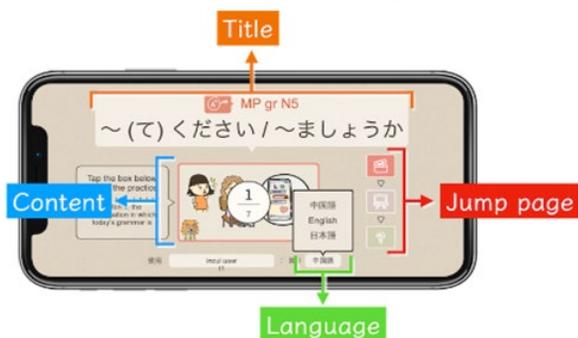
授業前に、学習者が自宅でアプリを使用し、文型の意味をあらかじめ理解してから授業に臨む反転授業のスタイル。期間は6週間で、アプリを使用するクラスと使用しないクラスで比較した。アプリを使用するクラスも前半2週間はアプリを使用せず、その違いを学生、教師にアンケートで尋ねた。

| 月                    | 火         | 水            | 木         | 金            |
|----------------------|-----------|--------------|-----------|--------------|
| みんなの日本語<br>L1/L2-1~5 | L2-6/L3   | 復習A<br>会話テスト | L4        | L5           |
| L6-3~3               | L6-4,5    | L7-1~3,6     | L7-4,5    | 復習B<br>会話テスト |
| L8-1,2 🎬             | L8-3      | L9 🎬         | 祝日        | L10-1~3 🎬    |
| L10-4,5 🎬            | L11 🎬     | L12-1,2      | L12-3~5 🎬 | 復習C<br>会話テスト |
| L13-1~3 🎬            | L13-4 🎬   | 会話           | L14-1~3 🎬 | L14-4 🎬      |
| L15 🎬                | L16-1,2 🎬 | 祝日           | L16-3,4 🎬 | 復習D<br>会話テスト |

## 制作物

●コンテンツのメイン画面：各文型15分程度の動画になっている。各文型ごとに、会話、文法、発話の3つのセクションに分かれている。

●①会話場面セクション：今回勉強する文型が使用されている。字幕は多言語で作成。



●②文法解説セクション：字幕は多言語対応。一部音声流れる。

●③発話練習セクション：音声を聞いて自分の口で言う練習をする。正誤判定ができる。



# 1. 自主事業B : 文法習得を目的としたビジュアル式学習アプリ

## 制作物

- 学生が学習結果を教師に送り、教師が確認することができる



- 担当教師向け説明動画

**C : ①文法説明動画の使用  
②日報の記入  
③復習日ごとの会話テストの実施  
④アンケートの実施**

- 担当教師向け説明文書

文化庁補正予算事業 自主事業B「MagicPocket文法」 221013

先生方へ

### ■J1c、dの学生へのアナウンス

#### 岩井先生、橋

10月17日(月)「復習A,B,C,Dの日に会話テストをします。11/4、11/18は時間があつたら簡単に会話チェックをします。」

10月19日(水)復習A J1c:岩井先生 J1d:内藤先生  
10月28日(金)復習B J1c:橋 J1d:田村先生  
11月4日(金)中間会話テスト J1c:橋 J1d:田村先生  
11月11日(金)復習C J1c:橋 J1d:田村先生  
11月18日(金)中間会話テスト J1c:橋 J1d:田村先生  
11月25日(金)復習D J1c:橋 J1d:田村先生

### ■J1c、dの会話テストの方法

#### 内藤先生、岩井先生、田村先生、橋

①評価は会話テスト用紙に記入(用紙はダウンロードしてお使いください)

②会話テストは全て録音する

### ■J1cの学生へのMP文法使用初日アナウンス・ダウンロード

#### 橋

10月28日(金) ※15分程度

L8-16の一部の文型で、学生がFinger Board内のMagic Pocket文法(MP文法)を使って事前に学習してから授業に臨みます。(各回15-20分程度)  
学生にはこの事業の趣旨を説明し、MP文法をダウンロードしてもらい、使い方の説明、やることの説明を行います。  
やること:授業までにMP文法を見て、話すチェックのスコアをメールで送る

MP文法教材の使い方

(ダウンロード、教材の構成、操作などが記載されています)

<https://fingerboard-app.com/products/sss/gr-intro-guide/>

### ■J1cの学生への毎回のアナウンス

#### 岩井先生、橋

| no. | 声かけ | アナウンス日   | 授業日      | MP文法No. | 課          | 文法項目         | 注意事項                  |
|-----|-----|----------|----------|---------|------------|--------------|-----------------------|
| 1   | 橋   | 10/28(金) | 10/31(月) | 0.2     | ○ 8課1, 2   | 形容詞現在        |                       |
|     |     |          | 11/1(火)  |         | × 8課3      | 形容詞の名詞修飾     |                       |
| 2   | 町田  | 11/1(火)  | 11/2(水)  | 1.3     | ○ 9課       | ～が好き上手わかるある  | 1.3課「ほしい」と一緒に提示       |
| 3   | 町田  | 11/1(火)  | 11/2(水)  | 1.4     | ○ "        | ～から(理由)      | 「けど」と一緒に提示            |
| 4   | 岩井  | 11/2(水)  | 11/4(金)  | 1.2     | ○ 1.0課1～3  | ～に～があります     |                       |
|     | 橋   | 11/4(金)  | 11/7(月)  |         | ○ 1.0課4, 5 | ～は～にあります     |                       |
| 5   | 橋   | 11/7(月)  | 11/8(火)  | 0.9     | ○ 1.1課     | 数            |                       |
|     |     |          | 11/8(火)  |         | × "        | ～に何回         |                       |
|     |     |          | 11/8(火)  |         | × "        | ～時間、週間、～か月、  |                       |
|     |     |          | 11/9(水)  |         | △ 1.2課1, 2 | 形容詞過去        | 8課で補足として提示            |
|     |     |          | 11/10(木) |         | △ 1.2課3, 4 | ～は～より        | 「～より～のほうがいい」の形で提示     |
| 6   | 岩井  | 11/9(水)  | 11/10(木) | 1.5     | ○ "        | ～と～どちらが      |                       |
|     | 岩井  | 11/9(水)  | 11/10(木) |         | ○ "        | ～のほうが        |                       |
| 7   | 岩井  | 11/9(水)  | 11/10(木) | 1.6     | ○ 1.2課5    | ～で～がいちばん     |                       |
|     | 中村  | 11/10(木) | 11/11(金) |         | —          | 復習C          |                       |
|     |     |          | 11/14(月) |         | △ 1.3課1    | ～がほしいです      | 上手好きのところで提示           |
| 8   | 橋   | 11/11(金) | 11/14(月) | 2.1     | ○ 1.3課2, 3 | ～たいです        |                       |
| 9   | 橋   | 11/14(月) | 11/15(火) | 3.0     | ○ 1.3課4    | ～へ～に行きます     |                       |
| 0   | 岩井  | 11/16(水) | 11/17(木) | 2.2     | ○ 1.4課1～3  | ～てください       |                       |
|     |     |          | 11/17(木) |         | × "        | ～ましょうか       | 6課「ませんか、ましょう」の補足として提示 |
| 1   | 中村  | 11/17(木) | 11/18(金) | 2.9     | ○ 1.4課4    | ～ています(現在進行)  |                       |
| 2   | 橋   | 11/18(金) | 11/21(月) | 2.3     | ○ 1.5課     | ～てもいいですか     |                       |
|     | 橋   | 11/18(金) | 11/21(月) |         | ○ "        | ～てはいけません     | ～てもいいですかと一緒に提示        |
|     |     |          | 11/21(月) |         | △ "        | ～てはいけません     | 1.4課「～ています」の補足として提示   |
|     |     |          | 11/21(月) |         | △ "        | (結果状態・習慣・職業) |                       |

## 制作物

### ● 操作マニュアル 受講ガイド

授業の初めにアプリをインストールし、ログインと教材のダウンロードを行った。

#### Magic Pocket Grammar スタートガイド

HOME / Magic Pocket Grammar スタートガイド

|         |
|---------|
| ホーム     |
| 概要      |
| 内容      |
| 製品 B 価格 |
| サポート    |

|                 |
|-----------------|
| 目次              |
| 1. 使用の準備        |
| 2. 教材のダウンロード    |
| 2.1 ログインガイド     |
| 2.2 教材ダウンロードの概要 |
| 3. 機能紹介         |
| 3.1 クイズ機能       |
| 3.2 再生制御ボタン     |
| 3.3 再生設定        |
| 4. 発話練習         |
| 4.1 発話練習        |
| 4.2 発話練習        |

#### 1. 使用の準備

この教材は「Finger Board for Students」アプリにて動作します。まず、① アプリをインストールして、それから、② 教材サーバーにログインして教材をダウンロードしてください。

※注意：現在、この教材はベータ版アプリでのみ動作します。アプリはアプリストアからではなく、以下のリンク先からダウンロードしてください。

##### ① アプリのインストール

以下のボタンをタップして、リンク先の指示に従って Finger Board for Students のベータ版をインストールしてください。

##### ① iPhone / iPad

インストール

##### ① Android

インストール

##### ② ログインと教材のダウンロード

アプリをインストールしたら、アプリ内から教材サーバーにログインして、教材をダウンロードできます。以下のボタンをタップすると、教材サーバーへのログイン方法と教材のダウンロード方法が表示されます。

※ ログイン用の ID やパスワードは担当の教師、もしくは学校の管理者からお聞き下さい。

スタートガイド

##### ② ログインと教材のダウンロード

会議画面で表示される字幕を表示しないようにするには、このスイッチをオフにしてください。

#### 4. 発話練習

##### 4.1 ボタン



##### ① クイズ移動ボタン

前のクイズや次のクイズに移動するには、このボタンをタップしてください。現在の問題を飛ばすか次のクイズに乗り進めるかは、現在のクイズは正解と判定されます。

##### ① ページ条件レベル

現在、全ページ中の何ページ目かの作業が行っているのが表示されます。

##### ① 終了ボタン

クイズを終了してメインメニューに戻るには、このボタンをタップします。全てのクイズに答える前に終了すると、学習結果は記録されません。

##### 4.2 発話練習



##### ① 文章を音声で聞く

このアイコンをタップして文章を音声で聞きます。



##### ② 文章を口読で入力

このボタンをタップして、口読で文章を入力します。入力が完了したら、チェックマークのアイコンをタップして正誤判定を行います。



##### ③ 文字で文章を表示

文章を文字で表示するには、このアイコンをタップしてください。



#### 3. 視聴操作

##### 3.1 ボタンと機能



##### ① 再生制御ボタン

これらの再生制御ボタンは、ムービーが停止中に表示されます。このボタンについては、次の節で詳しくみます。

##### ① 選択表示

このバーは現在のページの進行度合いを示しています。左の数字は全ページ中の何ページ目かを示しています。

##### ① 再生設定ボタン

再生設定を行うには、このアイコンをタップします。再生設定については後の節で見ます。



##### ① 終了ボタン

視聴を終了してメインメニューに戻るには、このアイコンをタップしてください。



##### ① ボタンの表示・非表示

これらのボタンを非表示にして学習内容を全画面表示するには、画面上の任意の場所をタップしてください。これらのボタンを再表示したい場合は、画面上の任意の場所を再度タップしてください。

##### 3.2 再生制御ボタン



##### ① 自動再生ボタン

全ての内容を、段階ごとにとストップしないで再生するには、画面右下のこのボタンをタップし

## 実施結果

クラス名称：インターカルト日本語学校

J1c

教師名：中村、岩井、町田、椿

|          |   |
|----------|---|
| 受講者レベル   | A1  |
| 言語活動     | 話す（やりとり）  |
| 重点Can-do | 【目的達成のための協同作業】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる。短い簡潔な指示を理解できる |
| 教育方法     | 対面  |
| 人数       | 19  |
| 属性特長     | 中国4名、ヨーロッパ12名、北アメリカ1名、南米1名、オセアニア1名                      |
| 授業回数     | 27回（アプリを使用したクラス）  |

クラス名称：インターカルト日本語学校

J1d

教師名：篠遠、内藤、岩井、田村

|          |   |
|----------|---|
| 受講者レベル   | A1  |
| 言語活動     | 話す（やりとり）  |
| 重点Can-do | 【目的達成のための協同作業】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる。短い簡潔な指示を理解できる |
| 教育方法     | 対面  |
| 人数       | 20  |
| 属性特長     | 中国・台湾3名、ヨーロッパ10名、北アメリカ6名、オセアニア1名                        |
| 授業回数     | 27回（アプリを使用しなかったクラス）                                     |

## テスト試行の様子

- 音声入力をしています



- 音声入力の正誤判定がされます



## 課題・今後の展開

|       |   |
|-------|---|
| 課題    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前に、確実に動画を見てくる仕掛けが必要</li> <li>・教師が、これまでの導入から会話練習のやり方を工夫する必要がある</li> <li>・アプリのシステム改善</li> </ul>   |
| 今後の展開 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の実証事業において、本アプリを使用することで、モチベーションの維持・向上、授業内の導入の時間を短縮すること、会話の機会を増やすことに一定の効果があったと思われる。今後、アプリ使用期間を延ばして、さらに変化を見ていきたい。</li> <li>・反転授業の効果がみられるようであれば、今後、導入方法、会話練習などについてやり方を検討していきたい。</li> <li>・アプリ制作は、時間の制約の中で準備期間が十分にとれておらず、若干のバグがあるため、改善の余地がある。</li> </ul> |

発話機会を補う目的のため、AI技術を活用した対話型学習アプリとオンライン授業を融合させた、オンデマンド教材を開発しました。

### 開発背景と概要

|             |  |
|-------------|--|
| 背景<br>(課題)  | ①海外で日本語を耳にする機会が増えつつも、発話する機会は依然として少ない<br>②動画教材は多数存在するが、一方的な学習方法に終始してしまっている  |
| 概要<br>(解決策) | <b>文化庁「つながるひろがる にほんごでの暮らし」を基に、<br/>AIを活用した会話練習用の補助教材の開発</b><br><br>手軽に、双方向で発話の練習をすることができる機会を提供し会話力とモチベーションの向上を図る |

### 目標設定

|    |                               |
|----|-------------------------------|
| 質  | 発話に対する自信を持たせ、日本語を話すことへの抵抗感を軽減 |
| 運営 | アプリの活用のしやすさ・効果的な活用方法の確立       |

### 特徴

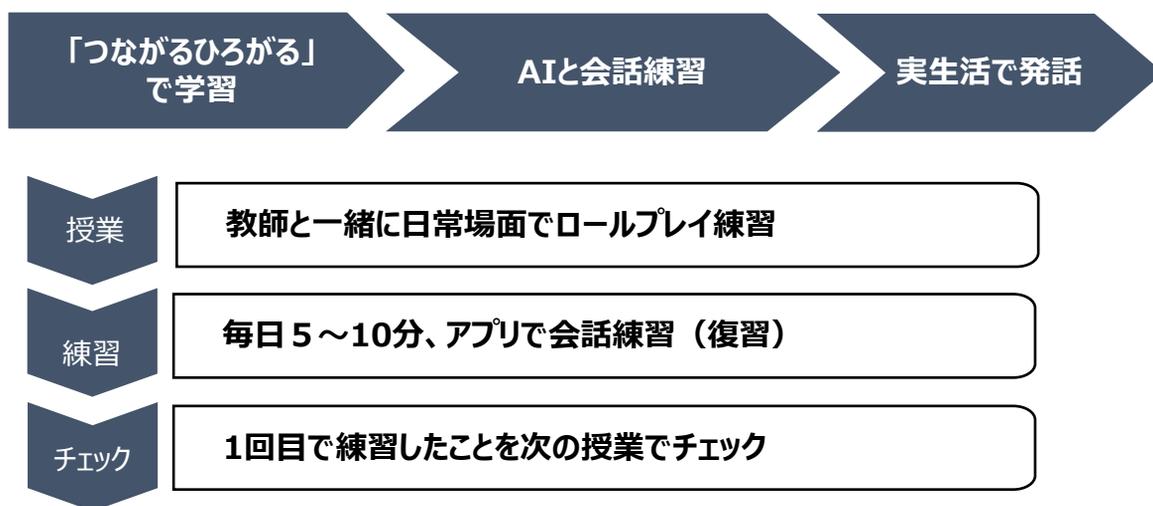
|     |   |
|-----|---|
| 有効性 | ①「つながるひろがる にほんごでの暮らし」を補完教材によって会話力の育成にも活用することが可能<br>②属性に関係なく、来日前、来日後のすべての外国人が利用が可能 |
| 継続性 | ①「つながるひろがる にほんごでの暮らし」公開から3年で十分な継続性を有している<br>②本教材は「できる (can-do) 」視点からの学習意欲向上に寄与    |
| 新規性 | ①専門家が作ったシナリオとAI機能により、定型文の会話練習の枠を超えた学習<br>②AIと自然な会話をしながら「使える日本語」の力をつけることが出来る       |
| その他 | ①「つながるひろがる にほんごでの暮らし」の使い方は文化庁HPに完備  |

### 想定する対象

|      |                 |
|------|-----------------|
| 対象   | A1,A2,B1 (約30人) |
| 教育手法 | オンデマンド          |
| 言語活動 | 話す (やりとり)       |

## 実施概要

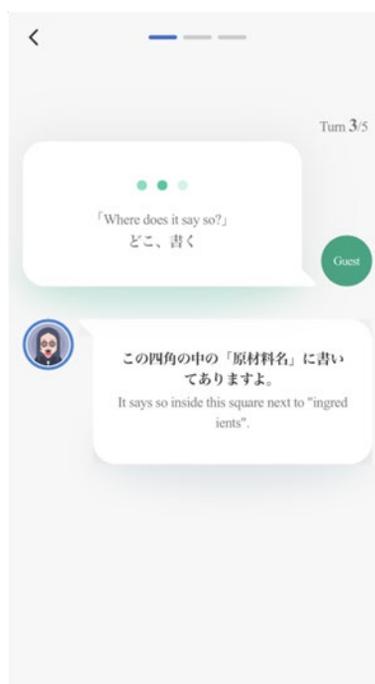
本教材は、学習者がオンライン授業で行った学習内容を実生活で発話する前に、授業後のオンデマンド教材として自習を行い、次のオンライン授業の中で学習状況等のチェックを行う。



「授業（50分）＋ 毎日補助教材使用（AIアプリ）」を4回実施

## 制作物

## ● AIアプリ





## 実施結果

クラス名称：インターカルトJ3クラス

教師名：岡田

|          |   |
|----------|---|
| 受講者レベル   | B1  |
| 言語活動     | 話す（やりとり）  |
| 重点Can-do | 【非公式の議論（友人との）】何をしたいか、どこに行きたいか、誰を選ばよいか、又はどちらを選ばよいか、などを議論し、代案を比較対照できる     |
| 教育方法     | 対面  |
| 人数       | 24名   |
| 属性特長     | スウェーデン、ロシア、アメリカ・中国、スペイン、台湾、カナダ、韓国、ドイツ、オーストラリア、ポーランド、イギリス、香港（20～30代・留学生） |
| 授業回数     | 4回  |

クラス名称：インターカルトJ2クラス

教師名：坂本

|          |   |
|----------|---|
| 受講者レベル   | A1                                      |
| 言語活動     | 話す（やりとり）                                |
| 重点Can-do | 【製品やサービスを得るための取引】日用品やサービスを求めたり、提供したりできる |
| 教育方法     | 対面                                      |
| 人数       | 7名                                      |
| 属性特長     | タイ、台湾、中国、メキシコ、スペイン（20～50代・留学生）          |
| 授業回数     | 4回                                      |

クラス名称：フロムココ白河FS1クラス

教師名：石橋

|          |                                    |
|----------|------------------------------------|
| 受講者レベル   | A1                                 |
| 言語活動     | 話す（やりとり）                           |
| 重点Can-do | 【目的達成のための協同作業】人に物事を要求したり、与えることができる |
| 教育方法     | 対面                                 |
| 人数       | 1名                                 |
| 属性特長     | フィリピン（30代・主婦）                      |
| 授業回数     | 4回                                 |

クラス名称：フロムココ白河FS2クラス

教師名：石橋

|          |  |
|----------|--|
| 受講者レベル   | A2～B1  |
| 言語活動     | 話す（やりとり）   |
| 重点Can-do | 【製品やサービスを得るための取引】日用品やサービスを求めたり、提供したりできる<br>【非公式の議論（友人との）】何をしたいか、どこに行きたいか、誰を選ばよいか、又はどちらを選ばよいか、などを議論し、代案を比較対照できる |
| 教育方法     | 対面   |
| 人数       | 8名   |
| 属性特長     | インドネシア（就労）   |
| 授業回数     | 4回   |

## テスト試行の様子

## ● 対面授業



## ● アプリにて練習中



## 課題・今後の展開

|       |   |
|-------|---|
| 課題    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アプリでの自習の習慣を定着させること</li> <li>・アプリ技術の問題               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 音声を人間のものにする</li> <li>② 音声判定の技術向上</li> <li>② 教師がアレンジできるようにする</li> </ul> </li> </ul>   |
| 今後の展開 | <p>今回の実証で以下の様に、AIアプリが日本語学習に有効であることが検証できたが、取り組むべき課題も明らかになったため、それらに取り組んでいく。</p> <p>【AIアプリに有効性があるという検証結果】 ※一部抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者アンケート<br/>「アプリの利用で日本語学習は楽しくなりましたか」の質問に対し、83.4%が「とても楽しかった／楽しかった」と回答</li> <li>・教師アンケート<br/>「クラスに対する満足度」の項目で、「満足している点」として「これまで『話す』練習は宿題にできなかったが、アプリにより授業内では十分にできない練習を自宅ですることができる。またそれによって定着が図れそうだと期待が持てた。」という回答が得られた。</li> </ul> <p>【取り組むべき課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アプリの機能アップ（音声・Learning Management System ※以降LMS）</li> <li>・授業にどう取り入れていくかを検討（自習習慣の定着も含める）</li> <li>・コンテンツのアレンジを自由にしていく</li> </ul> |

発話機会の増加、学習モチベーション向上を目的とした、  
VR技術を活用した新しいオンライン日本語教育プログラムを開発しました。

### 開発背景と概要

|             |   |
|-------------|---|
| 背景<br>(課題)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>①英語教育と比較し、日本語教育は、ICT化への取り組みが遅れている</li> <li>②会話学習は、教室内で場面をイメージしながら練習することに限界がある</li> <li>③オンラインは、話者が一人になりがち、発話チャンスが十分でないことも多い</li> </ul> |
| 概要<br>(解決策) | <p><b>VRとオンライン授業を組み合わせた会話授業のパッケージ開発</b></p> <p>疑似体験を通じた、実践的な会話力を向上させ「Zoom授業によるインプット」と「VRによるアウトプット」による組み合わせ</p>  |

### 目標設定

|    |                                |
|----|--------------------------------|
| 質  | 学習者のモチベーション維持・向上               |
| 運営 | ICT化のオペレーション効率化に向けた課題整理と方向性の策定 |

### 特徴

|     |   |
|-----|---|
| 有効性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>①来日できない学習者に、留学の疑似体験を提供し、留学モチベーションを向上</li> <li>②オンライン授業と組み合わせることで、アウトプットをさせる必然性を創出</li> </ul> |
| 継続性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>①ゲーム感覚での学習による、モチベーションの維持が可能</li> <li>②レベルに応じた対応ができるため、スキルアップなど継続的な学習が可能</li> </ul>           |
| 新規性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>①今後、期待されているVR授業の実践</li> <li>②日本語教育のノウハウとVR技術の融合による、新しい体験型学習の提供</li> </ul>                    |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> <li>①教師用にVR操作、および本教材を授業で活用するためのオリエンテーションを実施</li> </ul>   |

### 想定する対象

|      |             |
|------|-------------|
| 対象   | A1 (約30人)   |
| 教育手法 | オンデマンド      |
| 言語活動 | 話す(やりとり)、聞く |

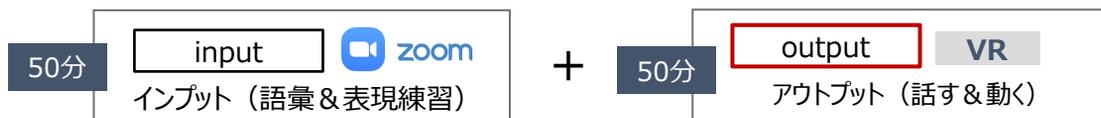
実施概要

「オリエンテーション」、「空港」「カフェ」と3つのVR空間を構築し、A1レベルを対象としたプログラムを構成。

|        | 【zoom】50分   | 【VR】50分 | 【zoom】50分  | 【VR】50分 | 【zoom】50分  | 【VR】50分 |
|--------|---|---------|--|---------|--|---------|
|        | オリエンテーション   |         | ①空港  |         | ②カフェ   |         |
|        | インプット   | アウトプット  | インプット  | アウトプット  | インプット  | アウトプット  |
| VRシーン  | ウエルカムデッキ  |         | 空港(airport)機内&入国審査   |         | カフェ(coffee shop)   |         |
|        |  |         |   |         |  |         |
| 参照枠    | A1【対話相手の理解】<br>(3) 自分に向けられた、注意深く、ゆっくり表現された質問や指示を理解できる。短い簡単な指示を理解できる。              |         | A1【情報の交換】<br>(12) 簡単な質問を聞いて、答えたりすることができる。直接必要なこと、若しくはごく身近な話題についての簡単な話題についての簡単なことを、自分から言ったり、相手の言ったことに反応できる。<br>(13) 自分自身や他人の住まい、知人、所有物などについて質問を受けたり、答えたりすることができる。 |         |  |         |
| Can-do | 聞いて、動いてみよう  |         | 自己紹介ができる。<br>滞在についての期間や理由が簡単に言える。  |         | お店で注文が出来る。<br>身近な話題の簡単なやり取りができる。   |         |

●プログラムの構成

Zoomによる授業（インプット）+を使用した授業（アウトプット）を1セットとし、計3セットの授業を実施。



制作物

●授業マニュアル（語彙・表現リスト）

各回のzoom授業、VR授業の語彙・表現を記載したマニュアル

| 単元     | 501回   | 502回   | 503回  | 504回   | 505回   | 506回   |  |
|--------|--|--|---|--|--|--|--|
|        | オリエンテーションウエルカムデッキ  | ウエルカムデッキ   | 空港  | 空港   | カフェ  | カフェ  |  |
|        | インプット  | アウトプット   | インプット   | アウトプット   | インプット  | アウトプット   |  |
| VR     |  | ウエルカムデッキ   | 空港(airport)機内   | 空港(airport)入国審査  | カフェ(coffee shop)   | カフェ(coffee shop)   |  |
| 参照枠    |  | A1【対話相手の理解】 (3) 自分に向けられた、注意深く、ゆっくり表現された質問や指示を理解できる。短い簡単な指示を理解できる。  | A1【情報の交換】 (12) 簡単な質問を聞いて、答えたりすることができる。直接必要なこと、若しくはごく身近な話題についての簡単な話題についての簡単なことを、自分から言ったり、相手の言ったことに反応できる。<br>(13) 自分自身や他人の住まい、知人、所有物などについて質問を受けたり、答えたりすることができる。 |  |  |  |  |
| Can-do | 聞いて、動いてみよう   |  | 自己紹介ができる。<br>滞在についての期間や理由が簡単に言える。   |  | お店で注文が出来る。<br>身近な話題の簡単なやり取りができる。   |  |  |
| 語彙     | 【挨拶】<br>こんにちは<br>おはよう<br>さようなら<br>【自己紹介】<br>名前<br>年齢<br>職業<br>【住所】<br>住所<br>【時間】<br>時間<br>【曜日】<br>曜日<br>【天気】<br>天気 | 【挨拶】<br>こんにちは<br>おはよう<br>さようなら<br>【自己紹介】<br>名前<br>年齢<br>職業<br>【住所】<br>住所<br>【時間】<br>時間<br>【曜日】<br>曜日<br>【天気】<br>天気 | 【挨拶】<br>こんにちは<br>おはよう<br>さようなら<br>【自己紹介】<br>名前<br>年齢<br>職業<br>【住所】<br>住所<br>【時間】<br>時間<br>【曜日】<br>曜日<br>【天気】<br>天気  | 【挨拶】<br>こんにちは<br>おはよう<br>さようなら<br>【自己紹介】<br>名前<br>年齢<br>職業<br>【住所】<br>住所<br>【時間】<br>時間<br>【曜日】<br>曜日<br>【天気】<br>天気 | 【挨拶】<br>こんにちは<br>おはよう<br>さようなら<br>【自己紹介】<br>名前<br>年齢<br>職業<br>【住所】<br>住所<br>【時間】<br>時間<br>【曜日】<br>曜日<br>【天気】<br>天気 | 【挨拶】<br>こんにちは<br>おはよう<br>さようなら<br>【自己紹介】<br>名前<br>年齢<br>職業<br>【住所】<br>住所<br>【時間】<br>時間<br>【曜日】<br>曜日<br>【天気】<br>天気 | 【挨拶】<br>こんにちは<br>おはよう<br>さようなら<br>【自己紹介】<br>名前<br>年齢<br>職業<br>【住所】<br>住所<br>【時間】<br>時間<br>【曜日】<br>曜日<br>【天気】<br>天気 |

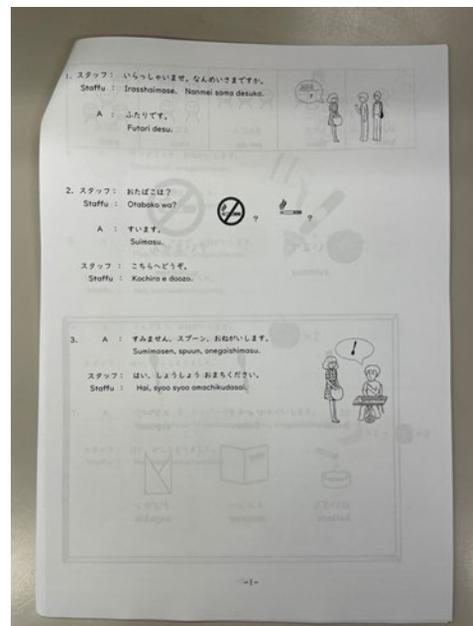
## 制作物

## ● 授業マニュアル (VR授業用教案)

各回のVR授業の流れを記載したもの

| OPUT                                     | 教師   | ロールカード               | 学生 (2人)   |
|--|--|----------------------|---|
| <b>空港</b>                                |  |                      |   |
| <b>①WUP1 (動き回る)</b>                      |  |                      |   |
| 出国                                       | みなさん、何ですか (飛行機を指す)<br>そうです。飛行機です。<br>飛行機、行ってください。  |                      | S1: 飛行機です。<br>S1&S2: (移動)                               |
| 機内                                       | いいですね。<br>みなさん、座ってください。<br>何ですか。<br>何ですか。<br>いいですねえ。<br>何ですか。<br>座ってください。<br><br>イミグレーションへ行きます。<br>イミグレーションへ行ってください。   | 機内の物、貸借物などの名前<br>を確認 | S2: コーヒーです。<br>S1: パスポートです。<br>S1: マフィンです。<br>(食べる)     |
| 入国 (イミグレ)                                | いいですね。<br>イミグレーションです。  |                      |   |
| <b>①WUP2</b>                             |  |                      |   |
| 1<br>指示したものを持っ<br>て来る                    | みなさん見てください。<br>(カウンター上モニター4つ)<br><br>なんですか。<br><br>いいですね。<br>じゃあ、ぼうし、めがね、かばん、りんご<br>を持って来ててください。<br>ここに置いてください。(カウンター<br>上指示)<br>どうぞ!<br><br>いいですね!<br>セレブレーションしましょう! (セレ<br>ブレーション) |                      | S1,S2: ぼうし、めがね、かばん、りんご<br><br>(持って来て置く)                 |
| 2<br>パスポートをスキャ<br>ンし、チケットを取<br>る         | パスポートを取ってください。<br>ここにスキャンしてください。<br>チケットを取ってください。<br><br>いいですね! (セレブレーション)   |                      | (パスポートを取る)<br>(パスポートをスキャンする)<br>(チケットを取る)<br>(セレブレーション) |
| 3<br>かばんをコンベアー<br>に置き、<br>荷物を持って機内<br>へ。 | かばんを取ってください。<br>ここに置いてください。<br><br>(ベルトコンベアーに持つ落とし待<br>ち)<br><br>かばんを取ってください。<br>ここへ来ててください。(機内へ)<br><br>カバンを置いてください。(椅子の下<br>指示)  |                      |   |

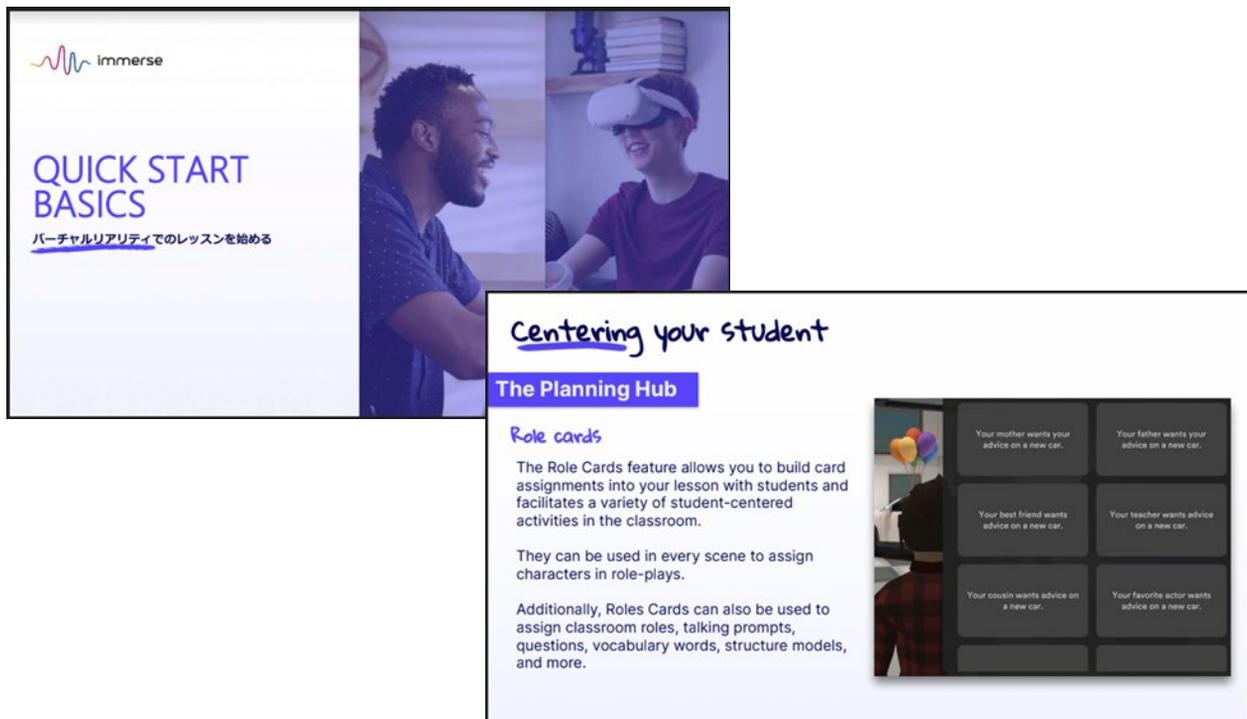
## ● 学生用テキスト



## 制作物

## ●VRアプリ操作マニュアル（教師用）

VRアプリの制作会社が作成したマニュアル。基本操作方法を纏めたもの



## ●VR授業用 教師向け説明動画

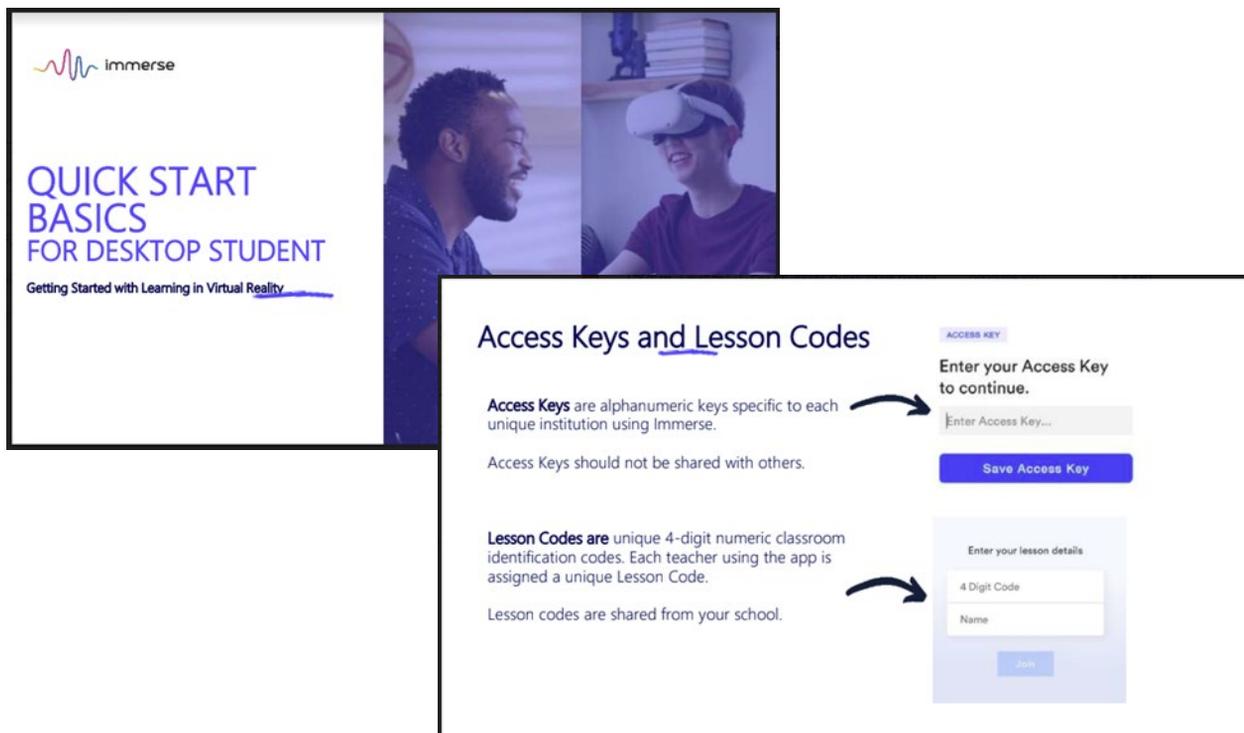
教師がVRアプリを操作しながら授業を円滑に進めることができるように、VR授業の教案を基に、授業の一連の流れと、ツール（語彙・文型表現練習用のホワイトボード、ロールプレイ指示用のロールカードなど）の設定方法を動画で説明したもの



## 制作物

## ●VRアプリ操作マニュアル（学生用）

VRアプリの制作会社が作成したマニュアル。基本操作方法を纏めたもの



## ●VRアプリ 操作マニュアル（学生用）

学生用操作マニュアルの中で、主要動作のショートカットキーのみを纏めたもの

|   | Movement         | Operation  | Icon        |
|---|------------------|--|-------------|
| 1 | Change View      | Click and hold the immerse app display.  |             |
| 2 | Walking          | W or ↑ (up arrow) : Move forward   |             |
|   |                  | A or ← (left arrow) : Move left  |             |
|   |                  | D or → (right arrow) : Move right  |             |
|   |                  | S or ↓ (down arrow) : Back   |             |
| 3 | Teleporting      | Double click on the ground.  |             |
| 4 | Placing Objects  | 1. Click an object. 2. Click the "Place" icon below.<br>3. Click the location to place the object. |             |
| 5 | Throwing Objects | 1. Click an object. 2. "Right Click" on the location.  |             |
| 6 | Using Objects    | 1. Click an object. 2. Click the "Use Object" icon below. (eating, wearing, e.g.)                  | <br>*eating |
| 7 | Pouring Drinks   | 1. Click the pot or the bottle. 2. Shift +Click on the cup or the glass.                           |             |

## 実施結果

クラス名称：VRレッスンクラス

教師名：田村、浅田、服部、長阪、坂本

|          |  |
|----------|--|
| 受講者レベル   | A1   |
| 言語活動     | 話す、聞く  |
| 重点Can-do | 【会話】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる<br>【包括的な聴解】意味が取れるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる |
| 教育方法     | オンライン（双方向）   |
| 人数       | 32   |
| 属性特長     | アルゼンチン、ブラジル、メキシコ、アメリカ、カナダ、ロシア、ノルウェー、スウェーデン、イギリス、イタリア、スペイン、ベルギー、ドイツ、オーストラリア、タイ、台湾、中国（19歳～47歳）   |
| 授業回数     | 42回  |

## テスト試行の様子



## 課題・今後の展開

|       |  |
|-------|--|
| 課題    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師アンケート結果にて「VRアプリが使用しにくかった」という回答があったが、現状のシステムでは、スペックなどの要件や制限が多く、学生・教員ともに完全オンライン形式で授業を提供する場合に不具合が生じてしまうと授業が実施できない可能性がある。システム要件の緩和に時間を要する場合には、システムをサポートする者が隣席し、少人数で授業を展開していく方法であれば、事業として提供可能であると考えられる。</li> <li>・現状のVRアプリを広く導入するためには課題があるため、国や使用デバイスのスペック制限をなくす等の改善策を今後検討することが望ましい。</li> </ul>                               |
| 今後の展開 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本プログラムの学生アンケートならびに教師アンケート結果を通しての検証を通し、VRという新しいICT技術を活用した会話授業パックは、日本語教育において、「会話能力の向上」ならびに「学習者の日本語学習に関するモチベーション維持」という観点で有効性があることが分かった。</li> <li>・現状のVRアプリを広く導入するためには課題があるため、国や使用デバイスのスペック制限をなくす等の改善策を今後検討することが望ましい。</li> <li>・一方で、VRアプリを使用して効果的に日本語学習を進めるのであれば、VRをメイン教材とするのではなく会話練習用などの補完教材として提供することも検討することが望ましい。</li> </ul> |

日本語未修者に対する教育プログラムを提供していく目的の為、  
オンライン学習教材の開発・オンライン日本語教育プログラムを開発しました。

### 開発背景と概要

|             |  |
|-------------|--|
| 背景<br>(課題)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>①日本語未習者がA1レベルに達するまで学習過程は、その後の学習プロセスに大きく影響するため、効果的なカリキュラム、教材、指導方法が必要</li> <li>②留学資格での入国条件がN5以上であるため、海外での需要が高いと見込まれる</li> </ul> |
| 概要<br>(解決策) | <p><b>既存教材の「TRY! STARTの活用」と「新たな補助教材」を整備し、効果的な未習者向けのプログラム開発</b></p> <p>対象者に即した、効果的な指導方法やカリキュラムを確立しオンラインを通じて、国内と同様の体系的な学習を可能にする</p>                                    |

### 目標設定

|    |                 |
|----|-----------------|
| 運営 | 日本語教員に対する教授法の確立 |
| 構成 | 効果的なカリキュラム構築と実践 |

### 特徴

|     |   |
|-----|---|
| 有効性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>①日本語未習者への学習機会を幅広く提供（「留学」「特定技能」「就職」）</li> <li>②「来日生活者」「外国人児童生徒」にも学習プロセスの「入口」をオンラインで提供</li> </ul>                      |
| 継続性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>①滞在外国人の日本入国条件として、基本的な日本語能力が備わっていることを示すことが求められる（留学：N5、特定技能：N4等）</li> <li>②本人のみならず、将来的に受け入れ機関における有償利用が見込まれる</li> </ul> |
| 新規性 | ①多様な目的で来日する外国人へのオンラインによる系統的な学習機会の提供   |
| その他 | ①日本語教員への教授法を確立し提供することで、潜在的学習者の掘り起こしや学習者獲得効果の機会に広げる  |

### 想定する対象

|      |                          |
|------|--------------------------|
| 対象   | A1（約40人）、                |
| 教育手法 | ハイブリッド（オンデマンド+オンライン）     |
| 言語活動 | 話す（やりとり）、話す（発表）、聞く、読む、書く |

## 実施概要

既存オンデマンド教材である「eTRY! START」「eTRY! N5」を学習者の学習教材として提供し、事前学習を前提としてオンライン授業を実施する反転授業により、学習効果を高めることを目指した。eTRY!教材にリンクしたオンライン授業用のマニュアルを開発し、一回60分～90分の授業を週2回配信、6か月で計48回のテスト試行を通じ、未習学者向けの教育プログラムを開発した。

## 授業の構成



## Try from 0 to A1

## &lt;反転授業自主学习&gt;

eTRY!  
オンライン教材

## 学習進捗確認



## &lt;リアル授業配信&gt;

- ・授業配信  
ツール：Zoom
- ・授業マニュアル共有・宿題ストック・授業報告  
ツール：Google Workspace for Education
- ・宿題受渡し（対受講者）  
ツール：Google Classroom
- ・学習者連絡  
ツール：LINE Group（教員×コーディネーター×学習者）

## 授業の流れ



## 授業時間数

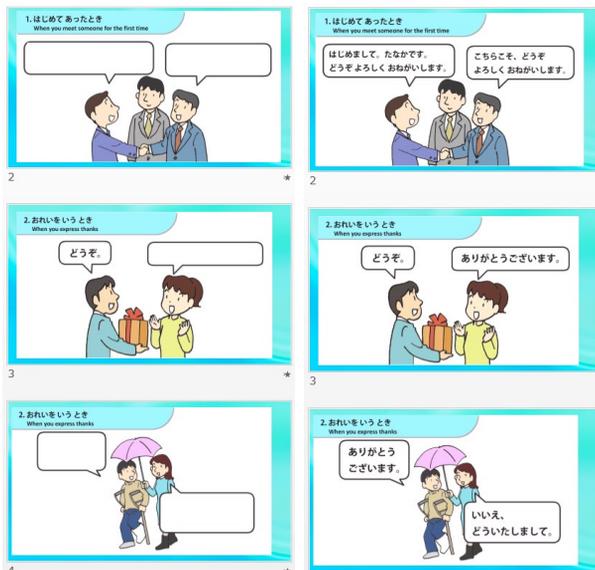
| TRY! START + N5 Zoom配信 |              | 配信授業時間数  |
|------------------------|--------------|----------|
| eTRY! START            | 60分×2回/週×8週  | 16回 16時間 |
| eTRY! N5               | 90分×2回/週×16週 | 32回 48時間 |
| 合計 24週                 |              | 48回 64時間 |

## クラス設定

| クラス名 | 配信先          | 募集人数 | 受講者属性               | 年齢    | 曜日  | 事業実施時間（現地）                          |
|------|--------------|------|---------------------|-------|-----|-------------------------------------|
| TI-A | タイ<br>インドネシア | 10   | 中学生、高校生、<br>大学生、社会人 | 14～27 | 月 木 | START 18：30～19：30<br>N5 18：30～20：00 |
| TI-B | タイ<br>インドネシア | 10   | 高校生、大学生、<br>社会人     | 17～40 | 火 金 | START 18：30～19：30<br>N5 18：30～20：00 |
| M    | マレーシア        | 10   | 中学生、高校生             | 13～16 | 火 金 | START 18：30～19：30<br>N5 18：30～20：00 |
| N    | 日本           | 10   | インターナショナル<br>スクール教員 | 25～46 | 月 水 | START 17：30～18：30<br>N5 17：30～19：00 |

## 制作物

## ●オンライン学習教材（授業マニュアル含む）



パワーポイントのノートに記された授業マニュアル

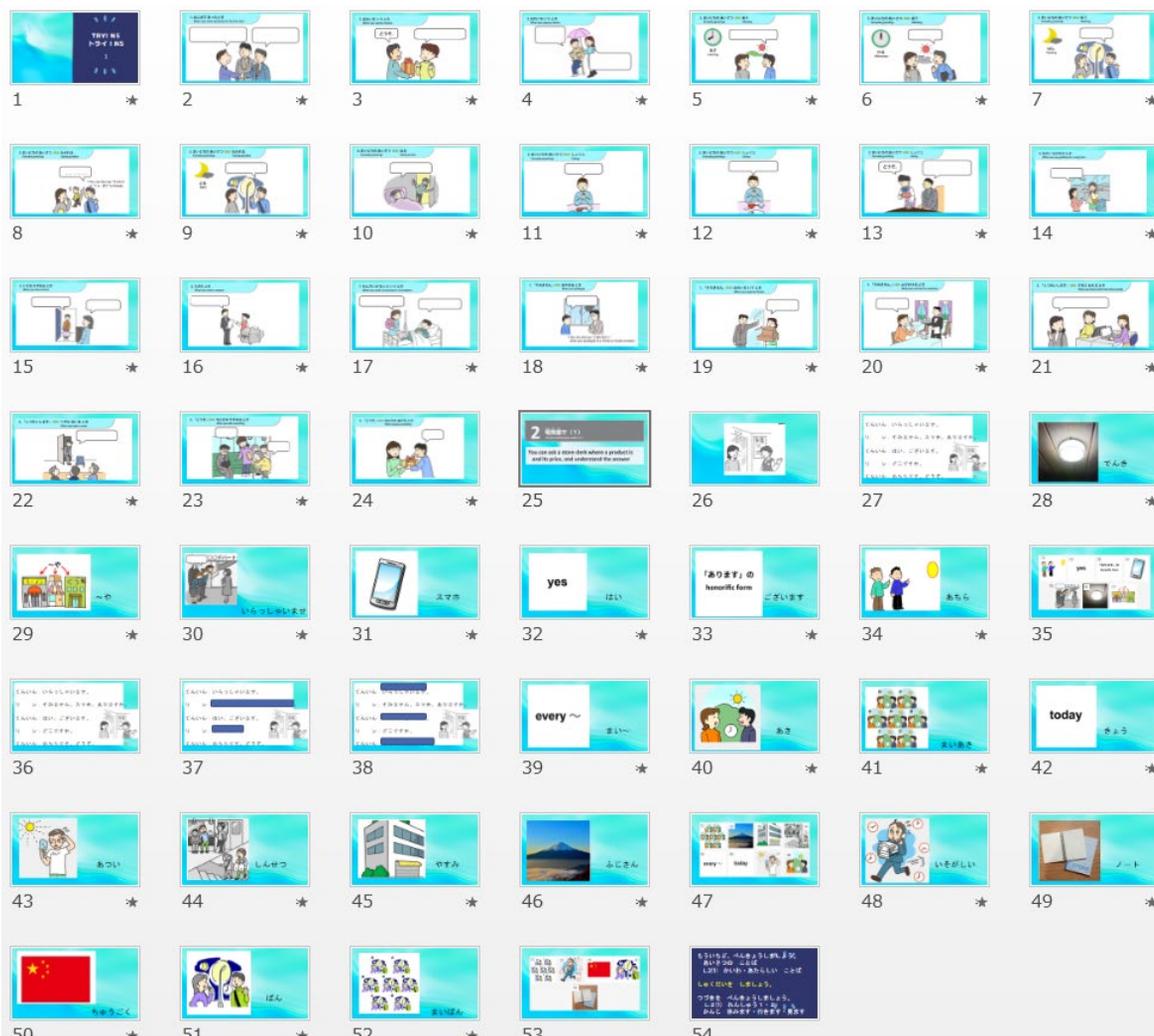
-何というか考えてもらってから、言葉を見せ、1 回リピートする  
-その後、自己紹介  
-初めにTがサンプルを示し、それぞれ自己紹介しあう

あいさつ 2

-何というか考えてもらってから、言葉を見せ、リピートする  
-うまく言えなければ、2, 3 回繰り返す。  
-画面を見せ何というか言ってもらってから言葉を出して確認  
-指名して答えてもらってから、言葉を出して確認  
-あいさつ 3、あいさつ 4 も同様に行う

あいさつ 3

-あいさつ 2 と同じように行う  
-何というか考えてもらってから、言葉を見せ、リピートする  
-うまく言えなければ、2, 3 回繰り返す  
-画面を見せて何というか言ってもらってから言葉を出して確認  
-指名して答えてもらってから、言葉を出して確認する



## 制作物

## ●事後学習教材（補助教材）かいわトピック

10/3 『L2 でんきやで』

①ざっし/ほん

A: それは ( ) ざっしですか。 B: \_\_\_\_\_

②こうこう/だいがくのイベント、～のまつり

A: だいがくのイベントは ( ) ですか。 B: \_\_\_\_\_

③のみのもの/たべもの/おかし

A: ~のおかしは ( ) ですか。 B: \_\_\_\_\_

③〇さんのまち:【バンコク/ジャカルタ/…】

A:【 】は ( ) まちですか。 B: \_\_\_\_\_ まちです。

10/10 『L2 でんきやで』 shopping

チーム1 とけい/テレビ/じてんしゃ/スマホ…

チーム2 かばん/ペン/ノート/シャツ…

① なにを うりますか。いくらですか。 はなしましょう。

② かいわ

てんいん: こちらは いかがですか。 \_\_\_\_\_ ですか。

きゃく: いくらですか。

てんいん: \_\_\_\_\_ えます。

きゃく: (もっと) \_\_\_\_\_ は ありませんか。

てんいん: こちらは \_\_\_\_\_ ですか。

きゃく: じゃ、その \_\_\_\_\_ を ください。 / じゃ、けっこうです。

てんいん: \_\_\_\_\_ ですね。 \_\_\_\_\_ えます。 / そうですか。

10/13 『L3 きのうの かいもの』

A: わたしは きのう/せんしゅう \_\_\_\_\_ しました。

( B: なにを \_\_\_\_\_ しましたか。 / A: \_\_\_\_\_ しました。)

B: そうですか。 \_\_\_\_\_ ですか。

A: はい、 \_\_\_\_\_。

いいえ、 \_\_\_\_\_。

10/17 『L3 ほしいもの』

A: わたしは こどものとき \_\_\_\_\_ が ほしいかったです。

B: そうですか。わたしは/わたしも \_\_\_\_\_ が ほしいかったです。

でも、いまは \_\_\_\_\_ が いちばんほしいです。 Aさんは？

A: わたしは、いま \_\_\_\_\_ が いちばんほしいです。

10/31 『L4 いっしょに 行きませんか』

A: いっしょに【ばしょ】へ 行きませんか。

B: えっ?【ばしょ】は どちらのところですか。

A: \_\_\_\_\_ ところですよ。

B:【ばしょ】で なにをしますか。

A: \_\_\_\_\_ ませんか。

B: いいですね。

A: じゃ、【ばしょ】で いっしょに \_\_\_\_\_ しましょう。

11/14 『L5 100万円で なにがしたいですか。』

A: 100万円もらいました。

B: えっ、すごいですね。100万円で なにがしたいですか。

A: そうですね。 \_\_\_\_\_ たいです。(それから) \_\_\_\_\_ たいです。

B: そうですか。

\*たくさん はなしましょう。

## ●事後学習教材（補助教材）しゅくだい

8/1 きょうの しゅくだい Today's Home Work

ひらがな①、ひらがな②、ひらがな③

1. Print PDF ⇒ 2. Write Hiragana (Home Work) ⇒ 3. Upload your Home Works

8/1 しゅくだい (レクチャー用)

・ひらがな①②③

※プリント→「ひらがな・HIRAGANA」をダウンロードして、書いて、提出してください。  
Documents→ Download "Hiragana / HIRAGANA", write it, and submit it.

8/4 きょうの しゅくだい Today's Home Work

ひらがな④、ひらがな⑤、ひらがな⑥、ひらがな⑦

1. Print PDF ⇒ 2. Write Hiragana (Home Work) ⇒ 3. Upload your Home Works

8/15 きょうの しゅくだい Today's Home Work

いろいろな ひらがな①-1、ひらがな①-2

1. Print PDF ⇒ 2. Write Hiragana (Home Work) ⇒ 3. Upload your Home Works

8/18 きょうの しゅくだい Today's Home Work

いろいろな ひらがな②-1、②-2、③-1、③-2

1. Print PDF ⇒ 2. Write Hiragana (Home Work) ⇒ 3. Upload your Home Works

8/22 きょうの しゅくだい Today's Home Work

いろいろな ひらがな④-1、④-2、⑤-1、⑤-2

1. Print PDF ⇒ 2. Write Hiragana (Home Work) ⇒ 3. Upload your Home Works



## 2. 教師研修 ～目的・研修プログラム一覧～

多彩な内容・手法で「日本語教師向けの研修」を整備し、本事業への参加促進及びアフターコロナを見据えた日本語教育機関側のノウハウ蓄積を目指して実施しました。

### 目的

本取組ではオンライン授業に関連する教師育成も加味した、3つの視点で研修プログラムを整備。日本語教師としてオンライン授業を一定のレベルで実施ができるようになるノウハウを身に付けることを目的として、PCの基本的な使い方から、ITツールの活用・応用まで幅広い内容を提供した。



＜スキルに合わせた「ベーシックコース」から「アドバンスコース」と現場ニーズに即した研修会を整備＞

ベーシック  アドバンス

### 研修プログラム一覧（概要）

実施したプログラムの概要は以下のとおり。上記3つの視点をもとに、A～Cのプログラムを用意した。

|                    | WEBSITE公開型<br>(理論編)   | ウェビナー研修型<br>(理論編+実践編)  | 3つの視点(①～③)と<br>プログラム(A～C)の関係性   |
|--------------------|---|--|---|
| 公開範囲               | 全ての日本語教育機関  | 実証事業日本語教育機関<br>(参加は任意)   | —   |
| 内容                 | 動画1本  | 動画8本及び7種のオンラインセミナー   | —   |
| 実施時期               | 6月～2月<br>(事業WEBSITEにて動画を公開)   | 7月～9月<br>(Zoomにて集合研修)  | —   |
| A.オンライン授業の概念と効果を知る | ◎   | —  | ①②③   |
| B.0から学ぶオンライン授業の設定  | —   | ◎  | 特に②   |
| C.オンラインツール活用       | —   | ◎  | 特に③   |
|                    | 事業WEBSITE上に動画講座として掲示。実証事業日本語教育機関に限らず幅広い日本語教育機関の教職員が時間を問わず視聴ができるように展開。 | 実証事業日本語教育機関を対象に開催スケジュールを決め、申し込みを頂く形で集合研修を開催。参加者間でディスカッションをし、機関同士でのコミュニケーション・情報交換等が行える場を作り、本事業の活性化に繋げた。 | 視点①～③はプログラムA～C全てに関わるものだが、Aでは研修プログラムの導入としてオンライン授業の概念(①～③)を、BではZoomを活用したオンライン環境整備の習得(②)を、CではGoogleなどの各種ツールを用いた学習効果の向上(③)を目指すプログラム構成とした。 |

本事業の教師研修は、オンライン授業は初めてという方から、もっとITツールを活用していきたいという方まで、幅広く対象とするプログラムを提供しました。

### 研修プログラム一覧（詳細）

研修プログラムはA～Cに大別され、Aは本事業WEBサイトに動画講座として一般公開を行った。B、Cは実証事業日本語教育機関を対象（任意参加）とし、動画で予習を行いオンラインセミナーにて実践するという形式であり、受講は任意の1講座から可能とした。

#### A. オンライン授業の概念と効果を知る

| 講座名              | 内容   | 学習動画                   |
|------------------|--|------------------------|
| オンライン授業の概念と効果を知る | 対面の授業と比較しながら、実際のオンライン授業の様子を紹介し、オンライン授業への取り組み方、効果について理解を深めます。 | オンライン授業の概念と効果を知る（約40分） |

#### B. 0から学ぶオンライン授業の設定

| 講座名          | 内容   | 学習動画               | オンラインセミナー（1回2時間） |
|--------------|--|--------------------|------------------|
| オンライン授業環境の準備 | オンライン授業を始める環境を整えます。必要な機材や、インターネット環境について、解説します。 | オンライン授業環境の準備（約10分） |                  |
| Zoom活用（基礎編）  | 日本語教育現場では、Zoomを使った授業が一般的です。基本的な機能を確認しましょう。     | Zoom活用（基礎編）（約40分）  | Zoom活用（基礎編）      |
| Zoom活用（応用編）  | より効果的な授業を行うにあたり、知っておきたい便利なZoomの機能を紹介します。       | Zoom活用（応用編）（約40分）  | Zoom活用（応用編）      |

#### C. オンラインツール活用

| 講座名              | 内容   | 学習動画                   | オンラインセミナー（1回2時間）                         |
|------------------|--|------------------------|--|
| Power Point活用    | PowerPointによる資料作りは、オンライン授業において必要不可欠です。基礎から応用まで、実践の場で使えるテクニックをご紹介します。 | PowerPoint活用（約60分）     | Power Point活用（基礎編）<br>Power Point応用（応用編） |
| Googleサービス       | Googleが提供するツールには、使いやすいものが多いです。基本的な使い方をご紹介します。                        | Googleサービス（約30分）       |  |
| Google Forms     | 学習者へのアンケートや宿題、小テストを作る方法をご紹介します。                                      | Google Forms（約80分）     | Google Forms                             |
| Google Jamboard  | 学習者と共同で作業するのに便利なツールです。実際の使用例もご紹介します。                                 | Google Jamboard（約50分）  | Google Jamboard                          |
| Google Classroom | 学習者と連絡をやりとりするのに便利です。   | Google Classroom（約30分） | Google Classroom                         |

教師研修に関する特設ページを事業WEBサイト内で作成し、動画、オンラインセミナーの詳細や実施スケジュール等について掲示しました。

## 教師研修のWEBページ

教師研修に関する特設ページを事業WEBサイト内で作成し、動画、オンラインセミナーの詳細や実施スケジュール等について掲示した。動画「オンライン授業の概念と効果を知る」については、本ページ内で公開をした。



## 動画の再生回数

各動画の再生回数については以下のとおり。

| NO. | 動画タイトル           | 再生数 (回) |
|-----|------------------|---------|
| 1   | オンライン授業の概念と効果を知る | 125     |
| 2   | オンライン授業環境の準備     | 58      |
| 3   | Zoom活用 (基礎編)     | 53      |
| 4   | Zoom活用 (応用編)     | 59      |
| 5   | PowerPoint活用     | 80      |
| 6   | Googleサービス       | 49      |
| 7   | Google Forms     | 57      |
| 8   | Google Jamboard  | 50      |
| 9   | Google Classroom | 50      |



実証事業日本語教育機関を対象とした教師研修のオンラインセミナーを約80時間実施し、合計115名が参加しました。

研修B・Cのオンラインセミナーのスケジュール及び参加者数

スケジュールは以下のとおり。事業開始が遅くなる2次募集の実証事業日本語教育機関も一通り参加できるよう、9月も全種類の講座を一回ずつ実施することとした。研修B,Cを合わせたオンラインセミナーの申込者数は139人、参加者数は115人となった。

研修B. 0から学ぶオンライン授業の設定

| 講座名                | 回数 | 開催日時                   |                       |                        |                        |                        |                        |                        | 申込人数 | 参加者数 |
|--------------------|----|------------------------|-----------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------|------|
| Zoom活用 (基礎編)       | 3  | 7/19(火)<br>13:00-15:00 | 8/2(火)<br>13:00-15:00 | 9/6(火)<br>15:30-17:30  |                        |                        |                        |                        | 7    | 5    |
| Zoom活用 (応用編)       | 5  | 7/19(火)<br>15:30-17:30 | 8/2(火)<br>15:30-17:30 | 8/23(火)<br>13:00-15:00 | 8/30(火)<br>15:30-17:30 | 9/13(火)<br>15:30-17:30 |                        |                        | 18   | 16   |
| PowerPoint活用 (基礎編) | 7  | 7/21(木)<br>10:00-12:00 | 8/1(月)<br>10:00-12:00 | 8/22(月)<br>10:00-12:00 | 8/29(月)<br>10:00-12:00 | 9/5(月)<br>10:00-12:00  | 9/12(月)<br>10:00-12:00 | 9/15(木)<br>10:00-12:00 | 17   | 14   |
| PowerPoint活用 (応用編) | 7  | 7/26(火)<br>13:00-15:00 | 8/5(金)<br>10:30-12:30 | 8/30(火)<br>13:00-15:00 | 9/6(火)<br>13:00-15:00  | 9/13(火)<br>13:00-15:00 | 9/20(火)<br>13:00-15:00 | 9/27(火)<br>13:00-15:00 | 27   | 21   |
|                    |    |                        |                       |                        |                        |                        |                        | 合計                     | 69   | 56   |

研修C. オンラインツール活用

| 講座名              | 回数 | 開催日時                   |                         |                         |                        |                        |                        | 申込人数 | 参加者数 |
|------------------|----|------------------------|-------------------------|-------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------|------|
| Google Forms     | 6  | 7/25(月)<br>10:00-12:00 | 8/4(木)<br>10:00-12:00   | 8/18(木)<br>10:00-12:00  | 8/25(木)<br>10:00-12:00 | 9/1(木)<br>10:00-12:00  | 9/8(木)<br>10:00-12:00  | 24   | 23   |
| Google Jamboard  | 6  | 7/26(火)<br>15:30-17:30 | 7/28(木)<br>10:00-12:00  | 8/23(火)<br>15:30-17:30  | 8/25(木)<br>14:00-16:00 | 9/20(火)<br>15:30-17:30 | 9/27(火)<br>15:30-17:30 | 22   | 18   |
| Google Classroom | 6  | 8/5(金)<br>13:00-15:00  | 8/22日(月)<br>15:00-17:00 | 8/24日(水)<br>15:00-17:00 | 9/21(水)<br>15:00-17:00 | 9/22(木)<br>14:00-16:00 | 9/26(月)<br>14:00-16:00 | 24   | 18   |
|                  |    |                        |                         |                         |                        |                        | 合計                     | 70   | 59   |

研修B・Cの動画視聴、オンラインセミナー予約方法

研修動画・オンラインセミナー予約へのリンクを掲載したgoogle スプレッドシートを共有し、各実証事業日本語教育機関にて動画視聴、オンラインセミナーへの予約を行った。

※ google スプレッドシートのURLは採択決定時に採択校に配布する事業概要資料に掲載

研修B・Cの動画視聴、オンラインセミナー予約用のgoogle スプレッドシート

| カテゴリ    | 講座名     | 回数           | 動画リンク   | 説明  | 視聴時間 | オンラインセミナー予約日程 |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |  |
|---------|---------|--------------|---|---|------|---------------|---|---|---|---|---|---|--|--|--|--|--|--|
|         |         |              |   |   |      | 1             | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |  |  |  |  |  |  |
| 研修Bのみ掲載 | A 概要    | 1            | オンライン授業の概念と効果を知る                                    | 研修開始前までに研修内容の概要を知り、研修の目的や研修内容について理解を深め、研修への参加を促します。                 | 40   |               |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |  |
|         | B ツール   | 2            | オンライン授業準備の準備  | オンライン授業の準備を完了し、研修当日の研修内容について理解を深め、研修への参加を促します。                      | 10   |               |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |  |
|         | 3       | Zoom活用 (基礎編) | Zoomを使った授業の準備方法について、研修当日の研修内容について理解を深め、研修への参加を促します。 | 40  |      |               |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |  |
|         | 4       | Zoom活用 (応用編) | より効果的な授業を行うための、様々なZoomの機能を紹介します。                    | 40  |      |               |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |  |
| 研修Bのみ掲載 | C 授業の方法 | 5            | PowerPoint活用  | PowerPointによる授業の方法、オンライン授業ならではのメリット、研修当日の研修内容について理解を深め、研修への参加を促します。 | 60   |               |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |  |
|         |         | 6            | Googleサービス  | Googleが提供するツールには、使いやすさ、多機能、無料、セキュリティ、小規模から大規模まで対応します。               | 30   |               |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |  |
|         |         | 7            | Google Forms  | 研修者へのアンケートや確認、小テストを行うことができます。                                       | 80   |               |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |  |
|         |         | 8            | Google Jamboard                                     | 研修者と共同で作業するための便利なツールです。高度な機能も紹介します。                                 | 50   |               |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |  |
|         |         | 9            | Google Classroom                                    | 研修者と研修をやりとるのに便利です。  | 30   |               |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |  |
|         |         |              |   |   |      |               |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |  |
|         |         |              |   |   |      |               |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |  |
|         |         |              |   |   |      |               |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |  |
|         |         |              |   |   |      |               |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |  |



動画はYoutubeへリンク、オンラインセミナーは予約申し込みページ (Peatix) へリンクするように設定した



## 2. 教師研修 ～研修参加後アンケート～

研修参加後アンケートから、セミナー実施により、オンライン日本語教育に用いるITツールの知識・活用方法に関する知識向上が確認されました。

### 受講者アンケート内容

実証事業日本語教育機関のうち、研修B、研修Cのオンラインセミナー受講後にアンケートに回答を依頼した。

|      |  |
|------|--|
| 調査対象 | 実証事業日本語教育機関のうち、研修B、研修Cのオンラインセミナーを受講した方   |
| 実施方法 | Microsoft Forms  |
| 調査項目 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個人属性<br/>所属、日本語教育の指導年数、所属日本語教育機関での雇用形態、受講したセミナー、受講動機</li> <li>■ オンラインセミナーの理解・満足度<br/>セミナー参加前の受講状況、満足度、セミナー受講前後で比較した場合の理解度</li> <li>■ オンラインセミナー受講による向上度<br/>受講による知識の向上度、今後利用したいオンラインツール</li> </ul> |

### 受講者アンケート結果

研修参加後に取得したアンケート結果は、以下のとおり。

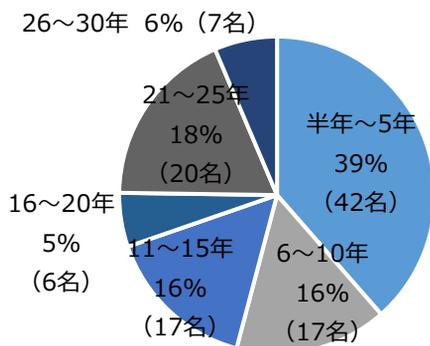
#### ●参加者属性に関する回答

参加した実証事業日本語教育機関別の参加者数

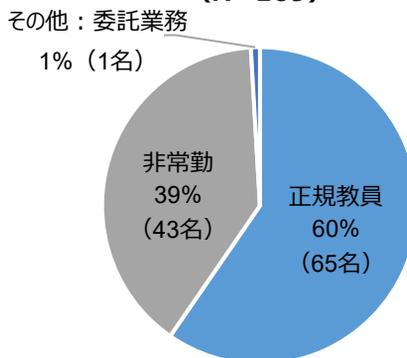
| 実証日本語教育機関       | 参加者数 |
|-----------------|------|
| ダイワアカデミー        | 21   |
| カナン国際教育学院       | 14   |
| 申豊国際学院          | 12   |
| 静岡インターナショナルスクール | 11   |
| 日立さくら日本語学校      | 8    |
| A.C.C.国際交流学園    | 7    |
| 広島YMCA専門学校      | 7    |
| 熊本YMCA学院日本語科    | 6    |
| 青山スクールオブジャパニーズ  | 6    |

| 実証日本語教育機関    | 参加者数 |
|--------------|------|
| 国際未来学院       | 3    |
| 松戸国際学院       | 3    |
| 理知の杜日本語学校東京校 | 3    |
| エール学園日本語教育学科 | 2    |
| 徳山総合ビジネス専門学校 | 2    |
| 文林学院日本語科     | 2    |
| 東京日野国際学院     | 1    |
| 日本語センター      | 1    |
| 合計           | 109  |

日本語教育の指導年数  
(N=109)



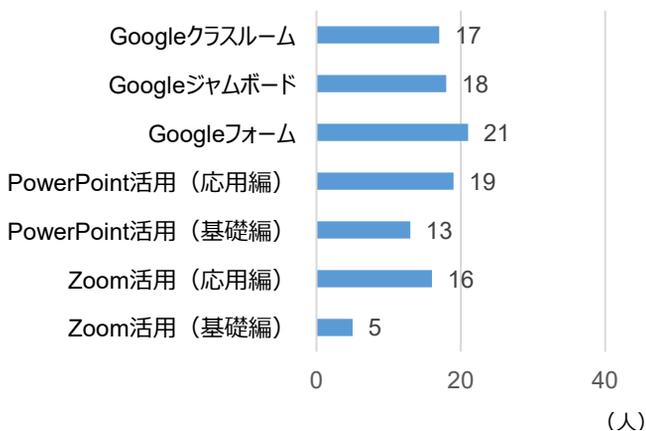
所属日本語教育機関での雇用形態  
(N=109)



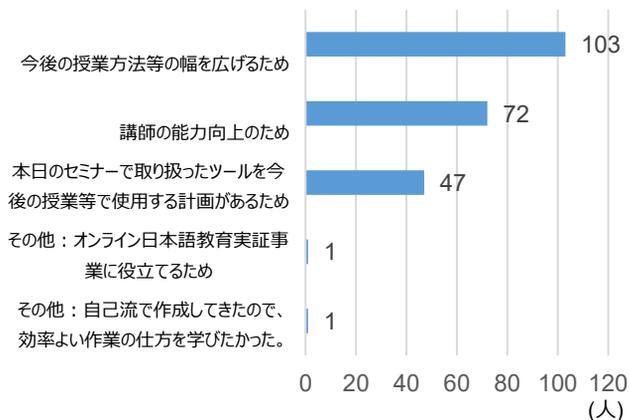
## 2. 教師研修 ～研修参加後アンケート～

### ●参加者属性に関する回答（続き）

受講されたセミナー  
(N=109)

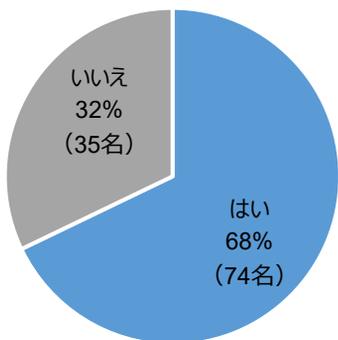


セミナーの受講動機  
(N=224) ※複数選択

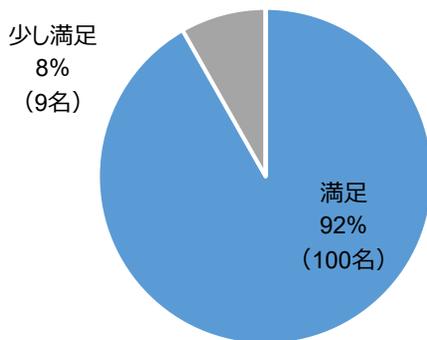


### ●オンラインセミナーの理解・満足度に関する回答

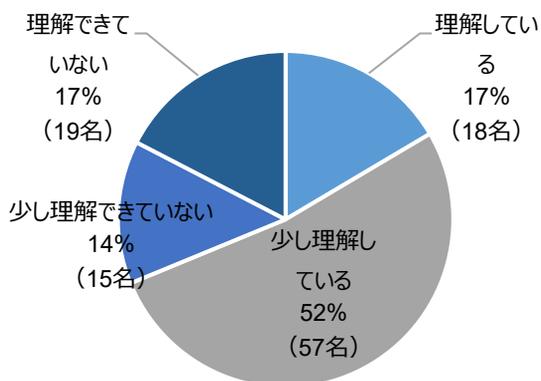
セミナー参加前の動画視聴状況  
(N=109)



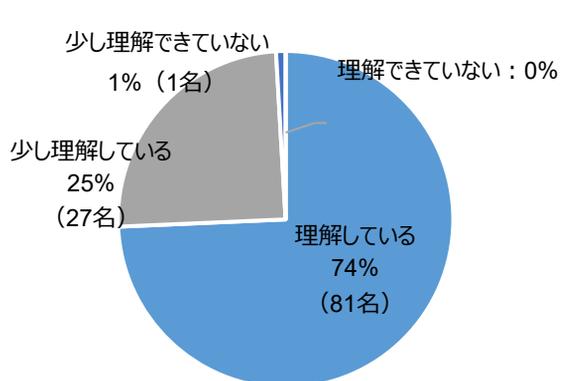
セミナーの満足度  
(N=109)



セミナー前の理解度  
(N=109)



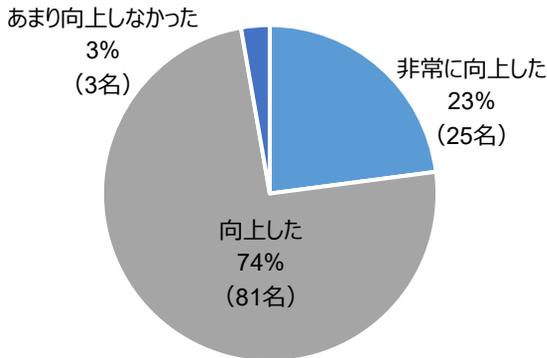
セミナー後の理解度  
(N=109)



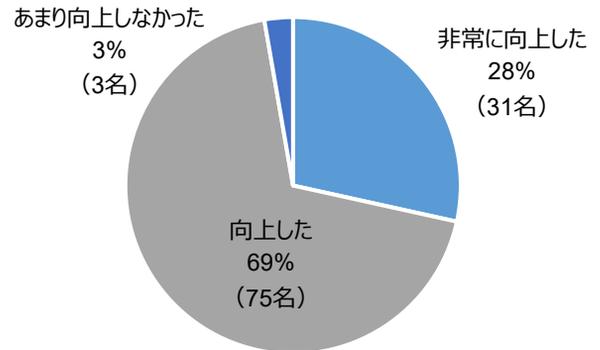
## 2. 教師研修 ～研修参加後アンケート～

### ● オンラインセミナー受講による知識の向上度に関する回答

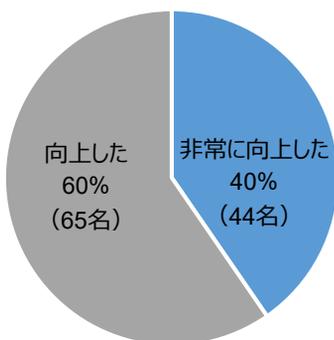
オンライン日本語教育プログラムに関する  
知識の向上度（概念・効果）  
（N=109）



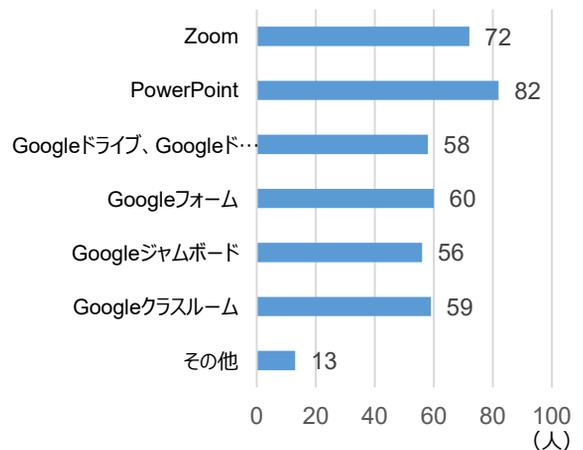
オンライン日本語教育プログラムに関する  
知識の向上度（環境準備・運営）  
（N=109）



オンライン日本語教育プログラムに関する知識の  
向上度（オンラインツール知識・活用方法）  
（N=109）



今後使用したいオンラインツール  
（N=400） ※複数選択



### 受講者アンケート分析（まとめ）

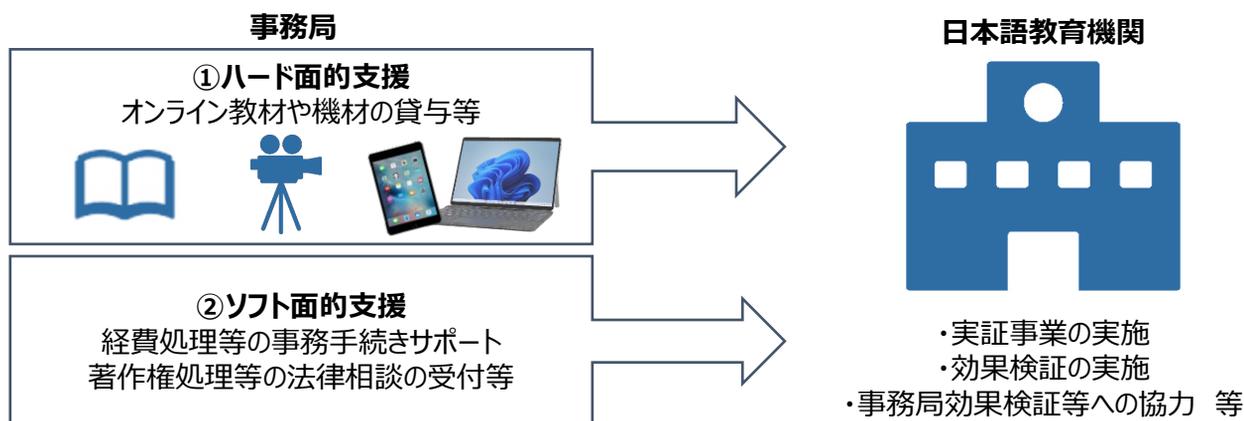
オンラインセミナーの受講生アンケートから、実施前後でITツールに関する理解度が上がったことが確認された。また、オンライン日本語教育プログラムに関する知識についても向上が見られた。

|          |  |
|----------|--|
| 個人属性     | <ul style="list-style-type: none"> <li>受講者は若手～中堅の日本語教師が全体の70%（「半年～5年」(39%)、「6～10年」(16%)、「11～15年」(16%)）で、正社員が60%</li> <li>セミナーの受講動機は「今後の授業方法等の幅をひろげるため」が103人（94%）、「教師の能力向上のため」が72人（66%）と大半を占めた</li> </ul> |
| 理解・満足度   | <ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインセミナー前後の理解度を比較した場合、「理解している」の回答が57%向上（前:17%→後:74%）しており、セミナー参加者の満足度も92%と高かった</li> </ul>   |
| 受講による向上度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン日本語教育プログラムに関する知識に関する向上度も、「概念・効果」「環境準備・運営」「オンラインツール知識・活用方法」の3質問で、「あまり向上しなかった」「向上しなかった」の回答は少なく、「非常に向上した」「向上した」と回答したセミナー受講者の割合が90%以上を占めた</li> </ul>             |

日本入国が困難な外国人留学生への日本語教育環境構築に向け、多様なオンライン日本語教育モデルの実証事業を実施する日本語教育機関を募集しました。

実証事業の全体像

日本語教育機関毎のオンライン日本語教育の取り組み度合いに応じて、多種多様な実証事業ができるよう、複数の申し込み方法や制作支援パッケージを用意することで、日本語教育機関の実証事業への参画を促した。なお、実証事業日本語教育機関は審査会による選定で決定の上、事務局と再委託契約を締結した。

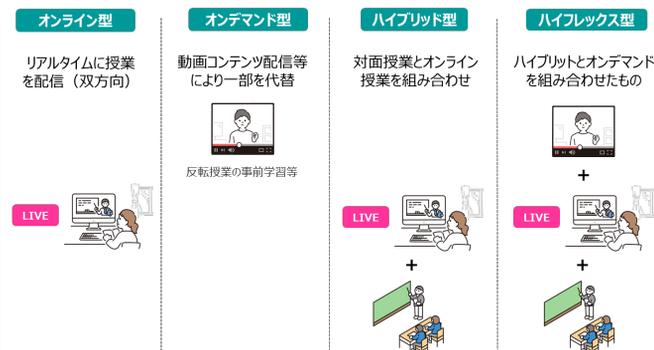


- <公募実施期間> 一次募集：令和4年5月20日～令和4年6月2日  
二次募集：令和4年6月22日～令和4年7月7日  
三次募集：令和4年8月24日～令和4年9月9日
- <経費申請上限> 1,000万円（税込） ※事務局支援パッケージ費含む
- <要件>
  - ・法務省告示校であること
  - ・令和3年適正校であること。ただし、令和2年に適正校であったものの新型コロナウイルス感染症の影響をもって入国した留学生数が減少したことにより、令和3年に適正校でなくなった日本語教育機関や令和4年2月10日までに告示された新設校含む 等
- <対象学習者> 日本語教育機関への出願資格要件を満たし、日本語教育機関が日本留学への意思を確認した者を1クラスに1名以上含めることを要件とする
- <総申請件数> 69校（うち採択し、事業を実施したのは49校）

対象とした実証内容

「オンライン教育手法」と「日本語教育の内容・指導法・評価手法」を組み合わせた、多様な内容のオンライン日本語教育の実証を対象とした。

<オンライン教育手法>



<日本語教育の内容・指導法・評価手法>

- ・ コース別：進学（大学、大学院、専門学校等）、就職（ビジネス）、一般（日常生活、一般教養等）
- ・ レベル別：初級、中級、上級あるいは「日本語教育の参照枠」に示されたA 1、A 2、B 1、B 2、C
- ・ 教育内容別：話す（やりとり・発表）、聞く、読む、書く、日本事情・日本理解、その他の言語活動
- ・ 言語種別：漢字圏・非漢字圏

## 2 3. 実証事業 ～公募の全体像～

申請にあたり、申し込み方法を2種類用意することで、日本語教育機関が柔軟に実証内容を検討できるようにしました。

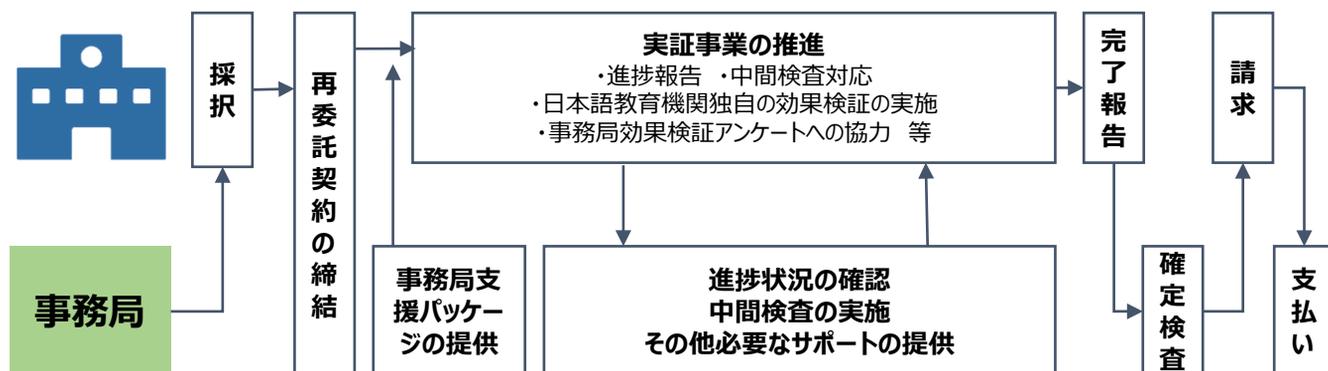
### 申し込み (A) と申し込み (B) の違い

申し込み (A) は、あまりオンライン授業を実施したことがない日本語教育機関向けに、教材・オンラインツール等、事務局による手厚い支援を提供した。一方、申し込み (B) は、事務局による支援が限られる代わりに、柔軟な経費計上による日本語教育機関独自の機材調達等を可能とした。

|                 |                           | 申し込み (A)                | 申し込み (B)                       |
|-----------------|---------------------------|-------------------------|--------------------------------|
| 日本語教育機関の取組内容    | 日本語教育機関の取組み内容に合わせた実証事業の実施 | ○                       | ○                              |
|                 | 日本語教育機関による教材開発の実施         | ○<br>計上できる経費の範囲内での実施に限る | ○                              |
|                 | 柔軟な経費計上                   | △<br>賃金・諸謝金のみ           | ○<br>賃金・諸謝金・旅費・借損料・雑役務費・再々委託費等 |
| 事務局による支援        | 事務局支援パッケージの提供             | ○                       | ○                              |
|                 | ①教材パッケージ                  | ○                       | ○                              |
|                 | ②既存教材活用                   | ○                       | ×                              |
|                 | ③オンラインツール                 | ○                       | ×                              |
|                 | 著作権処理等の法律相談の受付            | ○                       | ○                              |
| 経費処理等の事務手続きサポート | ○                         | ○                       |                                |
| 申請・契約校数         |                           | 申請55件、契約41校             | 申請14件・契約8校                     |

### 採択～事業終了までの流れ

採択から事業終了まで、最長で約6か月の実証期間となったため、月次の進捗管理等を行いながら、実証事業を行った。



日本語教育機関のニーズに即したオンライン教材とオンライン環境の提供により  
多様な教育内容を実証しました。

### 実証事業の事務局支援パッケージ

事務局支援パッケージは日本語教育機関のニーズに即した以下の3つの枠組みを設定。

オンライン教材の提供・整備と、オンライン授業のための環境構築の側面から日本語教育機関をサポートした。

#### オンライン教材支援

#### オンライン環境支援

#### 1 教材パッケージ提供

- 他校の既存教材
- 一般公開教材

#### 2 既存教材活用支援

- システム（LMS）構築

#### 3 オンラインツール支援

- ハード（機材）
- ソフト（Zoom）

日本語教育機関は事務局支援パッケージのうち実施したい取り組みを任意で選択して公募に申請。

全ての日本語教育機関に希望するオンライン教材・オンライン環境を提供できるよう、実施内容に応じて必要な支援を行った。

実証事業日本語教育機関  
49機関

X機関

Y機関

Z機関

・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
・

事務局支援パッケージ選択・費用算出

#### 事務局支援パッケージ一覧

##### ①教材パッケージ 選択

- (A) Japanese Express
- (B) 日本語能力試験（JLPT）対策
- (C) ビジネス日本語能力試験（BJT）対策
- (D) Magic Pocket
- (E) いろいろ
- (F) 授業収録

人件費×回数

##### ②既存機材活用 選択

- (G) 教材制作支援
- (H) 教材持ち込みによる授業支援
- (I) LMS構築支援

開発費  
人件費×回数

##### ③オンラインツール 選択

- タブレット・PC・ポケットWifi・  
マイク付きヘッドフォン

台数×期間

##### ④諸経費

- 広告費、機材費、その他日本語教育機関調達等

事務局支援パッケージ提供から実施・報告の進捗管理、実施後の効果検証までを一貫してサポートすることで、  
オンライン日本語教育のパターン別（領域×レベル×手法）展開課題と有効性を抽出した。

幅広い「日本語教育レベル」と「オンライン教育手法」に対応した教材パッケージで  
多様な組み合わせのオンライン日本語教育の実施を支援しました。

### オンライン教材支援<①教材パッケージ提供>

様式5「2. 日本語教育機関の実証内容」の[対象範囲を網羅するメニュー](#)を揃えた。

| レベル | 言語活動      | オンライン（双方向）のみ         |    |    | ハイブリッド型 |    |    | オンデマンド型 |    |    | ハイフレックス型 |    |    |
|-----|-----------|----------------------|----|----|---------|----|----|---------|----|----|----------|----|----|
|     |           | 進学                   | 就職 | 一般 | 進学      | 就職 | 一般 | 進学      | 就職 | 一般 | 進学       | 就職 | 一般 |
| A1  | 話す（やりとり）  | (E) いろいろ             |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 話す（発表）    |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 聞く        |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 読む        |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 書く        |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 日本事情・日本理解 |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | その他       |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
| A2  | 話す（やりとり）  | (A) Japanese Express |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 話す（発表）    |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 聞く        |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 読む        |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 書く        |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 日本事情・日本理解 |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | その他       |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
| B1  | 話す（やりとり）  |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 話す（発表）    |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 聞く        |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 読む        |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 書く        |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 日本事情・日本理解 |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | その他       |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
| B2  | 話す（やりとり）  |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 話す（発表）    |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 聞く        |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 読む        |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 書く        |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 日本事情・日本理解 |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | その他       |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
| C   | 話す（やりとり）  |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 話す（発表）    |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 聞く        |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 読む        |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 書く        |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | 日本事情・日本理解 |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |
|     | その他       |                      |    |    |         |    |    |         |    |    |          |    |    |

(D)  
M  
a  
g  
i  
c  
P  
o  
c  
k  
e  
t

(C)  
B  
J  
T  
対  
策

(B)  
J  
L  
P  
T  
対  
策

#### ■各メニューが対応する主な対象範囲

- (A) Japanese Express : A1、A2、A3、B1、B2、Cの話す／聞く／読む／書く／日本事情・日本理解
- (B) 日本語能力試験（JLPT）対策 : A2、A3、B1、B2、Cの話す／聞く／読む
- (C) ビジネス日本語能力試験（BJT）対策 : B1、B2、Cの話す／聞く／読む／日本事情・日本理解
- (D) Magic Pocket : A1、A2の話す／聞く／読む
- (E) いろいろ : A1、A2の話す／聞く／読む／書く／日本事情・日本理解

日本語教育機関ごとの授業スタイルに合わせて活用しやすい  
オンライン教材のパッケージを提供しました。

### オンライン教材支援 <①教材パッケージ提供>

「パッケージ化」されたオンライン教材は、eラーニング、アプリ、電子教科書、映像と様々な種類を用意。  
実施したい授業形態に合わせて、オンライン手法や日本語教育レベルごとにパッケージを選んで活用。

#### (A) Japanese Express

【概要】日本文化・日本事情/読解・語彙・文法・テストバンク

#### (B) 日本語能力試験 (JLPT) 対策

【概要】N1-N5/実力アップ・模擬テスト

#### (C) ビジネス日本語能力試験 (BJT) 対策

【概要】Standard・Vocabulary・模擬テスト

(A) ~ (C) は  
同一のLMSを使用

eラーニングシステム  
「スーパー日本語」



#### (D) Magic Pocket

【概要】

- ・レベル：日本語初級文型
- ・アプリシステム「Finger Board」を活用
- ・スマートフォンやタブレットのタッチ操作によって、  
文字、数、文法、単語、音声を入力するインタラクティブな学習ができる



#### (E) いろどり

【概要】

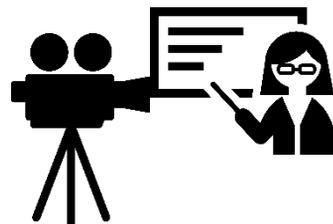
- ・レベル：JF日本語教育スタンダード A1~A2
- ・電子教科書と音声ファイルをウェブサイトから自由にダウンロード
- ・一般公開されているので本事業終了後でも継続して利用が可能
- ※国際交流基金様から本事業での使用許可取得済み



#### (F) 授業収録

【概要】

- ・各日本語教育機関の授業をそのままオンライン教材化。
- ・動画教材やLMS配信用として、手元に教材として使える動画がない場合や今回新たに動画を制作したい場合に活用



日本語教育機関ごとの既存の教材・カリキュラムやオンライン環境を考慮し、様々な要望に対応できる自由度の高いメニューを提供しました。

### オンライン教材支援 <② 既存教材活用支援>

各日本語教育機関の要望に合わせた教材制作や教材持ち込みに対応した**自由度の高いメニューを提供**。またLMS構築支援では、**準備から活用までをパッケージ化することで、経験やノウハウがなくオンライン授業にチャレンジできていなかった日本語教育機関でも積極的に手を挙げられることを目指した**。

#### (G) LMS構築支援

【対象】授業で活用している既存の学習コンテンツをオンラインで提供するシステムがない日本語教育機関

##### ■ 提供LMSパッケージ

既存のスライド型教材や動画教材等を搭載することや教材作成機能、テスト、アンケートを簡単に実施でき、管理者は学習者のアクセスログや学習履歴等が確認できます。

※基本機能：ダッシュボード／教材管理／割り当て／メディアライブラリ／ユーザー管理／レポート／サポート



### オンライン環境支援 <③ オンラインツール支援>

各日本語教育機関に合わせて活用しやすいハード機材・ビデオ会議ツール（Zoom）を提供。

#### (H) 機材提供

##### 【概要】

オンライン機材が用意できない日本語教育機関に対してタブレット・PC・ポケットwifi・マイク付きヘッドホンを出し

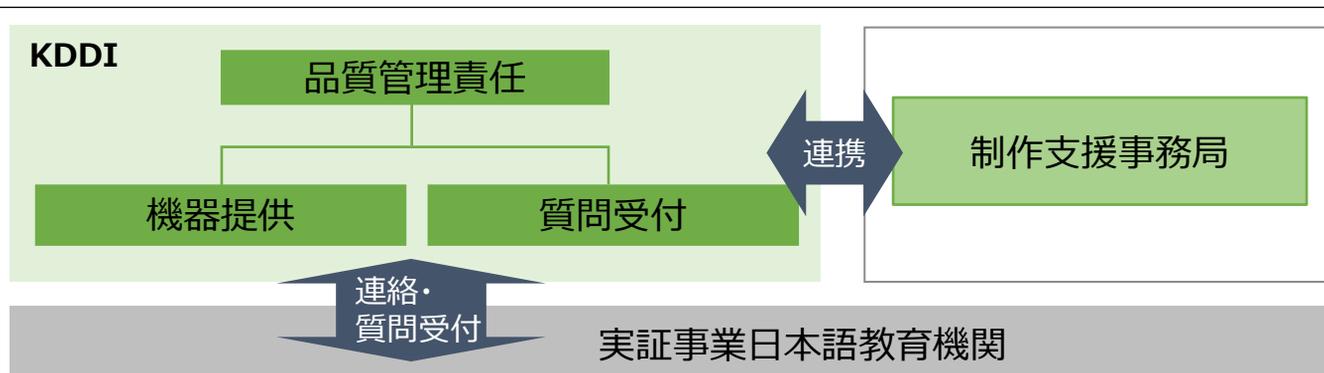


#### (I) Zoomアカウント提供

【概要】 Zoomアカウント（利用マニュアル、PCへのインストール作業含む）



実証事業日本語教育機関決定後、スムーズな機器・Zoom提供を行うための体制を構築し、事業開始までをスピーディーに導きます。



| 役割      | 内容  |
|---------|---|
| 品質管理責任者 | <ul style="list-style-type: none"> <li>業務の品質が組織内外のルールに適合しているか確認する</li> </ul>  |
| 機器提供チーム | <ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン授業に必要なPC/Wi-Fiルータ、タブレットおよび通信回線 ZoomIDを手配し、各日本語教育機関への配送・返却に関する業務を行う</li> <li>機器等の在庫管理および故障受付・交換対応に関する業務</li> </ul> |
| 質問受付    | <ul style="list-style-type: none"> <li>制作事務局監修のもと日本語教育機関が行うモデル事業の運営サポートとして「機器類やZoom利用等に関するQA質問受付業務」「各日本語教育機関が提出する授業レポートデータのチェック業務」を行う</li> </ul>              |

### ■ 機器・Zoom提供管理（KDDIチーム・凸版）シート、抜粋

| 学校名（二次募集）                | PKG① | PKG② | PKG③ | PC | Wi-Fi | タブレット | イヤホン | ZOOM ID |
|--------------------------|------|------|------|----|-------|-------|------|---------|
| 専修学校久留米ゼミナール             | 1    | 0    | 0    | 5  | 5     | 0     | 5    | 5       |
| 松戸国際学院                   | 1    | 0    | 0    | 5  | 5     | 0     | 5    | 10      |
| 横浜国際教育学院                 | 1    | 0    | 0    | 5  | 5     | 0     | 5    | 5       |
| 大阪国際教育学院                 | 0    | 0    | 2    | 10 | 10    | 40    | 50   | 5       |
| ARMS日本語学校                | 0    | 0    | 1    | 5  | 5     | 20    | 25   | 10      |
| 学校法人さくら国際学園専門学校さくら国際言語学院 | 1    | 0    | 0    | 5  | 5     | 0     | 5    | 5       |
| 名古屋国際学院                  | 1    | 0    | 0    | 5  | 5     | 0     | 5    | 5       |
| 国際言語文化センター附属日本語学校        | 1    | 0    | 0    | 5  | 5     | 0     | 5    | 5       |
| 理知の社日本語学校東京校             | 1    | 0    | 0    | 5  | 5     | 0     | 5    | 5       |

### ■ 機器・Zoomに関する設定マニュアル等の紹介サイトトップページ

KDDI端末支援センター

各種資料を下記メニューよりダウンロードいただけます。

**Zoom**  
 先生向けのマニュアルは[こちら](#)  
 生徒向けのマニュアルは[こちら](#)

**タブレット**  
 初期設定は[こちら](#)

**モバイルWiFiルータ**  
 初期設定は[こちら](#)

**PC**  
 Adobe Acrobat Reader DCダウンロード方法は[こちら](#)  
 Microsoft Office Online 使用方法は[こちら](#)

**端末全般**  
 機材類送付に関するご案内は[こちら](#)  
 返却票は[こちら](#)

## 実証参加学校、提供教材一覧

| 教育機関名        | 教材   | その他  |
|--------------|--|--|
| A.C.C.国際交流学園 | [10-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース : 10<br>いろいろ生活の日本語 - アカウント数 : 10<br>(追加)[10-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース : 30   | ZOOMアカウント提供 ID数 : 5 - 納品希望月:2022年9月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年9月 1式  |
| 神戸東洋日本語学院    | [7-9月利用可能コース] Japanese Express～Reading Bank : 25<br>[7-9月利用可能コース] JLPT 実力アップコース : 25<br>[10-12月利用可能コース] Japanese Express～Reading Bank : 25<br>[10-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース : 25<br>「Magic Pocket」 - 納品希望月:2022年7月 : 50<br>いろいろ生活の日本語 - アカウント数 : 50 | ZOOMアカウント提供 ID数 : 5 - 納品希望月:2022年7月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年7月 1式  |
| エール学園日本語教育学科 | [7-9月利用可能コース] Japanese Express～Reading Bank : 50<br>[10-12月利用可能コース] Japanese Express～Reading Bank : 50   | ZOOMアカウント提供 ID数 : 5 - 納品希望月:2022年8月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年8月 1式  |
| 熊本YMCA学院日本語科 | いろいろ生活の日本語 - アカウント数 : 11   | ZOOMアカウント提供 ID数 : 5 - 納品希望月:2022年7月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年7月 1式  |
| 日本語センター      | [7-9月利用可能コース] Japanese Express～Reading Bank : 15<br>[7-9月利用可能コース] JLPT 実力アップコース : 15<br>[10-12月利用可能コース] Japanese Express～Reading Bank : 15<br>[10-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース : 15  | ZOOMアカウント提供 ID数 : 10 - 納品希望月:2022年9月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年9月 1式   |
| 国書日本語学校      | [7-9月利用可能コース] JLPT 実力アップコース : 50<br>「Magic Pocket」 - 納品希望月:2022年7月 : 20<br>(追加)「Magic Pocket」 - 納品希望月:2022年7月 : 10   | ZOOMアカウント提供 ID数 : 10 - 納品希望月:2022年7月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年7月 2式   |
| 大阪外語学院       | [7-9月利用可能コース] Japanese Express～Reading Bank : 25<br>[10-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース : 50<br>「Magic Pocket」 - 納品希望月:2022年7月 : 100  | ZOOMアカウント提供 ID数 : 10 - 納品希望月:2022年7月<br>機材提供パッケージ③ - 納品希望月:2022年7月 1式  |
| サム教育学院       | いろいろ生活の日本語 - アカウント数 : 1  | ZOOMアカウント提供 ID数 : 5 - 納品希望月:2022年7月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年7月 1式<br>動画制作支援 - 納品希望月:2022年7月 1式⇒取下げ<br>e-ラーニングシステム構築支援 - 納品希望月:2022年7月 1式 |

## 実証参加学校、提供教材一覧

| 教育機関名                  | 教材   | その他  |
|------------------------|--|--|
| 国際未来学院                 | [7-9月利用可能コース] JLPT 実力アップコース : 50<br>[10-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース : 50  | ZOOMアカウント提供 ID数 : 10 - 納品希望月:2022年7月<br>機材提供パッケージ③- 納品希望月:2022年7月 2式<br>e-ラーニングシステム構築支援 - 納品希望月:2022年7月 2式⇒取下げ |
| ヒューマンアカデミー<br>日本語学校東京校 | [7-9月利用可能コース] BJT対策 : 26<br>[10-12月利用可能コース] BJT対策 : 26   | ZOOMアカウント提供 ID数 : 5 - 納品希望月:2022年7月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年7月 1式  |
| 日立さくら日本語学校             | [7-9月利用可能コース] Japanese Express～Reading Bank : 15<br>[7-9月利用可能コース] JLPT 実力アップコース : 20<br>[7-9月利用可能コース] BJT対策 : 10<br>[10-12月利用可能コース] Japanese Express～Reading Bank : 20<br>[10-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース : 10<br>[10-12月利用可能コース] BJT対策 : 10<br>「Magic Pocket」 - 納品希望月:2022年7月 : 50<br>いろいろ生活の日本語 - アカウント数 : 20 | ZOOMアカウント提供 ID数 : 30 - 納品希望月:2022年7月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年7月 2式   |
| ダイワアカデミー               | [7-9月利用可能コース] Japanese Express～Reading Bank : 15<br>[7-9月利用可能コース] JLPT 実力アップコース : 30<br>[7-9月利用可能コース] BJT対策 : 5<br>[10-12月利用可能コース] Japanese Express～Reading Bank : 15<br>[10-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース : 35<br>「Magic Pocket」 - 納品希望月:2022年7月 : 70<br>いろいろ生活の日本語 - アカウント数 : 70                                | ZOOMアカウント提供 ID数 : 30 - 納品希望月:2022年7月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年7月 2式   |
| 熊本工業専門学校日本語科           | [7-9月利用可能コース] JLPT 実力アップコース : 50<br>[10-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース : 25<br>「Magic Pocket」 - 納品希望月:2022年10月 : 25  | ZOOMアカウント提供 ID数 : 30 - 納品希望月:2022年7月<br>機材提供パッケージ③- 納品希望月:2022年7月 2式   |
| ジェット日本語学校              | [7-9月利用可能コース] Japanese Express～Reading Bank : 15<br>[7-9月利用可能コース] JLPT 実力アップコース : 15<br>[7-9月利用可能コース] BJT対策 : 15<br>[10-12月利用可能コース] Japanese Express～Reading Bank : 15<br>[10-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース : 15<br>[10-12月利用可能コース] BJT対策 : 15<br>いろいろ生活の日本語 - アカウント数 : 20  | ZOOMアカウント提供 ID数 : 10 - 納品希望月:2022年7月<br>機材提供パッケージ③ - 納品希望月:2022年7月 -1式<br>動画制作支援 - 納品希望月:2022年7月 2式            |

## 実証参加学校、提供教材一覧

| 教育機関名           | 教材   | その他  |
|-----------------|--|--|
| 静岡インターナショナルスクール | [7-9月利用可能コース] JLPT 実力アップコース：50<br>[10-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース：50  | ZOOMアカウント提供 ID数：5 - 納品希望月：2022年7月<br>機材提供パッケージ① - 納品希望月：2022年7月 2式<br>e-ラーニングシステム構築支援 - 納品希望月：2022年7月 1式 |
| 広島YMCA専門学校      | いろいろ生活の日本語 - アカウント数：18   | ZOOMアカウント提供 ID数：5 - 納品希望月：2022年7月<br>機材提供パッケージ① - 納品希望月：2022年7月 1式                                       |
| 専修学校久留米ゼミナール    | [9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース：15   | ZOOMアカウント提供 ID数：5 - 納品希望月：2022年9月<br>機材提供パッケージ① - 納品希望月：2022年9月 1式                                       |
| 湘南日本語学園浜松校      | [9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース：50<br><追加><br>[9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース：70<br>「Magic Pocket」 - 納品希望月：2022年9月：160 | ZOOMアカウント提供 ID数：10 - 納品希望月：2022年9月<br>機材提供パッケージ① - 納品希望月：2022年9月 1式                                      |
| 江戸川国際学院         | 「Magic Pocket」 - 納品希望月：2022年9月：3<br><追加><br>「Magic Pocket」 - 納品希望月：2022年11月：22                                 | ZOOMアカウント提供 ID数：5 - 納品希望月：2022年9月<br>機材提供パッケージ① - 納品希望月：2022年9月 1式<br>e-ラーニングシステム構築支援 - 納品希望月：2022年9月 1式 |
| 松戸国際学院          | [9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース：30   | ZOOMアカウント提供 ID数：10 - 納品希望月：2022年9月<br>機材提供パッケージ① - 納品希望月：2022年9月 1式                                      |
| 横浜国際教育学院        | [9-12月利用可能コース] BJT対策：20<br>いろいろ生活の日本語 - アカウント数：60  | ZOOMアカウント提供 ID数：5 - 納品希望月：2022年9月<br>機材提供パッケージ① - 納品希望月：2022年9月 1式                                       |
| YIEA東京アカデミー     | いろいろ生活の日本語 - アカウント数：60   | ZOOMアカウント提供 ID数：5 - 納品希望月：2022年9月<br>機材提供パッケージ① - 納品希望月：2022年9月 1式                                       |
| 大阪国際教育学院        | [9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース：50   | ZOOMアカウント提供 ID数：5 - 納品希望月：2022年9月<br>機材提供パッケージ③ - 納品希望月：2022年9月 2式                                       |
| 西日本ビジネス語学学院     | [9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース：30<br>「Magic Pocket」 - 納品希望月：2022年9月：40  | ZOOMアカウント提供 ID数：5 - 納品希望月：2022年9月<br>機材提供パッケージ① - 納品希望月：2022年9月 1式                                       |

## 実証参加学校、提供教材一覧

| 教育機関名                        | 教材  | その他  |
|------------------------------|---|--|
| ARMS日本語学校                    | [9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース：50<br>「Magic Pocket」- 納品希望月:2022年9月：80<br>いどころ生活の日本語 - アカウント数：80  | ZOOMアカウント提供 ID数：10 - 納品希望月:2022年9月<br>機材提供パッケージ③- 納品希望月:2022年9月 1式                               |
| H&A日本語学校                     | [9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース：50<br>「Magic Pocket」- 納品希望月:2022年9月：80<br>いどころ生活の日本語 - アカウント数：80  | ZOOMアカウント提供 ID数：10 - 納品希望月:2022年9月<br>機材提供パッケージ③- 納品希望月:2022年9月 1式<br>動画制作支援 - 納品希望月:2022年10月 1式 |
| 学校法人さくら国際学園専門学校<br>さくら国際言語学院 | [9-12月利用可能コース] Japanese Express～Reading Bank：40<br>いどころ生活の日本語 - アカウント数：40   | ZOOMアカウント提供 ID数：5 - 納品希望月:2022年9月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年9月 1式                                |
| 名古屋国際学院                      | [9-12月利用可能コース] Japanese Express～Reading Bank：25<br>[9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース：25<br>「Magic Pocket」- 納品希望月:2022年9月：25                           | ZOOMアカウント提供 ID数：5 - 納品希望月:2022年9月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年9月 1式                                |
| カナン国際教育学院                    | [9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース：50<br>「Magic Pocket」- 納品希望月:2022年9月：50  | ZOOMアカウント提供 ID数：10 - 納品希望月:2022年9月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年9月 1式                               |
| 国際言語文化センター附属<br>日本語学校        | いどころ生活の日本語 - アカウント数：60  | ZOOMアカウント提供 ID数：5 - 納品希望月:2022年9月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年9月 1式                                |
| 理知の杜日本語学校東京校                 | [9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース：15<br>「Magic Pocket」- 納品希望月:2022年9月：40<br>いどころ生活の日本語 - アカウント数：15  | ZOOMアカウント提供 ID数：5 - 納品希望月:2022年9月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年9月 1式                                |
| 東京日野国際学院                     | [9-12月利用可能コース] Japanese Express～Reading Bank：20<br>[9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース：10<br>「Magic Pocket」- 納品希望月:2022年9月：10<br>いどころ生活の日本語 - アカウント数：40 | ZOOMアカウント提供 ID数：5 - 納品希望月:2022年9月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年9月 1式                                |
| 大阪みなみ日本語学校                   | [9-12月利用可能コース] Japanese Express～Reading Bank：20<br>[9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース：20<br>「Magic Pocket」- 納品希望月:2022年9月：20<br>いどころ生活の日本語 - アカウント数：20 | ZOOMアカウント提供 ID数：5 - 納品希望月:2022年9月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年9月 1式                                |

## 実証参加学校、提供教材一覧

| 教育機関名             | 教材  | その他  |
|-------------------|---|--|
| ループインターナショナル日本語学校 | 「Magic Pocket」 - 納品希望月:2022年9月:45   | ZOOMアカウント提供 ID数:5 - 納品希望月:2022年9月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年9月 1式    |
| E C C 日本語学院名古屋校   | [9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース:50<br>いどころ生活の日本語 - アカウント数:50  | ZOOMアカウント提供 ID数:5 - 納品希望月:2022年9月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年9月 1式    |
| E C C 日本語学院神戸校    | [9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース:20<br>いどころ生活の日本語 - アカウント数:20  | ZOOMアカウント提供 ID数:5 - 納品希望月:2022年9月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年9月 1式    |
| E C C 日本語学院新宿校    | [9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース:15<br>いどころ生活の日本語 - アカウント数:15  | ZOOMアカウント提供 ID数:5 - 納品希望月:2022年9月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年9月 1式    |
| A M A 日本カレッジ      | [9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース:10<br>「Magic Pocket」 - 納品希望月:2022年11月:10<br>いどころ生活の日本語 - アカウント数:10                          | ZOOMアカウント提供 ID数:10 - 納品希望月:2022年11月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年11月 1式 |
| のぞみ日本語学校          | [9-12月利用可能コース] Japanese Express~Reading Bank:50<br>[9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース:50<br>「Magic Pocket」 - 納品希望月:2022年11月:50 | ZOOMアカウント提供 ID数:5 - 納品希望月:2022年11月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年11月 1式  |
| 東京桜橋外語学院          | [9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース:10  | ZOOMアカウント提供 ID数:5 - 納品希望月:2022年11月<br>機材提供パッケージ①- 納品希望月:2022年11月 1式  |
| ノースリバー日本語スクール     | いどころ生活の日本語 - アカウント数:10  | ZOOMアカウント提供 ID数:5 - 納品希望月:2022年11月<br>機材提供パッケージ②- 納品希望月:2022年11月 1式  |
| 京都励学国際学院          | [7-9月利用可能コース] JLPT 実力アップコース:10<br>[10-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース:10<br>「Magic Pocket」 - 納品希望月:2022年7月:20                  |  |

## 実証参加学校、提供教材一覧

| 教育機関名                         | 教材   | その他  |
|-------------------------------|--|--|
| B04<br>相模国際学院                 | [7-9月利用可能コース] Japanese Express~Reading Bank : 25<br>[7-9月利用可能コース] JLPT 実力アップコース : 25<br>[10-12月利用可能コース] Japanese Express~Reading Bank : 25<br>[10-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース : 25<br>「Magic Pocket」 - 納品希望月:2022年7月 : 60<br>いどころ生活の日本語 - アカウント数 : 60 |  |
| B58<br>九段日本文化研究所日本語学院         | [9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース : 50<br>[9-12月利用可能コース] BJT対策 : 30  |  |
| B59<br>上山学院日本語学校              | [9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース : 50<br>「Magic Pocket」 - 納品希望月:2022年9月 : 50<br>いどころ生活の日本語 - アカウント数 : 50  |  |
| 【事業中止】<br>文林学院日本語科            | [7-9月利用可能コース] JLPT 実力アップコース : 15<br>[7-9月利用可能コース] BJT対策 : 5<br>[10-12月利用可能コース] Japanese Express~Reading Bank : 15<br>[10-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース : 15<br>[10-12月利用可能コース] BJT対策 : 5<br>いどころ生活の日本語 - アカウント数 : 50                                    | ZOOMアカウント提供 ID数 : 10 - 納品希望月:2022年7月<br>機材提供パッケージ③ - 納品希望月:2022年7月 1式<br>動画制作支援 - 納品希望月:2022年7月 1式⇒事業中止<br>e-ラーニングシステム構築支援 - 納品希望月:2022年8月 1式⇒事業中止 |
| 【事業中止】<br>ホツマインターナショナルスクール東京校 | [9-12月利用可能コース] JLPT実力アップコース : 50   | ZOOMアカウント提供 ID数 : 10 - 納品希望月:2022年9月<br>機材提供パッケージ① - 納品希望月:2022年9月 1式  |
| 【事業中止】<br>徳山総合ビジネス専門学校        | 「Magic Pocket」 - 納品希望月:2022年9月 : 20  | ZOOMアカウント提供 ID数 : 5 - 納品希望月:2022年9月<br>機材提供パッケージ① - 納品希望月:2022年9月 1式   |

## ※提供パッケージ内容詳細

|  |   |   |
|--|---|---|
| <b>機材提供パッケージ① :</b><br>・ノートPC 5台<br>・モバイルWifi 5台<br>・ヘッドフォン 5個 | <b>機材提供パッケージ② :</b><br>・ノートPC 1台<br>・モバイルWifi 1台<br>・タブレット 10台<br>・ヘッドフォン 11個 | <b>機材提供パッケージ③</b><br>・ノートPC 5台<br>・モバイルWifi 5台<br>・タブレット 20台<br>・ヘッドフォン 25個 |
|--|---|---|

## 2 3. 実証事業 ～実証内容について～

実証事業では、49校が参加、合計164クラス（合計2071人の受講者）を実施。  
**A1、A2といった初級レベル、また、「話す（やりとり）」**  
**「聞く」「読む」と言った言語活動を扱うクラスが多い結果となりました。**

### 実証内容

日本語教育機関が実施したクラス毎の「レベル」「言語活動」「教育手法」に関して、様式5「2. 日本語教育機関の実証内容」の一覧表にそれぞれ該当する内容を表示した。A1、A2を対象としたクラスが多く、B2、C1を対象とした実施クラスは少ない結果となった。

| レベル | 言語活動      | オンライン（双方向）のみ |    |    | ハイブリッド型 |    |    | オンデマンド型 |    |    | ハイフレックス型 |    |    |
|-----|-----------|--------------|----|----|---------|----|----|---------|----|----|----------|----|----|
|     |           | 進学           | 就職 | 一般 | 進学      | 就職 | 一般 | 進学      | 就職 | 一般 | 進学       | 就職 | 一般 |
| A1  | 話す（やりとり）  | 68           | 16 | 12 | 12      | 6  | 1  | 16      | 6  | 4  | 8        | 2  | 0  |
|     | 話す（発表）    | 32           | 6  | 6  | 10      | 3  | 1  | 12      | 5  | 3  | 5        | 1  | 0  |
|     | 聞く        | 64           | 16 | 12 | 13      | 7  | 1  | 19      | 6  | 4  | 8        | 2  | 0  |
|     | 読む        | 62           | 15 | 12 | 13      | 7  | 1  | 16      | 5  | 4  | 7        | 2  | 0  |
|     | 書く        | 43           | 12 | 10 | 11      | 7  | 1  | 13      | 4  | 3  | 3        | 1  | 0  |
|     | 日本事情・日本理解 | 32           | 11 | 10 | 8       | 1  | 1  | 6       | 4  | 3  | 3        | 1  | 0  |
|     | その他       | 33           | 7  | 3  | 7       | 0  | 0  | 9       | 2  | 1  | 3        | 1  | 0  |
| A2  | 話す（やりとり）  | 46           | 17 | 18 | 9       | 4  | 1  | 9       | 5  | 1  | 9        | 2  | 0  |
|     | 話す（発表）    | 28           | 9  | 8  | 5       | 2  | 0  | 6       | 4  | 1  | 4        | 1  | 0  |
|     | 聞く        | 46           | 17 | 18 | 10      | 5  | 1  | 12      | 5  | 1  | 9        | 2  | 0  |
|     | 読む        | 45           | 15 | 17 | 10      | 5  | 1  | 11      | 4  | 1  | 9        | 2  | 0  |
|     | 書く        | 29           | 11 | 12 | 6       | 4  | 0  | 8       | 2  | 1  | 3        | 1  | 0  |
|     | 日本事情・日本理解 | 26           | 11 | 13 | 3       | 0  | 0  | 3       | 1  | 1  | 3        | 1  | 0  |
|     | その他       | 33           | 9  | 6  | 4       | 1  | 1  | 6       | 2  | 1  | 7        | 2  | 0  |
| B1  | 話す（やりとり）  | 22           | 9  | 6  | 4       | 2  | 1  | 4       | 2  | 0  | 3        | 1  | 0  |
|     | 話す（発表）    | 10           | 4  | 2  | 0       | 0  | 0  | 1       | 0  | 0  | 2        | 1  | 0  |
|     | 聞く        | 22           | 9  | 6  | 4       | 2  | 1  | 7       | 2  | 0  | 3        | 1  | 0  |
|     | 読む        | 21           | 8  | 5  | 5       | 2  | 1  | 7       | 2  | 0  | 3        | 1  | 0  |
|     | 書く        | 8            | 5  | 3  | 1       | 0  | 0  | 4       | 0  | 0  | 2        | 1  | 0  |
|     | 日本事情・日本理解 | 13           | 9  | 4  | 1       | 1  | 0  | 3       | 2  | 0  | 2        | 1  | 0  |
|     | その他       | 16           | 4  | 3  | 3       | 1  | 1  | 2       | 0  | 0  | 2        | 1  | 0  |
| B2  | 話す（やりとり）  | 14           | 8  | 3  | 1       | 1  | 0  | 2       | 3  | 0  | 0        | 0  | 0  |
|     | 話す（発表）    | 6            | 3  | 1  | 0       | 0  | 0  | 0       | 0  | 0  | 0        | 0  | 0  |
|     | 聞く        | 15           | 8  | 3  | 1       | 1  | 0  | 2       | 3  | 0  | 0        | 0  | 0  |
|     | 読む        | 15           | 8  | 3  | 2       | 1  | 0  | 2       | 3  | 0  | 0        | 0  | 0  |
|     | 書く        | 5            | 5  | 3  | 1       | 0  | 0  | 0       | 0  | 0  | 0        | 0  | 0  |
|     | 日本事情・日本理解 | 7            | 7  | 3  | 1       | 1  | 0  | 1       | 2  | 0  | 0        | 0  | 0  |
|     | その他       | 9            | 3  | 2  | 0       | 0  | 0  | 1       | 1  | 0  | 0        | 0  | 0  |
| C   | 話す（やりとり）  | 4            | 0  | 0  | 0       | 0  | 0  | 0       | 0  | 0  | 0        | 0  | 0  |
|     | 話す（発表）    | 1            | 0  | 0  | 0       | 0  | 0  | 0       | 0  | 0  | 0        | 0  | 0  |
|     | 聞く        | 4            | 0  | 0  | 0       | 0  | 0  | 0       | 0  | 0  | 0        | 0  | 0  |
|     | 読む        | 4            | 0  | 0  | 0       | 0  | 0  | 0       | 0  | 0  | 0        | 0  | 0  |
|     | 書く        | 1            | 0  | 0  | 0       | 0  | 0  | 0       | 0  | 0  | 0        | 0  | 0  |
|     | 日本事情・日本理解 | 1            | 0  | 0  | 0       | 0  | 0  | 0       | 0  | 0  | 0        | 0  | 0  |
|     | その他       | 2            | 0  | 0  | 0       | 0  | 0  | 0       | 0  | 0  | 0        | 0  | 0  |

日本語教育機関より提出頂いたクラス内容（対象として当て嵌まるすべての枠に「1」を記載）を元にそれぞれの枠の総和を記載。

本事業に関する広報活動は、「事業WEBサイト」を軸とした各種情報の発信、また、関連WEBメディアと連携し、全国の日本語教育機関への周知活動を実施しました。

### 実証事業への公募参加促進活動

実証事業への参加促進に向けて、公募の募集状況に応じて適宜実施内容を計画して対応。3つの施策を日本語教育機関の要望に合わせて対応し、また日本語教育振興協会の持つネットワークを活用し広く周知活動を実施した。

#### ■ 実証事業への参加促進活動



##### 1. 公募説明会の開催

【内容】  
 ・事業の全体概要の説明  
 ・事務局支援メニュー紹介  
 ・研修事業紹介  
 ・申請方法の紹介

【日時】  
 令和4年5月12日

【形式】  
 Zoomウェビナー

【参加数】  
 157名

##### 2. 事業相談会の開催

【内容】  
 ・事務局支援教材商材  
 ・申請方法について  
 ・質疑応答

【日時】  
 1回目:令和4年6月10日  
 2回目:令和4年6月14日  
 3回目:令和4年6月20日

【形式】  
 Zoomミーティング

【参加数】  
 19名 34名 21名

##### 3. 個別相談を実施

【内容】  
 ・申請方法について  
 (内容や書類の詳細)  
 ・個々の質疑対応

【日時】  
 令和4年6月10日～  
 令和4年7月7日～

【形式】  
 適宜状況に応じて対応  
 ・個別のZoomミーティング  
 ・対面訪問  
 ・個別の電話・メール

日本語教育振興協会と連携

### 成果報告の周知広報活動

本事業の成果報告を広く日本語教育機関へ周知していく為、成果報告会の開催及び成果報告概要版を事業サイトに掲示、さらに日本最大規模の外国人留学生向け日本留学情報WEBメディア等を通じて、周知広報活動を実施した。

#### ■ 成果報告の周知・広報活動

##### 成果報告会の開催

【内容】  
 実証事業、自主事業、研修  
 事業における実証成果の報告

【日時】  
 令和5年2月13日

【形式】  
 Zoomウェビナー

日本語教育振興協会と連携

##### WEBメディアへ掲示

【内容】  
 事業成果の報告書概要版を  
 WEBメディアを通じて情報発信

関連事業者と連携

## 2 4. 事業全体の発信\_HPの制作

本事業の概要および最終成果等を取りまとめるHPを制作。  
 実証事業の公募や研修事業など、運用ページを主とする第一期、  
 事業進捗や成果発信を主とする第二期にフェイズ分けして構築・運用しました。

■ サイトURL : <https://tpn.onlinnihongo.bunka.go.jp/>

■ サイト構成図および掲載資料

### 公開画面

#### TOPページ

事業概要・公募要領・FAQ  
 (PDF形式)



申請資料  
 (ZIPファイル)



**研修の学習スケジュール (OA)**

各研修の研修の学習スケジュールのページにリンクが貼られています。  
 ※本資料は、研修開始の作成受領のため公表となりますが、掲載は不詳です。

| 研修名称     | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----------|----|----|----|-----|-----|-----|
| 1 研修概要説明 |    |    |    |     |     |     |
| 2 研修内容説明 |    |    |    |     |     |     |
| 3 研修申込受付 |    |    |    |     |     |     |
| 4 研修申込受付 |    |    |    |     |     |     |
| 5 研修申込受付 |    |    |    |     |     |     |
| 6 研修申込受付 |    |    |    |     |     |     |
| 7 研修申込受付 |    |    |    |     |     |     |
| 8 研修申込受付 |    |    |    |     |     |     |
| 9 研修申込受付 |    |    |    |     |     |     |

#### 実証事業申請ページ

申し込み (A)

申し込み (B)

#### 研修ページ

研修ABC

- ・研修概要
- ・スケジュール
- ・受講用動画  
⇒研修Aのみ



FAQ  
 (PDF形式)



### 管理画面

申し込み (A) 一覧

申し込み (B) 一覧

CSVダウンロード

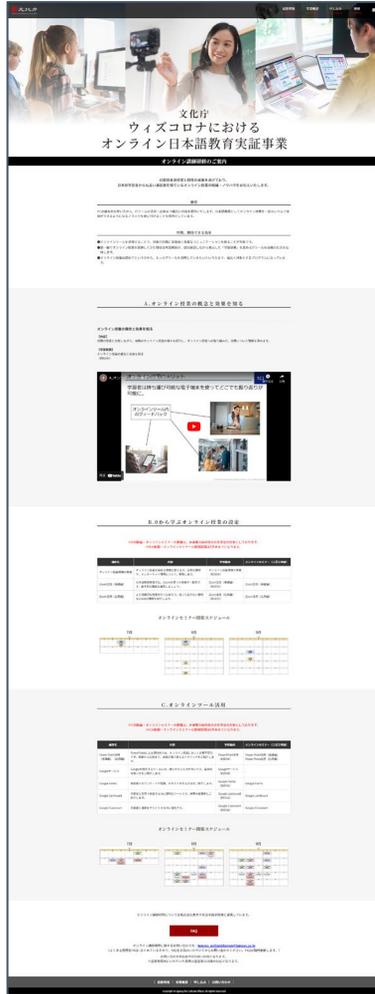
ステータス変更  
 申請受付済み／適合検査中／  
 不備修正依頼中／有識者審査中／  
 【審査済】不採択

事業計画書生成

各種申請資料ダウンロード

# 2 4. 事業全体の発信\_HPの制作

## ■サイトデザイン (TOPページ、研修ページ、管理ページ)





本事業の成果報告を広く日本語教育機関等に周知していくため、親和性の高いメディアを活用した広報活動を実施しました。

## WEBメディアを通じた広報活動

Japan study supportを活用し、日本語教育機関及び留学生に向けて、多角的に情報発信を行い、本事業の成果（業務成果報告書PDF）を周知した。

### JAPAN STUDY SUPPORT Information for international students

Japan study supportは、外国人留学生募集をしている約1,300校の大学・大学院・短大・専門学校情報や奨学金情報、日本での生活情報などを日本語・英語・簡体字・繁体字・韓国語・タイ語・ベトナム語・インドネシア語の8言語で掲載しており、月間約4万名が閲覧をしている日本最大規模の外国人留学生向け日本留学情報サイトです。



## ■ ニュース欄への掲載（PC版）

ニュース

世界の幸せをカタチにする。  
Creating Peace & Happiness for the World

MU Musashino University 武蔵野大学

2023/03/01 学校ニュース 京都外国語大学 留学生別科 日本語 研修課程 ■ 留学生別科 ...

2023/02/24 学校ニュース 武蔵野大学 グローバル 【NEWS】 「世界の幸せをカタチに...」

2023/02/24 学校ニュース 愛知淑徳大学 留学生別科 2023年秋学期出願受付開始 愛知淑...

2023/02/28 教育ニュース 文化庁オンライン日本語教育実証事業の「成果報告書（抜粋版）」が公開されました。

2023/02/22 学校ニュース 新潟食料農業大学 食料産業 外国人留学生選抜（D日程）3月...

2023/02/17 学校ニュース 国際大学 国際経営学研究科 オンライン説明会開催：2月22日...

2023/02/17 学校ニュース 武蔵野大学 グローバル 【NEWS】 2024年メタバースキャン...

2023/02/16 学校ニュース 龍谷大学 留学生別科 龍谷大学は2023年4月本学の10番目の学...

## ■ ニュース欄への掲載（スマートフォン版）

JAPAN STUDY SUPPORT  
Information for international students

利用規約が変更されました。変更内容はオンライン版に掲載しております

ホーム

Making your  
of studying in Japan  
come true

先輩が語る日本留学の魅力

今すぐ登録する

2023/02/28 教育ニュース 文化庁オンライン日本語教育実証事業の「成果報告書（抜粋版）」が公開されました。

2023/02/24 学校ニュース 武蔵野大学 グローバル 【NEWS】 「世界の幸せをカタチに...」

2023/02/24 学校ニュース 愛知淑徳大学 留学生別科 2023年秋学期出願受付開始 愛知淑...

2023/02/28 教育ニュース 文化庁オンライン日本語教育実証事業の「成果報告書（抜粋版）」が公開されました。

今すぐ登録する

2023/02/25 学校ニュース

2023/02/25 学校ニュース

今すぐ登録する

## 英語版

News

世界の幸せをカタチにする。  
Creating Peace & Happiness for the World

MU Musashino University 武蔵野大学

2023/03/01 2023/02/24 2023/02/24

Koto University of Foreign Studies Japanese Studies Ca... Musashino University Global Studies 【NEWS】 「世界の... Aichi Shukutoku University Center for Japanese Language...

2023/02/28 The results report of "Online Japanese Language Education Demonstration Project" has been released by Agency for Cultural Affairs.

2023/02/22 Nigeria AgraFood University Agro-Food Industry 外関人... International University of Japan Graduate School of In... Musashino University Global Studies 【NEWS】 2024年メ...

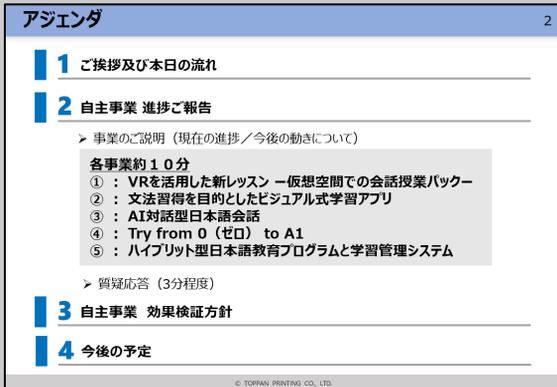


## 2 4. 事業全体の発信\_中間報告会について

自主事業について、開発の背景・目的・特長（有効性／継続性／新規性など）を整理すると共に、実際に授業で活用するコンテンツのデモンストレーションを行いました。

### 開催概要

以下、実施概要表の通り、運営を行った。

|                  |  |
|------------------|--|
| 名称               | ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業<br>中間報告会（自主事業）  |
| 日時               | 2022年12月14日（水）16時～17時  |
| 参加者              | 文化庁、日本語教育振興協会、インターカルト日本語学校、アジア学生文化協会、<br>凸版印刷株式会社、デロイトトーマツコンサルティング合同会社             |
| 実施形態             | ZOOMミーティング   |
| アジェンダ<br>※投影資料より |  |

### 開催結果

参加者は31名。「授業の導入時間にかかる時間が減り、会話にかかる時間を増やすことが出来た」等、自主事業で開発したコンテンツを活用し実際に授業を運営していくなかで、手ごたえを感じるコメントがあった。

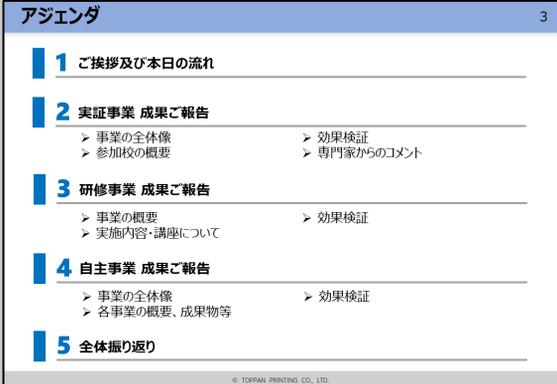
#### ■実施風景（抜粋）



事業全体（研修・自主・実証）について、日本語教育機関視点での各事業の概要説明のほか、事務局による効果検証結果および、そこから推察される課題と今後の展望について、報告を行いました。

## 開催概要

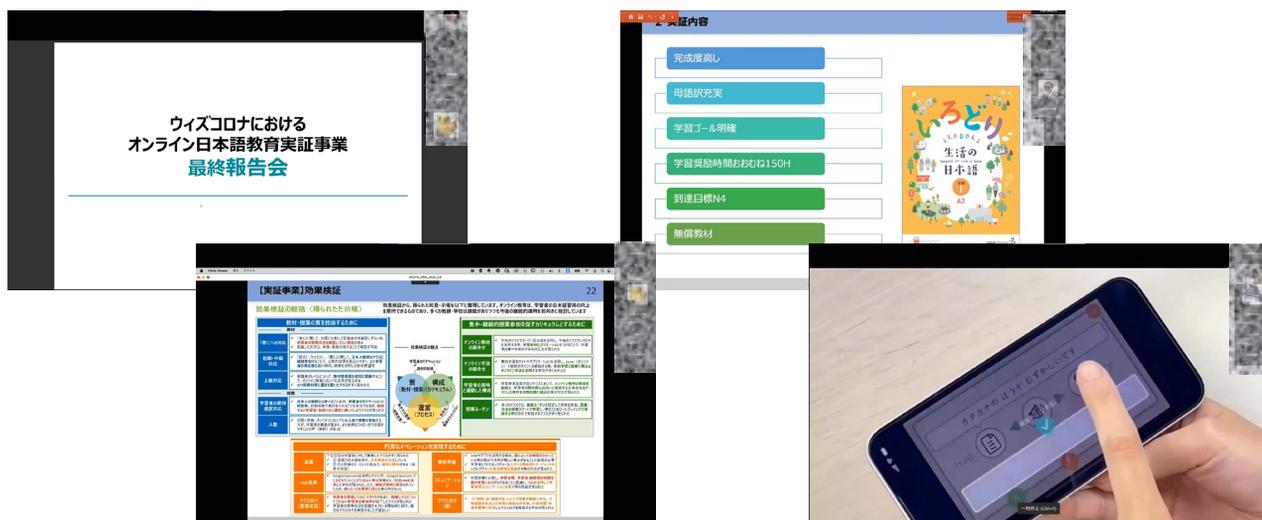
以下、実施概要表の通り、運営を行った。

|                  |  |
|------------------|--|
| 名称               | ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業<br>最終成果報告会  |
| 日時               | 2023年2月13日（月）14時～16時   |
| 参加者              | 文化庁、日本語教育振興協会、日本語教育の有識者、事例発表校（インターカルト日本語学校、アジア学生文化協会、サム教育学院、日本語センター、東京中央日本語学院）、実証事業日本語教育機関、凸版印刷株式会社、デロイトトーマツコンサルティング合同会社、ほか一般傍聴  |
| 実施形態             | ZOOMウェビナー  |
| アジェンダ<br>※投影資料より |  <p>アジェンダ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ご挨拶及び本日の流れ</li> <li>実証事業 成果ご報告       <ul style="list-style-type: none"> <li>事業の全体像</li> <li>参加校の概要</li> <li>効果検証</li> <li>専門家からのコメント</li> </ul> </li> <li>研修事業 成果ご報告       <ul style="list-style-type: none"> <li>事業の概要</li> <li>実施内容・講座について</li> <li>効果検証</li> </ul> </li> <li>自主事業 成果ご報告       <ul style="list-style-type: none"> <li>事業の全体像</li> <li>各事業の概要、成果物等</li> <li>効果検証</li> </ul> </li> <li>全体振り返り</li> </ol> <p>© TOPPAN PRINTING CO., LTD.</p> |

## 開催結果

参加者は127名。質・運営・構成の観点から、今後オンライン授業を展開していくうえでの課題を各日本語教育機関が分析、発表した。

### ■実施風景（抜粋）



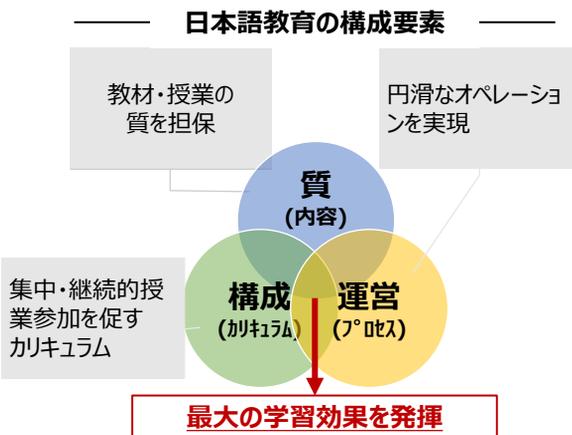
### 3 効果検証 効果検証の方針

オンライン環境を活用した質の高い日本語教育の在り方を検討するため、「質」「運営」「構成」の観点から効果検証を実施しました。

#### 効果検証の方針

各機関がコロナ禍における一過性の取組として、既存の授業をそのままオンライン化して展開することでは、オンライン授業の特性を十分に活用することができず、真の意味で「質の高い」日本語教育の実現や「持続的」な日本語教育の在り方を体現できるとはいえない。

そのため、本事業では日本語教育の構成要素として考えられる「質」「運営」「構成」の3の観点で、**ウィズコロナにとどまらない中長期的な視点**に立って、実証事業の効果検証を実施し、その成果・課題を整理することで**日本語教育全体の質の向上**を目指した。

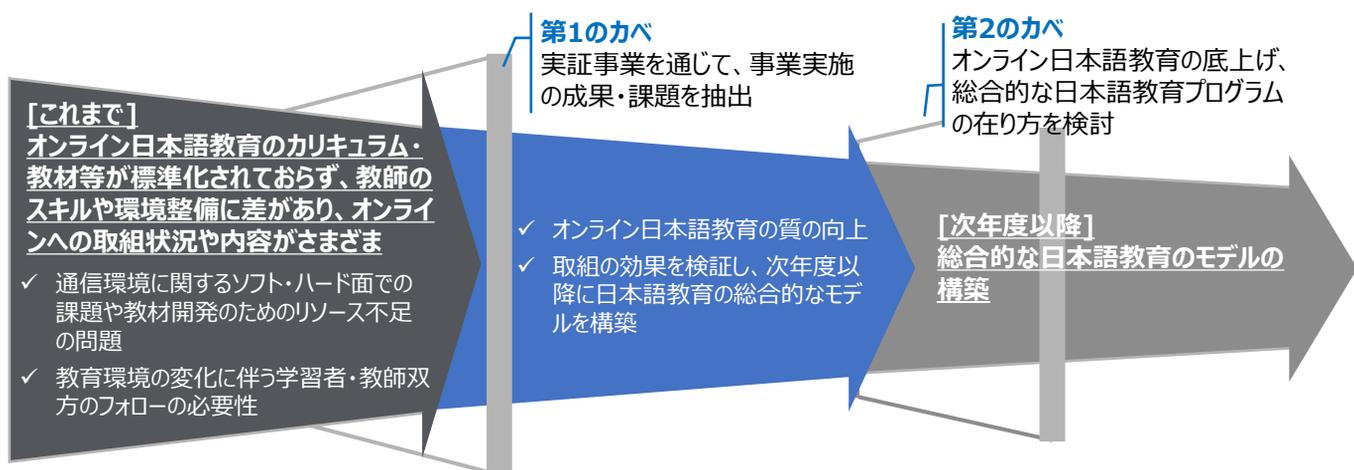


#### 目指すべき姿(ゴール)

オンラインの活用を一過性の取組とせず、日本語教育の質を担保しつつ持続的な活用に繋げていくためには、オンライン授業を含む総合的な日本語教育のナレッジを整理・展開していくことが重要となる。そこで、本事業では「短期的ゴール」と「中長期的ゴール」を設定し、以下のゴールモデルを念頭に事業を推進した。

|         |  |
|---------|--|
| 短期的ゴール  | <ul style="list-style-type: none"><li>● 日本語教育機関におけるオンライン授業の基礎スキルの向上を図る</li><li>● 様々な待機外国人留学生への日本語教育機会を提供し、日本語習得意欲の向上を図る</li><li>● 日本語教育機関において、多様な日本語オンライン教育を実践することで、オンライン授業の質の向上を図る</li><li>● オンライン日本語教育のナレッジ(教材・カリキュラム・運営方法等)を整理しオンライン日本語教育の質の向上を図る</li></ul> |
| 中長期的ゴール | <ul style="list-style-type: none"><li>● 日本への外国人留学生の増加を図る</li><li>● 日本語教育におけるオンライン・対面授業の有効性を基に、総合的な日本語教育プログラムの在り方を模索する</li><li>● 日本語教育の質が向上する</li></ul>   |

#### 質の高い日本語教育の在り方に対するゴール



### 3 効果検証 効果検証の方法

効果検証において、観点として設定した「質」「構成」「運営」を定義した上で、関連する検証項目を設定し、アンケート・ヒアリング等を実施しました。

#### 「質」「構成」「運営」の定義

本取組ではオンライン日本語教育の底上げを図るべく、「質」「構成」「運営」の3つの観点を以下に定義し、これらの視点に基づき、アンケート・ヒアリング項目を設定し効果検証を実施した。

|   |                 |  |
|---|-----------------|--|
| 1 | オンライン日本語教育の「質」  | オンライン教材や、教材に応じた授業の進め方、オンライン・ハイブリッド等の授業実施手段等に応じた学習成果等   |
| 2 | オンライン日本語教育の「構成」 | 教材やオンライン手法の組合せ等集中・継続的授業参加を促すカリキュラム構成の工夫等               |
| 3 | オンライン日本語教育の「運営」 | 学習者が学びやすい環境の構築、日本語教育機関・教師の負担と成果バランスの最適化に繋がる円滑なオペレーション等 |

#### 効果検証の要素

前述の基本的な視点を踏まえ、本業務（自主事業・実証事業）における効果検証の要素を以下のとおり設定した。その中でも、自主事業においては特に「オンライン学習の質の向上」について重点的に検証した。

| 観点   | 要素            | 検証項目   |
|--|---------------|--|
| 1<br>質（教材等）<br>     | 学習成果          | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ オンライン教材や、教材に応じた授業の進め方、オンライン・ハイブリッド等の授業実施手段等に応じた、学習効果（言語取得レベル）の向上</li> </ul> |
| 2<br>カリキュラム（構成）<br> | 学習成果<br>授業参加率 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 教材やオンライン手法の組合せ等集中・継続的授業参加を促すカリキュラム構成の工夫等</li> </ul>                         |
| 3<br>運営<br>          | 学習者の拡張        | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 入国待機中の外国人学習者・就業者（受講者数の増加）</li> <li>■ 潜在的学習者の掘り起こし（国内外）</li> </ul>           |
|  | 持続可能性         | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本実証後の日本語教育機関経営者等のオンライン日本語教育の継続意向</li> </ul>                                 |
|  | 意識改善          | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 教師・経営者等の日本語教育機関内部のオンライン日本語教育に対する意識</li> </ul>                               |
| 4<br>総合（①～③を含む）<br> | 負担軽減          | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ オンライン授業を通じた日本語教育機関・教師の負担軽減や作業の効率化</li> </ul>                                |
|  |               | 総合効果   |

効果検証においては、「アンケート調査」を実施した上で、「ヒアリング調査」により成果・課題確認を実施し効果検証を精査しました。

#### アンケート調査

自主事業と実証事業を実施した日本語教育機関49校（164クラス）の学習者、教師、日本語教育機関責任者の三者を対象にアンケートを実施した。

|          |  |
|----------|--|
| 実施スケジュール | 2022年10月中旬～2023年2月中旬   |
| 調査対象     | 自主事業と実証事業を実施している日本語教育機関49校（164クラス）の以下属性を対象に実施<br>学習者（クラスを受講した学習者全員が回答）<br>教師（クラスを担当した教師。各クラスで1名が回答）<br>日本語教育機関経営者（各日本語教育機関で1名が回答）  |
| 実施方法     | Microsoft Forms  |
| 調査項目     | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学習者           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主に質の観点から授業の効果検証（具体的には、授業に対する満足度や、日本語能力の上達度合、日本語学習に対するモチベーションの向上度合等、授業の質に関する設問を設け効果測定を実施）</li> </ul> </li> <li>■ 教師           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 質の観点に加え、学習者アンケートでは取得が難しい構成や運営の観点から効果検証を行う</li> <li>・ 構成の観点では、カリキュラムの効果や適切性を測定</li> <li>・ 運営の観点では授業の参加環境・授業の受入れ環境の両方の側面から効果検証を実施</li> </ul> </li> <li>■ 日本語教育機関責任者           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運営の観点のうち、事業の継続性の側面から効果検証を実施</li> <li>・ 受講対象の拡大や新たな受講者の取り込みや、日本語教育機関や教師の負担軽減といった、日本語教育機関経営の視点も踏まえた設問を設計してアンケートを実施</li> </ul> </li> </ul> |

#### ヒアリング調査

アンケート評価の高いクラスを対象に、ヒアリングによる更なる深堀を行うことで、オンラインによる日本語教育に関する成果や課題を定性的に把握した。

|          |  |
|----------|--|
| 実施スケジュール | 2023年1月中旬～2月中旬   |
| 調査対象     | 言語活動の領域・対象とするレベル(A1～C)・授業形式、アンケート結果、成果報告等を鑑み、有識者確認の上で、実証事業日本語教育機関を対象に実施  |
| 実施方法     | オンライン（Zoom）によるインタビュー   |
| 調査項目     | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全体に係る質問           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オンラインによる日本語教育の成果や課題について定性的な評価・意見</li> <li>・ 継続的な運営に向けた改善点や要望</li> </ul> </li> <li>■ 「質」に関する質問           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート調査において質の評価が高かったクラスに関して、工夫点等を聴取し、評価が高い要因を把握</li> <li>・ 利用した教材の評価や、改善点・要望 等</li> </ul> </li> <li>■ 「構成」に関する質問           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート調査において構成の評価が高かったクラスに関して、カリキュラム構成の工夫点</li> <li>・ オンラインのクラスにおいて推奨するカリキュラム構成 等</li> </ul> </li> <li>■ 「運営」に関する質問           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート調査において運営の評価が高かったクラスに関して、運営における工夫点</li> <li>・ より効果的・効率的な運営を行うにあたっての改善点 等</li> </ul> </li> </ul> |



## 事業の効果検証サマリ



- 学習者の言語レベル向上を目指したプログラムの検証を行った結果、日本語能力向上について一定の効果が得られた。また、学習者へ事前インプットをした上で、授業でアウトプットを確認する学習サイクルを確立できたことにより教師自身も有用性に関する実感を得ることができた。

## 事業実施の背景

- 日本社会・日本企業のグローバル化により、様々な在留資格で働く外国人が増加
- 「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」により、日本語教育関係施策の充実が図られるとともに、日本語を母語としないすべての人に日本語教育を提供することを目指し、日本語教育推進法が成立
- 「日本語教育の参照枠」が文化審議会国語分科会より報告され、これを踏まえ、「活用の手引き」が作成

## 事業実施の目的

- 多様な学習者が、日本社会の一員としてエンパワメントを発揮するための、効果的なオンライン日本語教育プログラムの開発
- 多様な学び方のニーズに対応し、かつ日本語参照枠に即した効果的なプログラム

## KPIの測定結果

### KPI①：学習者の満足度 | オンラインアンケート

目標値：実施後アンケートで70%以上が「そう思う」と回答

| 測定結果  | 結果に対する評価  |
|---|---|
| ① とてもよかった： <b>75% (12名)</b><br>② よかった： <b>25% (4名)</b><br>③ あまりよくなかった： 0%<br>④ 悪かった： 0% | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 受講者の満足度（とてもよかった：75%、よかった25%）は高く、オンライン学習での日本語能力・モチベーション維持においては一定数評価できる</li> </ul> |

### KPI②：言語取得能力の向上 | 確認テスト

目標値：事前・事後テスト（LMS+αの点数）

| 測定結果  | 結果に対する評価   |
|---|--|
| <b>Aクラス（B2→C1）：合計6人</b><br>・受講前から評価が向上した： <b>33% (2人)</b><br>・受講前と評価に変化しなかった： <b>50% (3人)</b><br>・受講前と比べて下がった： <b>17% (1名)</b><br><br><b>bクラス（B1→B2）：合計8人</b><br>・受講前から評価が向上した： <b>38% (3人)</b><br>・受講前と評価に変化しなかった： <b>62% (5人)</b><br>・受講前と比べて下がった： <b>0% (0名)</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 客観手法（テスト）による比較では、受講前と比較し、対応期間が短かったにも関わらず「受講前から評価が向上した」割合はA・Bクラスとも約30%と高い成果を上げたと考えている。</li> <li>• 今後は、①学習者の講座受講期間の長期確保（量）、②カリキュラム構成の検討（質）の両面から更なる改善を検討していきたいと考えている。</li> </ul> |

### KPI③：言語取得能力の向上 | オンラインアンケート

目標値：実施後アンケートで70%以上が「そう思う」と回答

| 測定結果   | 結果に対する評価  |
|--|---|
| 非常に満足している： 0% (0名)<br>満足している： <b>100% (2名)</b><br>満足していない： 0%<br>全く満足していない： 0% | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 受講者の事前学習が徹底されていたことや、授業中も意欲的に受講をしていたことで、教師としても日本語教育としての有用性に関する実感が得られていた。</li> <li>• その結果、教師アンケートのアンケートで「満足している」が100%として評価となった。</li> </ul> |

## 重点Candoに対する評価

レベル：B2

| 言語活動         | 重点Can-do  |
|--------------|---|
| 話す<br>(やりとり) | 【インタビューすること、インタビューを受けること】インタビューを滑らかに効果的に行うことができる。相手の興味深い返答を取り上げ、用意した質問を自発的に変えるなどして、更に興味深い答えを引き出すことができる。 |
| 話す<br>(発表)   | 【聴衆の前での講演】事前に用意されたプレゼンテーションをはっきりと行うことができる。ある見方に賛成、反対の理由を挙げて、幾つかの選択肢の利点と不利な点を示すことができる。                   |

| 評価   |  |
|--|--|
| 成果   | 課題   |
| 滑らかさは十分ではないものの、相手の返答を受けてさらに興味深いやりとりへと展開する様子が見られた               | 自分の言いたいことと合わせて相手の発話をより正確に受容できるだけの知識とその応用力をインプット部分に取り入れ、トレーニングするプログラムが必要である |
| 話の展開の「型」を参考にしながら、自分自身のことばで発表する中で、ある見方への賛否とその理由も挙げることができるようになった | 示された「型」を外し、時々状況に合わせた話の展開を繰り返し練習できるアウトプットの場をプログラム内に持つことが必要である               |

レベル：C1

|    |   |
|----|---|
| 読む | 【インタビューすること、インタビューを受けること】インタビューする人としてもインタビューを受ける側としても、インタビューに完全に参加することができる。助け船を出さなくとも、なめらかに議論点を発展させることができ、間投詞やあいづちうまく使える。 |
| 書く | 【総合的な口頭発話】複雑な話題について、明瞭かつ詳細な記述やプレゼンテーションができる。下位テーマをまとめたり、一定の要点を展開しながら、適当な結論に持っていきたりすることができる。                               |

|   |   |
|---|---|
| 話すことに対して積極性が見られなかった学習者が、自信をもって発言する姿が明確に見られた<br>正確性では、ほぼ全員のレベルアップが見られた   | 自身の論点整理をした上でさらに一貫した発話の展開を目指すトレーニングを積みこことによって、なめらかに議論の発展をさせられる能力を伸ばすことが期待される |
| 事前に視聴するオンデマンド動画の内容を十分に理解して対面の授業に臨んでいたことから、一貫性のある明瞭で詳細なプレゼンテーションの実現に近づいた | テーマに沿った自身の考えのまとめと結論への導き方の習得を目指すプログラムを、プログラム内に組み込む必要がある                      |

## 成果と今後の課題

|    | 成果  |
|----|---|
| 質  | 受講者の満足度も高く、出席率も高かったため、日本語能力・モチベーションの向上に資する対応ができた。   |
| 運営 | オンライン教育のモデルとして、学習者へ事前インプットをした上で、授業で受講者のアウトプットを確認する学習サイクルを確立できたが、カリキュラムを作りながら運営していたため、教師の負担面が大きかった。  |
| 構成 | 教育素材を組み合わせ、1つの教育教材として構成することができたため、モデルとなる構成カリキュラムを構築することができたが、他方で学習者のモチベーションが実力（日本語能力テスト等の向上）に繋がるカリキュラムにする上では改善の余地がある。また、取り扱うテーマも数が限られていたため、授業運営に柔軟性がなかった。 |

## 今後の改善アクション（実施時期、内容）

|  |  |
|--|--|
|  | -  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>運営（教師）側の負担軽減策の検討（学習管理システムの有効利用、教師間のノウハウ共有等）</li> </ul>                                      |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業構成カリキュラム・プログラムの多様化（レベル別・テーマ別・目的別の受講パターンの検討）</li> <li>日本語参照枠（レベル表示）の網羅した授業構成の検討</li> </ul> |

## 総括



- 日本語を使って社会生活を行おうとする学習者が持つ、または持ってほしい興味関心や知的好奇心に基づいた社会的・文化的知識を事前に効果的にインプットすることにより、学が意義の意識づけができた。「日本語教育の参照枠」に沿ったオンライン教育のモデルの開発という観点からは、提供カリキュラムのレベルとバリエーションの拡充と、評価の研究と実装が課題である。
- 今後の展開においては、ある一定の定型を提示しつつも、教師各自が学習者のニーズや自身の得意分野を生かしながら自由度をもって授業展開することを前提とした、学習者にとっても教師にとっても有用なプラットフォームの構築へと繋げていきたい。

## 事業の効果検証サマリ



- ビジュアル式学習アプリによる文法習得学習教材の検証を行った結果、日本語能力向上について一定の効果が得られた。学習者がアプリで文法を予習した上で授業で会話練習を中心に行う学習サイクルを確立できたことで、特に会話能力の向上が学習者・教師ともに実感できた。

## 事業実施の背景

- 多様な学習者の増加に伴い、授業後に学習者間で文法理解に差が出ているが個別フォローが不十分
- 授業では文法説明や機械的な練習に多くの時間を割くため、会話等実践的な学びに割く時間が十分でない
- オンライン授業での自習は対面授業の延長線上で行われており、オンラインの特性を踏まえた内容になっていないことが多い

## 事業実施の目的

- 多様な学習目的・参加スタイルに応じ、学習者が主体となって、自分のペースで授業内容の文法の予習を行い、学習者が音声を聞き取り発話したものを判定することができる、オンライン反転授業のための教材アプリ/学習方法を提供
- 学習者の授業理解の定着及び、発話の促進を図り、より効率的な日本語能力の向上に寄与

## KPIの測定結果

## KPI①：スマホアプリの活用による「学習者」の満足度 | 学習者に対するオンラインアンケート

目標値：授業実施後アンケートで以下項目70%以上が「そう思う」と回答

| 測定結果   | 結果に対する評価   |
|--|--|
| ①アプリを見ることで教師が行う授業での文法理解がしやすくなったか<br>【結果】83.3%の学習者が「非常にそう思う/そう思う」と回答              | <ul style="list-style-type: none"> <li>• ①、②、④、⑤については、目標値を十分達成することができた。</li> <li>• 一方で、③については目標値を達成できなかった。文法の意味導入の段階では自信を持って言っていた学習者でも、より実践に近い会話練習になると自信を持って話せなかったケースがあった。今回はクラスの学習期間が短いため、学習者が能力の向上を実感しにくかったのではないかと考えられる。会話練習の方法等については、今後改善が必要と思われる。</li> </ul> |
| ②授業で、話す量・回数が増えたか<br>【結果】72.2%の学習者が「非常にそう思う/そう思う」と回答                              |  |
| ③アプリを見ること、音声入力で発話練習をすることで、授業で自信を持って話せるようになったか<br>【結果】66.7%の学習者が「非常にそう思う/そう思う」と回答 |  |
| ④アプリを見ることで、勉強に対するモチベーションが上がったか<br>【結果】88.8%の学習者が「非常にそう思う/そう思う」と回答                |  |
| ⑤今後もこのアプリを使用したいか<br>【結果】72.2%の学習者が「非常にそう思う/そう思う」と回答                              |  |

## KPI②：スマホアプリ活用による「教師」の満足度 | 教師に対するオンラインアンケート、ヒアリング調査

目標値：授業実施後アンケートで以下項目70%以上が「そう思う」と回答

| 測定結果   | 結果に対する評価   |
|--|--|
| ①学習者があらかじめアプリを見ていることで導入はやりやすくなったか<br>【結果】100%の教師が「そう思う」と回答                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>• ①について、アプリでの事前動画学習を行うことで文法理解が遅い学習者も無理なく意味を理解して授業に臨めたため、100%の教師が導入はやりやすくなったと回答した。</li> <li>• ②について、導入を簡単にしなかった教師も、学習者がアプリを見たかどうかが不安だったため最初はこれまで通りの導入をしており、理解できていると確認できた後から導入を簡単にしていた。</li> <li>• ⑤⑥について、学習者のアンケート回答の数値と教師のアンケート回答の数値はほぼ一致しており、教師は学習者の変化をきちんと把握できていたことがうかがえる。</li> </ul> |
| ②アプリを見た学習者と見なかった学習者で導入方法を変えたか<br>【結果】50%の教師が「はい」と回答                                    |  |
| ③学習者がアプリを見ていること、音声入力で発話練習をしていることで、意味導入の時間が短縮され会話の時間が取れるようになったか<br>【結果】75%の教師が「そう思う」と回答 |  |
| ④今後もこのアプリを使用したいか<br>【結果】100%の教師が「非常にそう思う/そう思う」と回答                                      |  |
| ⑤アプリを見た学習者が、見なかった学習者より、授業で自信を持って話せるようになったと思うか<br>【結果】75%の教師が「そう思う」と回答                  |  |
| ⑥アプリを見た学習者が、見なかった学習者より、授業（勉強）に対するモチベーションが上がったと思うか<br>【結果】75%の教師が「そう思う」と回答              |  |

## 重点Candoに対する評価

レベル：A1

| 言語活動         | 重点Can-do   |
|--------------|--|
| 話す<br>(やりとり) | 【目的達成のための協同作業】注意深く、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できる。短い簡潔な指示を理解できる。 |

| 評価   |   |
|--|---|
| 成果   | 課題  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1カ月の限られた期間での授業ではあったが、会話テストにて、ゆっくりと表現された質問や説明なら理解できること、短い簡潔な指示を理解できることを確認した。</li> <li>アプリでの事前動画学習を活用した反転授業に慣れた時期におこなった第4回目の会話テストに関して、アプリを使用しないクラスではそれ以前の会話テストの点数と比較して第4回目の点数が下がったのに対し、アプリを使用したクラスではそれ以前の会話テストの点数と比較して第4回目の点数が上がっており、一定程度の効果があることがうかがえた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>話す量と回数は増えたが自信を持って話すことができたとはまでは言えない学習者も一定数見られた。会話能力の向上度合いは限定的であったが、これはアプリ使用期間が短かったためと考えられる。</li> <li>今後、長期的な使用を行えばより効果が表れる可能性がある。会話をより積み重ねることで、学習者自身が能力の向上を実感できたり自信を持てる可能性がある。</li> </ul> |

## 成果と今後の課題

|      | 成果   |
|------|--|
| 質    | <ul style="list-style-type: none"> <li>アプリは学習者ほぼ全員が使用しており、積極的に事前の動画学習を行っていた。</li> <li>学習者向けアンケートの結果から、アプリの事前学習動画は学習者のモチベーション維持・向上に有効であったことがうかがえる。</li> <li>会話テスト結果から、反転授業により授業中の会話練習時間を増やせたこと、アプリの発話練習コンテンツで予習できたことにより、会話能力が向上したことがうかがえる。</li> </ul> |
| 質・運営 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習者向けアンケートから、アプリは学習者にとって活用しやすかったと考えられる。</li> <li>事前学習動画はアニメーションがあり分かりやすい、という意見を学習者から受領した。</li> <li>アプリでの事前動画学習を活用した反転授業を行うことで、授業での導入の時間を短縮することができた。</li> </ul>  |

| 今後の改善アクション（実施時期、内容）   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>学習者のモチベーションは概ね高かったが、さらに向上させるためには、会話練習をこれまで以上に工夫していくよう、教師間での連携をしていく必要がある</li> <li>▶ アプリのバグにより、事前学習が限定的にならざるを得ない学習者もいた。この学習者に関しては、アンケート回答からモチベーションはあまり向上しなかったことが判明した。今後、アプリのシステム改善が必要と考えられる</li> </ul>                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アプリでの事前動画学習を活用した反転授業について、学習者が学習スタイルに慣れるまでに一定程度の時間を要した。反転授業のスタイルを早い段階で定着させるためには、クラス開始前のオリエンテーションの際に学習者の母国語を用いて説明する等工夫する必要があると思われる。</li> <li>▶ 今回は途中から反転授業へ切り替えたが、初回の授業から反転学習を実施すれば学習スタイルを早く身につけられると思われる。</li> </ul> |

## 総括

- 実証事業を通して、アプリでの事前動画学習を活用した反転授業は、①モチベーション維持向上②授業内の導入の時間短縮③会話の機会を増加、に一定の効果があったと思われる。
- 会話テストの結果においても、ある程度の学習効果の向上が見られた。今後、アプリの使用期間を延ばして、さらに変化を見ていきたい。反転授業の効果が見られるようであれば、今後、導入方法、会話練習などについてさらにやり方を検討していきたい。
- アプリ製作は、時間の制約の中で準備期間が十分に取れておらず、若干のバグがあるため改善の余地がある。



### 事業の効果検証サマリ



- 実証を通じ、本アプリを使用することで、学習者側には自信がつく、話す機会を増やしたいという気持ちが湧くといった一定の効果が認められた。また、教師側には効果的な補助教材の方向性が見えるといった成果があった。

### 事業実施の背景

- 海外で日本語を耳にする機会が増えつつも、発話する機会は依然として少ない
- 動画教材は多数存在するが、一方的な学習方法に終始してしまっている

### 事業実施の目的

- 文化庁「つながるひろがる にほんごでの暮らし」を基に、AIを活用した会話練習用の補助教材の開発
- 手軽に、双方向で発話の練習をすることができる機会を提供し会話力とモチベーションの向上を図る

### KPIの測定結果

#### KPI①：スマホアプリの活用による「学習者」の満足度 | 学習者に対するオンラインアンケート

目標値：授業実施後アンケートで以下項目70%以上が「そう思う」と回答

| 測定結果  | 結果に対する評価  |
|---|---|
| <p>＜＜授業の満足度＞＞</p> <p>①このクラスの方法はよかったですか<br/>【結果】94.4%が「とてもよかった／よかった」と回答</p> <p>②これから今回のようなクラスのようなAIアプリを補助教材として活用したプログラムを勉強したいですか<br/>【結果】77.7%が「とてもしたい／したい」と回答</p> <p>③このクラスで勉強して、日本での生活の中でもっと日本語で会話する機会を増やしたいと思いますか。<br/>【結果】94.5%が「強くなった／少し強くなった」と回答</p> <p>④つながるひろがる にほんごでの暮らし」とアプリを合わせて活用することで、更なる日本語の会話力・発音の向上に繋がりましたか。<br/>【結果】83.3%が「非常に向上した／向上した」と回答</p> <p>＜＜気持ち＞＞</p> <p>つながるひろがるにほんごでの暮らしとアプリを合わせて活用することで、更なる日本語の会話力・発音の向上に繋がりましたか。<br/>【結果】83.3%が「非常に向上した／向上した」と回答</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業の満足度、ならびに気持ちの変化、いずれも目標を達成することができたが、「発音」により回答が得られなかったのは、アプリの音声の問題もあるように思う。改善の余地は大きい。また、学習者と教師の間の「発音」に対する意識の違いも感じられた。</li> </ul> |

#### KPI②：スマホアプリ活用による「教師」の満足度 | 教師に対するオンラインアンケート、ヒアリング調査

目標値：授業実施後アンケートで以下項目70%以上が「そう思う」と回答

| 測定結果  | 結果に対する評価   |
|---|--|
| <p>＜＜授業の満足度＞＞</p> <p>①「今回のクラスの提供方法（対面/オンライン授業+AIアプリの活用）は学習者が満足いくものであったと思いますか。<br/>【結果】100%が「そう思う」と回答。</p> <p>②教材とAIアプリによる復習の組み合わせについて、どの程度学習者の能力向上に効果があったと思いますか。<br/>【結果】100%が「ある程度効果があった」と回答</p> <p>＜AIの可能性＞</p> <p>「今後もアプリを活用したオンライン教育に取り組んでいきたいと考えますか。<br/>【結果】100%が「ぜひ取り組みたい」と回答。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 満足度、AIの可能性共に、目標を達成することができたと言える。</li> <li>• ただ、改善点は多く、今後課題を明確化し、取り組んでいくことが必要。</li> </ul> |

## 重点Candoに対する評価

レベル：A1、A2、B1

| 言語活動               | 重点Can-do   |
|--------------------|--|
| A1<br>話す<br>(やりとり) | 【目的達成のための協同作業】人に物事を要求したり、与えることができる。                                    |
| A2<br>話す<br>(やりとり) | 【製品やサービスを得るための取引】日用品やサービスを求めたり、提供したりできる。                               |
| B1<br>話す<br>(やりとり) | 【非公式の議論（友人との）】何をしたいか、どこに行きたいか、誰を選べばよいか、又はどちらを選べばよいか、などを議論し、代案を比較対照できる。 |

| 評価   |  |
|--|--|
| 成果   | 課題   |
| 「つながるひろがるにほんごでの暮らし」の場面（返品・試着・美容院等）を使い、表現を身につけることができた。また、日本文化に触れることもでき、理解が深まったと考える。             | 今回は授業回数が少なかったため、回数を重ね、表現を増やしていくことで、更なる能力の向上が実現できると考える。   |
| 身近な場面で学ぶことで、表現をしっかり取り入れることができた。自分の状況を伝え、要求をすることができるようになった。（アレルギーを伝える・公共施設利用等）                  | 今後、長期的な授業を組んでいけば、確実に力がついていくと思われるため、アプリ使用の習慣化を図ることが課題。  |
| 授業回数が少なかったため、場面は病院や旅行先などに限られたが、アドバイスを仰いだり、お勤めを聞いたりすることができた。また、授業では丁寧なものだけでなく、友人と話す場合としても練習できた。 | B1レベルとなると、学習者もそれなりの知識を持っているため、それを授業で引き出すことで、その正誤を確認できた点がよかったが、それをアプリに落とし込み、自分の表現として身につけることができるとさらによかったのではないかとと思われる。その方法として、アプリを教師が自由にアレンジできるものにしていきたい。 |

## 成果と今後の課題

|    | 成果   |
|----|--|
| 質  | <p>【目標】学習者の発話に対する自信を向上させ、日本語を話すことへの抵抗感を軽減</p> <p>【成果】「ここで勉強して、日本での生活の中でもっと日本語で話す機会を増やしたい」と回答した学習者が9割だったことから、目標は達成できたものと判断する。</p>   |
| 運営 | <p>【目標】アプリの活用のしやすさ・効果的な活用のあり方の方向性の確立</p> <p>【成果】「これからも今回のようなAIアプリを使用したプログラムで勉強したい」「したい」と回答した者が7割以上いたことから活用のしやすさは一定程度達成していたと考える。また、アプリの改善すべき点が明らかになり、今後の方向性を見つけていく上での参考資料が得られた。</p> |

| 今後の改善アクション（実施時期、内容）  |
|--|
| <p>成果は得られているので、さらにアプリ練習の習慣化を図ることができるような仕掛けを考えていく必要がある。そのためには、「授業と合わせて使用し、授業中に必ず使用する」や、「AIの判定機能を上げる」ことなどに取り組んでいくことが必要となる。</p>   |
| <p>現在、ガイド言語は英語のみとなっているので、多言語での対応が必要だと思われる。また、アプリの音声はAIではなく、人間の音声に置き換えていくとさらに自然に近いものとなり、学習意欲にも影響があると思われる。</p> <p>▶ 教師側としては、各自の授業に合わせてアレンジできるものになると、活用の幅も広がるものと考えられる。上記にあげたことを、アプリ開発の際に改善していきたい。</p> |

## 総括



- 本事業を通し、学習者側にとっても、教師側にとっても概ね良い結果が得られた。しかし、一方でアプリの「音声改善」「柔軟性向上」「使用の習慣化」など課題は多々あるため、取り組んでいく必要がある。
- また、今回は使用期間が短期間だったため、さらに長期に使用し学習者のモチベーション維持に効果的かどうかを試していく必要がある。

## 事業の効果検証サマリ



- 実証を通じ、VRを活用した会話授業パックは、対面授業と比較して学習者の会話機会を増やすことができた。また、日本語教育において会話能力の向上、学習者の日本語学習に関するモチベーションの維持、という面で一定の有効性を確認することができた。

## 事業実施の背景

- 英語教育と比較し、日本語教育はICT化への取組が遅れている
- 会話学習は教室内で実際の場면을イメージしながら練習することに限界がある
- オンラインは話者が一人になりがちであり、発話チャンスが十分でないことも多い

## 事業実施の目的

- 実際の場面の疑似体験を通じた、実践的な会話力の向上を目的として、VRとオンライン授業を組み合わせた会話授業のパッケージ開発を実施
- 「Zoomによるインプット」と「VRによるアウトプット」と授業の役割を分けることで、学習者の授業理解の定着及び、発話の促進を図り、より効率的な日本語能力の向上に寄与

## KPIの測定結果

### KPI①：VRアプリの活用による「学習者」の満足度 | 学習者に対するオンラインアンケート

目標値：授業実施後アンケートで以下項目70%以上が「そう思う」と回答

| 測定結果  | 結果に対する評価   |
|---|--|
| ①総合的な満足度はどのくらいだったか<br>【結果】97%の学習者が「とても良かった/よかった」と回答                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• ①～⑤のいずれについても、目標値を十分達成</li> <li>• VRアプリの使用によって、会話の機会が大幅に増加したことが高評価の要因と考えられる</li> </ul> |
| ②（海外在住の方）日本留学の動機が高まったか<br>（日本在住の方）日本語で会話する機会を増やしたいと思ったか<br>【結果】86%の学習者が「気持ちが強くなった」と回答 |  |
| ③日本語が上手になったか<br>【結果】86%の学習者が「上手になった/少し上手になった」と回答                                      |  |
| ④「話す（やりとり）」が上手になったか<br>【結果】90%の学習者が「上手になった/少し上手になった」と回答                               |  |
| ⑤「聞く」が上手になったか<br>【結果】86%の学習者が「上手になった/少し上手になった」と回答                                     |  |

### KPI②：開発プログラムの活用による「日本語教育機関・教師」の満足度 | 教師に対するオンラインアンケート、ヒアリング調査

目標値：授業実施後アンケートで以下項目70%以上が「そう思う」と回答

| 測定結果  | 結果に対する評価  |
|---|---|
| ①総合的な満足度はどのくらいだったか<br>【結果】100%の教師が「非常に満足している/満足していると回答                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>• ①～③の授業の満足度については全ての教師がポジティブな回答をしており、目標を達成することができた</li> <li>• ④～⑥のICT化の推進については、VRを会話授業に取り入れることの効果を全ての教師が感じているものの、VRシステムの使いやすさについては課題があると言える</li> </ul> |
| ②VRアプリを使用することによって、学習者は実践的な会話力・コミュニケーション力を養うことが出来たと思うか<br>【結果】100%の教師が「強くそう思う/そう思う」と回答 |   |
| ③今回のクラスの提供方法は学習者が満足いくものであったと思うか<br>【結果】100%の教師が「強くそう思う/そう思う」と回答                       |   |
| ④VRは今後の日本語教育に活用できると思うか<br>【結果】100%の教師が「強くそう思う/そう思う」と回答                                |   |
| ⑤今後もVRを活用した日本語教育に取り組みたいと思うか<br>【結果】100%の教師が「強くそう思う/そう思う」と回答                           |   |
| ⑥VRは使いやすかったか<br>【結果】80%の教師が「使いやすかった」と回答<br>20%の教師が「使いにくかった」と回答                        |   |

## 重点Candoに対する評価

| 言語活動         | 重点Can-do   |
|--------------|--|
| 話す<br>(やりとり) | 【会話】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。                         |
| 聞く           | 【包括的な聴解】意味が取れるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。 |

レベル：A1

| 評価  |   |
|---|---|
| 成果  | 課題  |
| <p>教室内のロールプレイでは体験できない現実感を伴うVR上の練習体験は、学習に対するモチベーションを高め、導入項目の定着も促した。また、アバター効果により積極的な参加の様子が見られ、学習者同士のやりとりもスムーズに行われるようになった。</p> | <p>VRの特徴を活かしたシーン別のプログラムの拡大とシステム上の練習体験は、学習者のモチベーションを高め、学習初期のAレベル段階にある学習者の運用能力獲得が各段に進化することが期待できる。</p>     |
| <p>教師による指示には問題なく応えられるようになった。また、相手の学習者の発話を聞き取り、会話を楽しむ様子も多く見られた。これはVR空間という同じ環境の共有による効果とみられる。</p>                              | <p>VR上で自然に入ってくる目からの情報と組み合わせる形で、耳からの情報を聞いて理解する体系的なトレーニングプログラムなど、カリキュラム内に「聞く力」の獲得を目的としたコンテンツの充実が望まれる。</p> |

## 成果と今後の課題

|    | 成果  |
|----|---|
| 質  | <p>学習者から「普段の教室授業よりもたくさん会話ができた」や「授業内容が分かりやすかった」といった意見を直接聞くことができた。</p> <p>カリキュラム構成が学習者の「継続的な日本語学習」ならびに「日本留学」についてのモチベーション維持、向上に一定の成果をもたらした</p>   |
| 運営 | <p>仮想空間上で実際の場面をイメージしながらロールプレイできるという観点からVRという新しい技術を日本語教育に取り入れる有効性を示すことができたと言える。</p> <p>学習者から「VRはゲーム感覚で学習ができたため、内容が頭に入りやすかった」や「楽しく、日本語を学習することができた」との意見を受領しており、日本語学習の継続性にも一定の成果があったと考えられる。</p> |

## 今後の改善アクション（実施時期、内容）

|  |
|--|
| <p>学習者からは対面授業を希望する声も上がっていて、このニーズはオンライン環境で代用することが出来ないと考えられる。今後、継続的に本プログラムを提供する場合は、学習者のニーズをヒアリングし、学習者に合った形式の授業を提供することが効果的だと考えている</p> |
| <p>現状のVRアプリでは、スペックやシステムの使いやすさに課題がある。そのため、今回のプログラムの検証結果をVRアプリの運営企業に共有することで、様々な国・地域・ネット環境・PCスペックの学習者にも取り入れやすくなるように改善を求めたいと考えている</p>  |

## 総括

- 実証を通じ、VRを活用した会話授業パックは日本語教育において「会話能力の向上」、「学習者の日本語学習に関するモチベーションの維持」という面で有効性があることが分かった。
- VRアプリを広く導入するためには課題があり、国や使用デバイスのスペック制限をなくす等の改善策を今後検討する必要がある。
- VRアプリを使用して効果的に日本語学習を進めるのであれば、会話練習などの補完教材としての活用を検討することが望ましい。



## 事業の効果検証サマリ



- 既存のオンデマンド教材とリンクした反転学習スタイルのオンライン授業を実施することで、日本語0スタートレベルの国内外の学習者に、学習機会を提供できた。また、教師への研修やLMSの活用等を通して、オンラインでの効果的な指導方法やカリキュラム・教材を確立できた

## 事業実施の背景

- 日本語未習者がA1を終了するまでの学習過程は、すべての日本語学習者に対して重要な入口であり、その後の学習プロセスに大きく影響するため、効果的なカリキュラムや教材、指導方法が特に必要とされている
- また、留学資格での入国条件がN5以上であるため、A1を終了するまでの学習過程は特に海外での需要が高いと見込まれる

## 事業実施の目的

- 日本語未習者を対象にした学習において、既存教材の「TRY! STARTの活用」と「新たな補助教材」を整備し、効果的な未習者向けのプログラムを開発する
- 対象者に即し、効果的な指導方法やカリキュラムを確立、しオンラインを通じて国内と同様の体系的な学習を海外でも可能にする

## KPIの測定結果

## KPI①：「TRY!」教授法研修プログラム及びLMSに対する教師の満足度の状況 | 教師に対するオンラインアンケート、ヒアリング調査

目標値：授業実施後アンケートで研修プログラム、LMSともに4段階評価（1が最高評価）にて満足度が2以上

| 測定結果                                  | 結果に対する評価  |
|---------------------------------------|---|
| ①研修プログラムに対する満足度<br>【結果】4段階評価で満足度の平均は2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「TRY!」教授法プログラムはGoogle Workspace上に授業進行用PPTと共にノートに教案として記載され事前に提供することで、教師の満足度を得た</li> <li>• eTRY! LMSはデータローミング速度が遅く提供企業に改善を求めた</li> </ul> |
| ②LMSに対する満足度<br>【結果】4段階評価で満足度の平均は1.9   |   |

## KPI②：LMSの活用による学習者の学習意欲の維持・向上、満足度の状況 | 学習者に対するオンラインアンケート

目標値：授業実施後アンケートで4段階評価（1が最高評価）にて意欲の向上割合・満足度が2以上

| 測定結果   | 結果に対する評価  |
|--|---|
| ①LMSによるモチベーションの向上割合<br>【結果】4段階評価で満足度の平均は1.54 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 当初eTRY!教材の事前学習による反転授業を想定したが、常に事前学習ができている学習者は多くなかった</li> <li>• Zoom配信授業、Google Classroom、LINE Groupも含めた当プログラムの統合的LMSにより、学習者との接触が密になり学習意欲の維持・向上につながったため、満足度は高くなった</li> </ul> |
| ②LMSに対する満足度<br>【結果】4段階評価で満足度の平均は1.42         |   |

## KPI③：開発プログラムの受講による学習効果の向上 | 学習者に対するオンラインアンケート

目標値：授業実施後アンケートで4段階評価（1が最高評価）にて学習効果の向上割合が2以上

| 測定結果                                  | 結果に対する評価   |
|---------------------------------------|--|
| ①日本語能力の向上割合<br>【結果】4段階評価で向上割合の平均は1.36 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 40名中35名（87.5%）がクラス終了まで約6か月間受講し、学習者は熱心に学習を進めた</li> <li>• 反転授業が想定通り進めば、週2回配信のオンライン授業でも、リアル授業と遜色ない学習効果を得られると考えられる</li> <li>• 本開発プログラム実施によりオンライン日本語教育の可能性を確認することができた</li> </ul> |

## 重点Candoに対する評価

レベル：A1

| 言語活動         | 重点Can-do   |
|--------------|--|
| 話す<br>(やりとり) | 【会話】人が元気かどうかを聞き、近況を聞いて、反応することができる。   |
| 話す<br>(発表)   | 【総合的な口頭発話】人物や場所について、単純な語句を並べて、述べるができる。   |
| 聞く           | 【包括的な聴解】意味が取れるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。                         |
| 読む           | 【包括的な読解】非常に短い簡単なテキストを、身近な名前、単語、基本的な表現と一つずつ取り上げて、必要であれば、読み直したりしながら、一文一節ずつ理解することができる |
| 書く           | 【総合的な書く活動】簡単な表現や文を単独に書くことができる。   |

| 評価  |  |
|---|--|
| 成果  | 課題   |
| ①事前のオンデマンド予習や授業で習った表現を使って、質問したり、コメントしたりすることができるようになった<br>▶ ②ロールプレイで、「買い物（店員、客）」「自分の好きな場所に誘う」等実際に近い場面に合わせてやり取りができるようになった | ①相手の言葉に反応できるが、聞かれた質問に対して答えることが少し難しい学習者もいた。<br>▶ (今後のアクション) 学習項目に合わせた会話（やりとり）の練習を多く入れた授業構成を検討する |
| ①4、5行程度の短いスピーチの文章を事前に作成し、覚えて発表することができるようになった。<br>▶ ②事前に簡単な文章を作成し、物を紹介することもできた   | (今後のアクション) 授業内で「簡単な発表」を増やせるか検討する   |
| ①教師が学習項目を使って話せば、聞き取ることができるようになった。<br>▶ ②上記「話す（やりとり）」を支える聞く能力が身についた  | (今後のアクション) 『eTRY!』のまどめの問題（聴解）を授業に活用できるか検討する  |
| ▶ ①読むことができることを、教師に積極的にアピールする学習者もいた  | ①4、5行の長さの文章を読むことは難しいケースが多かった。<br>▶ (今後のアクション) 『eTRY!』のまどめの問題（読解）を授業に活用できるか検討する                 |
| ▶ ①話した内容を基に、2～5行程度の長さの簡単な文章を書くことができるようになった<br>②特に漢字に興味を持つ学習者が多く、意欲的に練習に取り組んでいた  | (今後のアクション) 学習者に表記や短作文の添削後の復習の方法をはっきり提示することが必要かどうか検討する  |

## 成果と今後の課題

|       | 成果  |
|-------|---|
| 運営    | 既存のオンデマンド教材とリンクしたオンライン授業を実施するための授業マニュアルを作成し、それを基に日本語教師が日本語授業を配信した。当初はオンライン授業で教師側・学習者側で若干の接続の不具合があったが、操作の習熟によりスムーズに授業進行できるようになった |
| 構成・運営 | LMS、デジタルツールの利用により、学習者の事前学習状況、宿題の配信・回収、授業連絡等を行い、ほぼ計画通りの授業および効果測定テストを実施することができた   |

## 今後の改善アクション（実施時期、内容）

オンデマンド事前学習の実施状況はLMSにより把握できたが、未学習者に対し、コンスタントに事前学習を行わせる動機付けが必要である。今後今回の事業のようなクラスを実施する場合は、クラス開始前に学習者に対して、クラスのやり方や、勉強方法、使用するツールの使い方をきちんと説明する必要があると考えている

教師に対しては、ツールの使い方も事前にきちんと説明する必要がある。今回作成した教材、教案では時間的制約から学習者相互の会話練習が不足するため、各教師はブレイクアールームを利用した会話練習を実施した。今後は会話練習も含めた教案を作成したいと考えている

## 総括

- 本プログラムを通じて、国内外を対象とした日本語0スタートのオンライン授業実施に自信と確信を得ることができた。また、学習者が日本語学習に取り組むきっかけを作ることができ、楽しく学習できたことは将来的な日本留学や日本での就職につながると考えている
- 現地の連絡調整等のコーディネートを依頼した国外日本語教育機関（コーディネーター）も継続実施に意欲的であった。これを契機としてさらにN4～N1、日本語参照枠Cレベルまでを見据えたプログラムを開発できればと考えている
- 一般の事業で行う場合、コーディネーターのコストをどのように調達するのか検討する必要がある



実証事業の効果検証においては、パターン別（領域・レベル・手法）に検証し、オンライン日本語教育の展開課題と有効性を抽出しました。

## 実証事業の基本視点

実証事業におけるオンライン日本語教育の取組を、最終的に①領域（言語活動）②レベル（CEFR\*・JLPT\*\*）③手法（授業形式）のパターン別に分類し、効果検証を通じてオンライン日本語教育の有効性・特性抽出を図る

\*CEFR (Common European Framework of Reference for Languages): ヨーロッパ言語共通参照枠、\*\* JLPT (Japanese-Language Proficiency Test): 日本語能力試験

## 実証事業の効果検証の方針

効果検証の方針としては、貴庁による「日本語教育の参照枠」及びJF日本語教育スタンダードの「状況マトリクス」等を踏まえてパターン別にオンライン展開の有効性を検証する。

## 実証事業の効果検証の手法

効果検証の手法においては、「全ての実証事業日本語教育機関」を対象としたアンケート、アンケート結果を踏まえ「パターン別にサンプリング抽出した実証事業日本語教育機関」を対象とするヒアリングを通じて効果検証を実施した。また、各日本語教育機関が独自に実施した受講前・後のテスト結果等も、成果・課題抽出の要素とした。

| 対象    | ① 全ての実証事業日本語教育機関に対して実施   |   |   | ② パターン別に実証事業日本語教育機関をサンプリング抽出して実施   |  |
|-------|--|---|---|--|--|
|       | 日本語教育機関  | 学習者   |   | 日本語教育機関  | 教師   |
| 手法    | アンケート  | アンケート   | 受講前・後のテスト   | ヒアリング  |  |
| 検証項目例 | <ul style="list-style-type: none"> <li>実施からの学び・教訓</li> <li>実施における課題</li> <li>今後の課題・展開</li> <li>要望</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>満足度（教材、カリキュラム、教師等）</li> <li>学習効果（理解度等）</li> <li>次回受講意向</li> <li>その他</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の理解度</li> <li>習得度</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>実施からの学び・教訓</li> <li>実施における課題</li> <li>今後の課題・展開</li> <li>要望</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>実施からの学び・教訓</li> <li>実施における課題</li> <li>次期展開における課題</li> <li>要望</li> </ul> |
| 実施方法  | 事務局によるWebアンケート   | 調査票・Web調査環境を提供し各日本語教育機関が実施  | 設定KPIによって各日本語教育機関が実施  | 事務局によるヒアリングの実施   | 事務局によるヒアリングの実施   |
| 実施主体  | 事務局  | 事務局・日本語教育機関（個人情報取扱いは、日本語教育機関）   | 事務局・日本語教育機関（個人情報取扱いは、日本語教育機関）   | 事務局  | 事務局  |

### 3 効果検証【実証事業】アンケート概要

実証事業で実施する全クラスにおいて、学習者・教師・運営主体の3者を対象にしてそれぞれ一律でWebアンケートを実施し、効果検証を行いました。

#### 〈アンケート概要〉

##### 【目的】

実証事業で実施する全クラスに対して一律で効果検証を実施し、オンライン授業の効果測定や課題抽出を行う。集計結果は、標準的なオンライン日本語教育のあり方の検討に活用する。

また、ヒアリング先を選定する際の判断材料として活用する。

##### 【対象者】

実証事業を実施している日本語教育機関49校、164クラス

- ・ 学習者（クラスを受講した学習者全員が回答）
- ・ 教師（クラスを担当した教師1名が回答。1クラスを複数の教師が担当する場合は、1名が意見をとりまとめて回答）
- ・ 日本語教育機関経営者（各日本語教育機関で1名が回答）

##### 【回収結果】

|     | 回答者数 |
|-----|------|
| 学習者 | 1167 |
| 教師  | 155  |
| 経営者 | 43   |

※学習者及び教師に関しては、日本語教育機関とクラスを特定できた回答者のみを集計対象とする

##### 【実施期間】

2022年9月27日～2023年2月14日

※各クラスが終了したタイミングで回答を依頼

#### 〈アンケートの狙い〉

##### 学習者

- 主に質の観点から授業の効果検証を行う
- 具体的には、授業に対する満足度や、日本語能力の上達度合、日本語学習に対するモチベーションの向上度合等、授業の質に関する設問を設け効果測定を実施する

##### 教師

- 質の観点に加え、学習者アンケートでは取得が難しい構成や運営の観点から効果検証を行う
- 構成の観点では、カリキュラムの効果や適切性を測定する
- 運営の観点では授業の参加環境・授業の受入れ環境の両方の側面から効果検証を実施する

##### 経営者

- 運営の観点のうち、事業の継続性の側面から効果検証を行う
- 受講対象の拡大や新たな学習者の取り込み、日本語教育機関や教師の負担軽減といった、日本語教育機関経営の視点も踏まえた設問を設計してアンケートを実施する

### 3 効果検証【実証事業】アンケート概要

概ねの学習者からは、質・運営の両方の観点において高い評価を得ています。他方で、教師と経営者からの評価は様々でした。双方ともにオンライン教育へのモチベーションはあるものの、特に運営の観点において課題を認識している状況が明らかとなりました。

#### 〈アンケート結果サマリ〉

##### 質

- オンライン授業を受けて**日本語が上達したと感じている学習者は全体の約95%**であり、オンライン授業は一定程度の効果があったと考えられる
- 学習者・教師ともに、**A1～Cの全てのレベルにおいて「書く」能力は他の能力と比較して向上したと感じる割合が小さい傾向**がある
- A1・A2といった初級レベルと比較して、**B2・Cといった高レベルのクラスでは、日本語能力が向上したと感じる割合が小さい傾向**がある
- 約97%の学習者が「今後も継続して日本語を勉強したい」、約94%の学習者が「日本へ留学したい気持ちが強まった」と回答しており、**オンライン教育が日本語学習のモチベーション向上や日本留学への意欲向上につながっている**と考えられる

##### 構成

- 教材の組み合わせが構成の良し悪しに影響を与えると仮説を立ててアンケート項目を設計したが、実際には関連が薄いことがアンケート集計結果から推察された
- 教師が構成の良し悪しを判断する基準等については、ヒアリングにて深掘りして調査した

##### 運営

###### 【授業の参加環境】

- **オンライン授業の提供方法に対する学習者の満足度は非常に高い結果**となった
- 全体の**約90%の教師がオンライン授業環境は活用しやすかったと回答**しており、教師の満足度も高い結果となった。理由として、**教材の共有がやりやすかった**ことが一番多く挙げられている
- **オンラインの長所としては、学習者・教師ともに好きな場所で受けることができる**ことが挙げられる
- 一方で、改善点として**学習者のネットワーク環境の悪さ**が一番多く挙げられ、その次にアプリや教材の使いにくさが挙げられた

###### 【授業の受入環境】

- オンライン授業活用により負担が軽減したとの回答は約60%にとどまり、**オンライン授業でも一定程度の負担が発生**することが明らかとなった。理由として、**オンライン特有の準備が発生すること、学習者の理解度を把握しにくく事後のフォローが必要**なこと等が挙げられた
- 全体の**約95%の教師が「今後もオンライン教育に取り組みたい」と回答**しており、その理由として学習者のモチベーションの高さを挙げていた

###### 【事業の継続性】

- 全体の**約98%の経営者が「今後もオンライン教育に取り組みたい」と回答**しており、**オンライン授業へのモチベーションは高い**ことが判明した。
- 全体の**約60%の経営者が「国内外の潜在的な日本語学習者を取り込めた」と回答**した。そのうち概ねが「海外の学習者を取り込めた」と回答していることから、**オンライン教育を用いることで、世界中のより幅広い学習者に日本語教育を提供できる可能性がある**ことが考えられる

### 3 効果検証【実証事業】アンケート結果（一部抜粋）

学習者、教師に関しては全体満足度が高く、オンライン授業には一定の効果があったと考えられます。経営者は全体満足度は約60%となっていますが、自由記述の理由から、オンライン授業実施や教材作成等の事業内容には満足していることが把握できました。

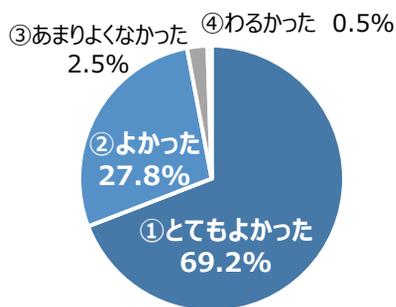
#### 【アンケート結果 総合満足度】

##### 〈学習者アンケート〉

質問項目3：全体でどのくらいよかったですか

選択式

- ①とてもよかった
- ②よかった
- ③あまりよくなかった
- ④わるかった



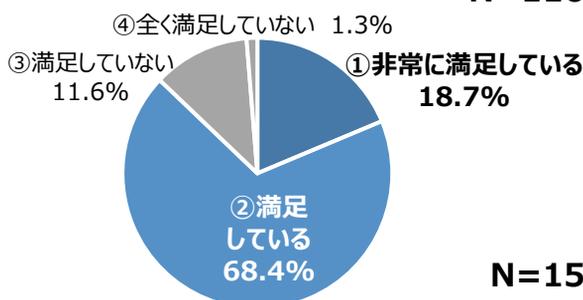
N=1167

##### 〈教師アンケート〉

質問項目1：総合的な満足度はどのくらいでしたか

選択式

- ①非常に満足している
- ②満足している
- ③満足していない
- ④全く満足していない



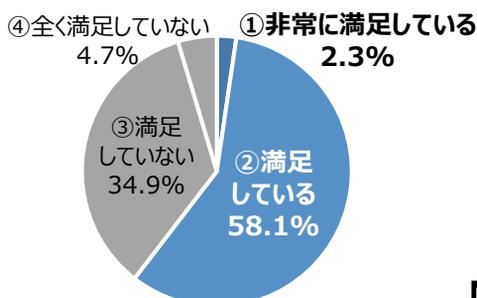
N=155

##### 〈経営者アンケート〉

質問項目1：本プログラムの実施全体を通しての満足度について教えてください

選択式

- ①非常に満足している
- ②満足している
- ③満足していない
- ④全く満足していない



N=43

質問項目2：前問の理由を教えてください

| 選択肢        | 回答内容   |
|------------|--|
| ①非常に満足している | 支援を受けながら教材を作成することができ、質の高いオンライン授業提供につながったため                     |
| ②満足している    | 留学希望の学習者にアプローチすることができたため                                       |
|            | 来日前の日本語学習につながられたため   |
|            | 授業を通して、入学前から学習者と教師でコミュニケーションを取ることができ、学習状況や日本語レベル等を把握することができたため |
|            | オンライン授業ノウハウの取得など、教師のスキルアップにつながったため                             |
|            | オンライン授業に新たに挑戦することができたため  |
| ③満足していない   | 今後、海外向けにオンラインサービスを提供する上での課題を把握できたため                            |
|            | インターネット接続環境不良やアプリの動作不良等が原因で、教師に円滑な授業環境を提供することができなかったため         |
| ④全く満足していない | 学習者の参加率がクラス・国ごとに違いがあり、安定して授業を展開できないクラスがあったため                   |
|            | 入国が緩和されてからオンライン授業を開始しても意味がないため                                 |

※受領した回答から一部抜粋

N=43

### 3 効果検証【実証事業】アンケート結果（一部抜粋）

学習者・教師ともに、A1～Cの全レベルにおいて、他能力と比較して「書く」が上手になったと感じる割合は低くなっています。また、A1・A2と比較して、B2・Cといった高レベルのクラスでは、日本語能力が向上したと感じる割合が小さい傾向があります。

#### 【アンケート結果 質1/2】

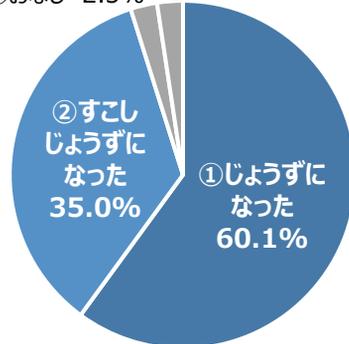
##### 〈学習者アンケート〉

質問項目6：このクラスでべんきょうして、にほんごがじょうずになりましたか

選択式

- ①じょうずになった
- ②すこしじょうずになった
- ③おなじ
- ④わからない

③おなじ 2.5% ④わからない 2.4%



N=1167

質問項目7：つぎのA～Gは、このクラスでべんきょうしてどのくらいじょうずになりましたか

A：話す（やりとり） B：話す（発表） C：聞く D：読む E：書く F：日本事情・日本理解 G：その他

選択式

- ①とてもじょうずになった〈4点評価〉
- ②じょうずになった〈3点評価〉
- ③あまりじょうずにならなかった〈2点評価〉
- ④ぜんぜんじょうずにならなかった〈1点評価〉

|    | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く   | 読む   | 書く   | 日本事情・日本理解 | その他  |
|----|----------|--------|------|------|------|-----------|------|
| A1 | 3.27     | 3.20   | 3.28 | 3.30 | 3.15 | 3.20      | 3.16 |
| A2 | 3.19     | 3.12   | 3.25 | 3.22 | 3.01 | 3.15      | 3.06 |
| B1 | 3.11     | 3.05   | 3.25 | 3.17 | 2.88 | 3.22      | 3.05 |
| B2 | 3.04     | 3.03   | 3.29 | 3.13 | 2.80 | 3.21      | 2.99 |
| C  | 2.88     | 2.73   | 3.31 | 3.00 | 2.62 | 3.08      | 2.73 |

※B2・Cは回答者の母数が少ないため留意

##### 〈教師アンケート〉

質問項目3：学習者の次の各能力について、今回のクラスに参加する前と比べてどの程度向上したと思いますか

A：話す（やりとり） B：話す（発表） C：聞く D：読む E：書く F：日本事情・日本理解 G：その他

選択式

- ①非常に向上した〈4点評価〉
- ②向上した〈3点評価〉
- ③向上しなかった〈2点評価〉
- ④全く向上しなかった〈1点評価〉
- ⑤本事業ではこの能力を対象としていない〈集計外〉

|    | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く   | 読む   | 書く   | 日本事情・日本理解 | その他  |
|----|----------|--------|------|------|------|-----------|------|
| A1 | 3.20     | 3.10   | 3.13 | 2.86 | 2.61 | 3.10      | 2.96 |
| A2 | 3.20     | 3.18   | 3.16 | 3.04 | 2.67 | 3.09      | 2.91 |
| B1 | 3.15     | 3.06   | 3.14 | 2.96 | 2.50 | 3.29      | 3.00 |
| B2 | 3.21     | 3.20   | 3.12 | 2.94 | 2.71 | 3.40      | 3.13 |
| C  | 3.00     | 3.00   | 3.00 | 3.00 | 3.00 | 3.00      | 3.00 |

※B2・Cは回答者の母数が少ないため留意

### 3 効果検証【実証事業】アンケート結果（一部抜粋）

約97%の学習者が「今後も継続して日本語を勉強したい」、約94%の学習者が「日本へ留学したい気持ちが強まった」と回答しており、オンライン教育が日本語学習のモチベーション向上や日本留学への意欲向上につながっていると考えられます。

#### 【アンケート結果 質2/2】

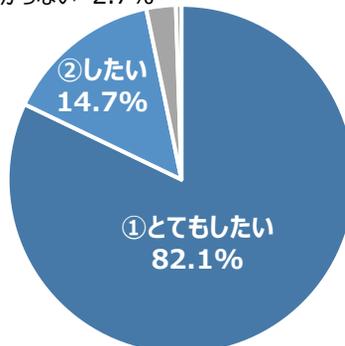
##### 〈学習者アンケート〉

質問項目10：これからもけいぞくして にほんごを  
べんきょうしたいとおもいますか

選択式

- ①とてもしたい
- ②したい
- ③わからない
- ④したくない

③わからない 2.7% ④したくない 0.5%



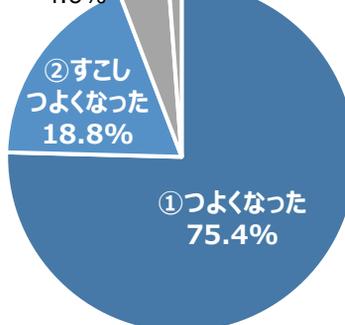
N=1167

質問項目12：このクラスでべんきょうして、にほんへ  
りゅうがくしたいきもちが つよくなりましたか

選択式

- ①つよくなった
- ②すこしつよくなった
- ③かわらない
- ④つよくならなかった

③かわらない 4.6% ④つよくならなかった 1.2%



N=1167

教師側も、それぞれ8割以上が学習者の日本語学習や日本留学へのモチベーションは一定程度向上したと回答しており、学習者のモチベーションの変化を概ね把握できていたことがうかがえる

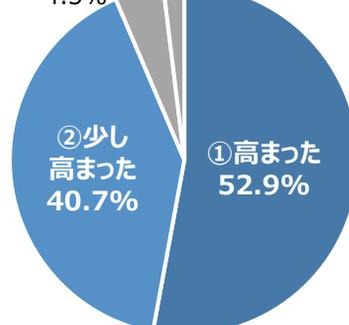
##### 〈教師アンケート〉

質問項目12：今回のクラスの受講を通して、学習  
者の日本語学習へのモチベーションはどのように変化  
しましたか

選択式

- ①高まった
- ②少し高まった
- ③変わらない
- ④高まらなかった

③変わらない 4.5% ④高まらなかった 1.9%



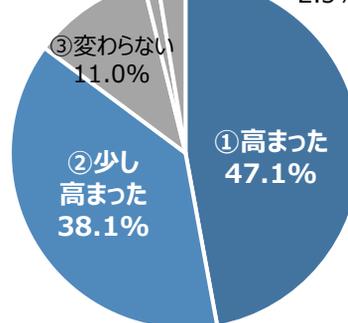
N=155

質問項目13：今回のクラスの受講を通して、学習  
者の日本への留学のモチベーションはどのように変化  
しましたか

選択式

- ①高まった
- ②少し高まった
- ③変わらない
- ④高まらなかった
- ⑤学習者が留学する予定はない

④高まらなかった 1.3% ⑤学習者が留学する予定はない 2.5%



N=155

### 3 効果検証【実証事業】アンケート結果（一部抜粋）

教材の組み合わせが構成の良し悪しに影響を与えると仮説を立ててアンケート項目を設計しましたが、実際には関連が薄いことがアンケート集計結果から推察されます。教師が構成の良し悪しを判断する基準等については、ヒアリングにて深掘りして調査しています。

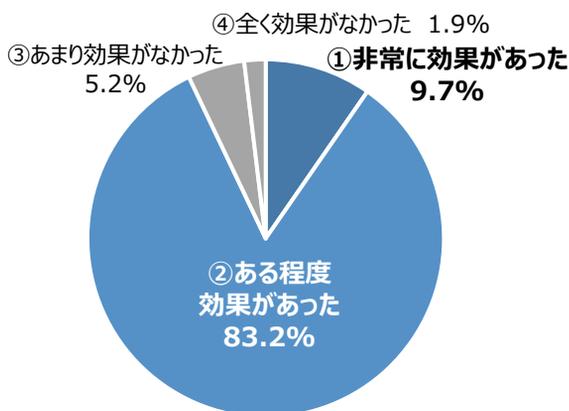
#### 【アンケート結果 構成1/1】

#### 〈教師アンケート〉

質問項目4：今回の教材の組み合わせについて、どの程度学習者に効果があったと思いますか

選択式

- ①非常に効果があった
- ②ある程度効果があった
- ③あまり効果がなかった
- ④全く効果がなかった



N=155

#### 「①非常に効果があった」と回答したクラスで使用していた教材

- 「いろいろ 入門」
- 「いろいろ 初級1」
- 「いろいろ 初級2」
- 「Magic Pocket」
- 「JLPT 実力アップコース」
- 「Japanese Express～Reading Bank」
- 「みんなの日本語 初級Ⅰ」
- 「いろいろ 入門」、「いろいろ 初級1」
- 「いろいろ 入門」、「Magic Pocket」
- 「Magic Pocket」「NEJ」
- 「Magic Pocket」「JLPT実力アップコース」「Japanese Express～Reading Bank」
- JLPT対策、オリジナル教材「日本語総まとめ」オリジナル教材「日本語能力試験完全マスター」
- オリジナル教材
- オリジナル教材「復習用音声教材－例文」、オリジナル教材「復習用音声教材－動詞の変形」、オリジナル教材「導入用動画補助教材」、オリジナル教材「音声補助教材」

### 3 効果検証【実証事業】アンケート結果（一部抜粋）

オンライン授業の提供方法に関して、「とてもよかった」「よかった」と回答した学習者は全体の約97%であり、改善点等は約75%が「なし」と回答していることから、オンライン授業の提供方法に対する学習者の満足度は非常に高いと考えられます。

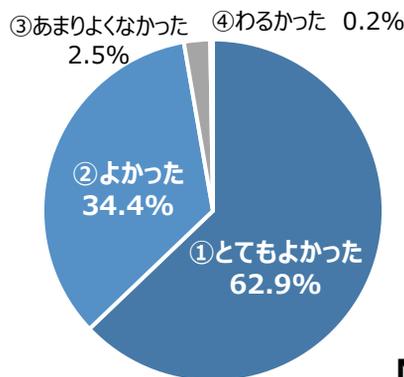
#### 【アンケート結果 運営（授業の参加環境） 1/4】

##### 〈学習者アンケート〉

質問項目13：このクラスのやりかたはよかったですか

選択式

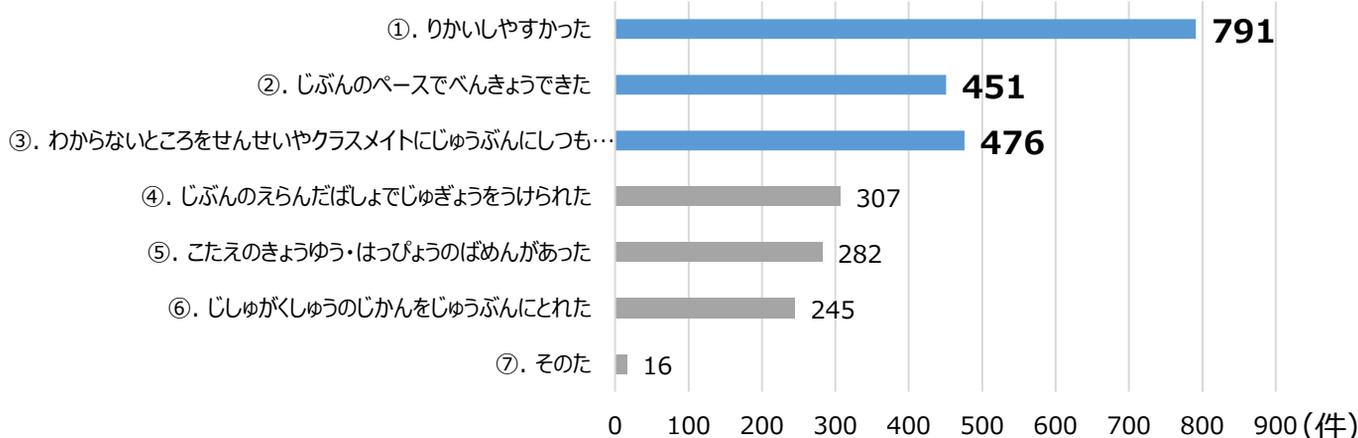
- ①とてもよかった
- ②よかった
- ③あまりよくなかった
- ④わるかった



N=1167

質問項目14：こんかいのクラスのていきょうほうほうの よかったてんをおしえてください

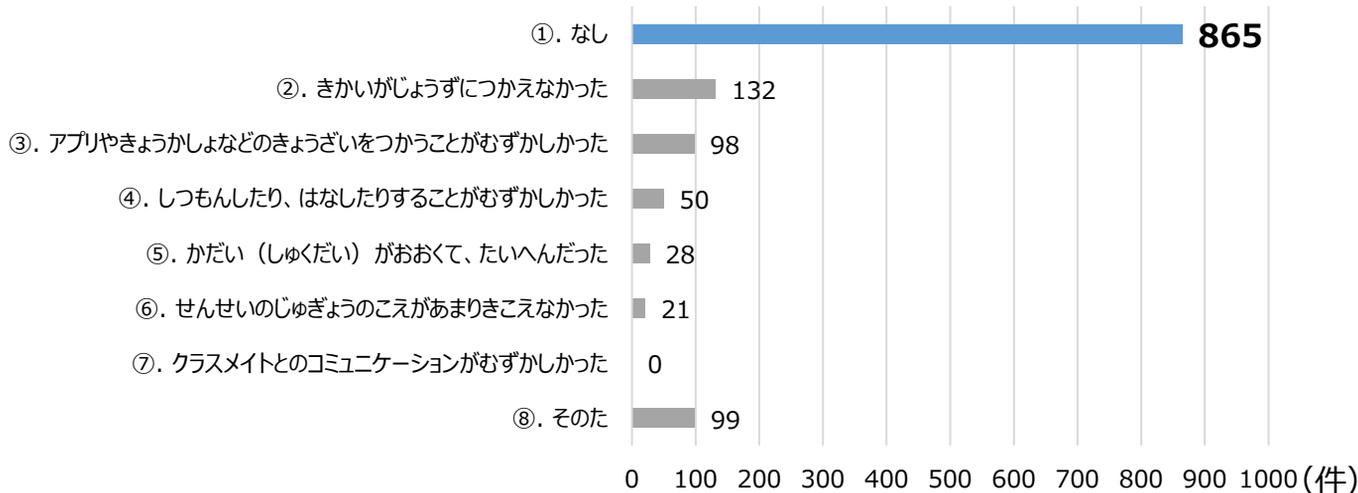
複数選択式



N=1167

質問項目15：このクラスのやりかたは、なにがわるかったですか

複数選択式



N=1167

### 3 効果検証【実証事業】アンケート結果（一部抜粋）

オンライン授業の提供方法に関して、学習者にとって満足いくものであったと回答する教師の割合は約87%で、多くの教師が学習者に対して問題なくオンライン授業を提供できたと考えていることが推察されます。

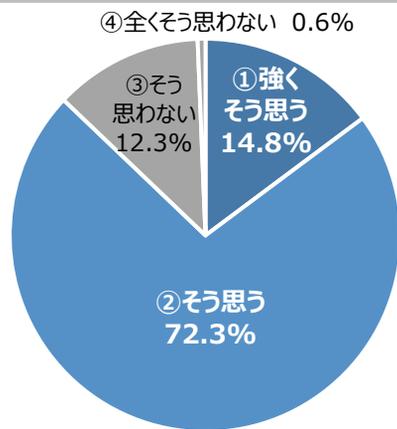
#### 【アンケート結果 運営（授業の参加環境） 2/4】

##### 〈教師アンケート〉

質問項目14：今回のクラスの提供方法（オンライン、リアルの対面、ハイブリッド等）は学習者が満足のいくものであったと思いますか

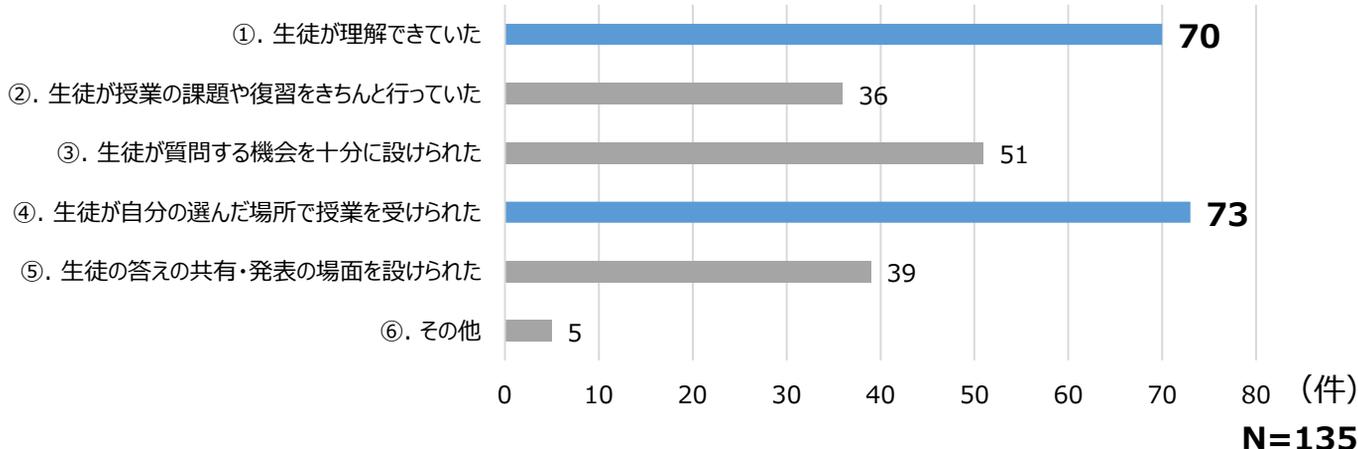
選択式

- ①強くそう思う
- ②そう思う
- ③そう思わない
- ④全くそう思わない



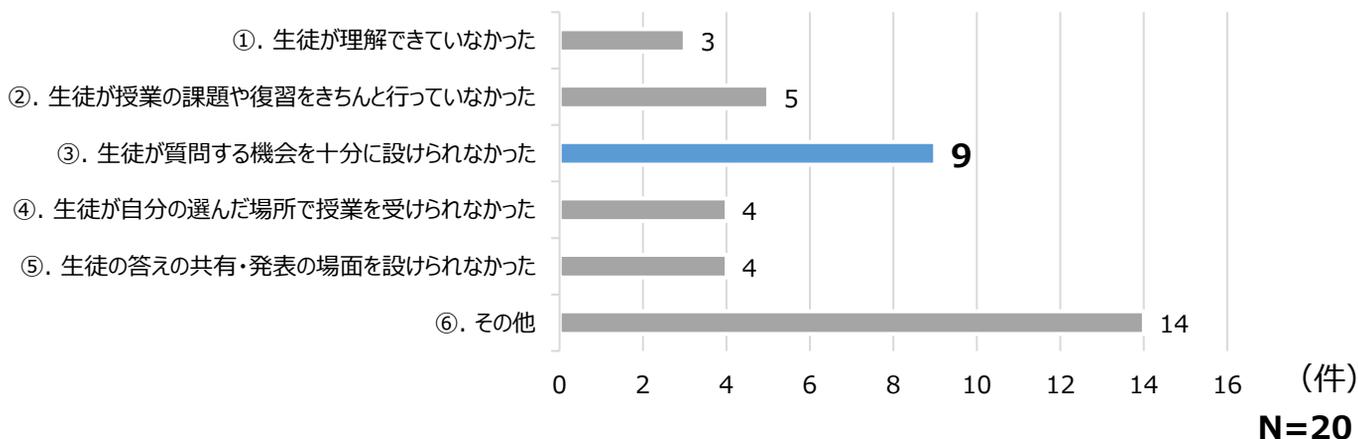
N=155

#### 質問項目15：問14で①②を選択した方はその理由を教えてください



N=135

#### 質問項目16：問14で③④を選択した方はその理由を教えてください



N=20

#### その他の回答：

- 学習者のネットワーク環境がよくなかった
- ハイブリッド形式で実施したが、オンラインで受講している学習者よりも対面で参加している学習者の方が話す機会が多かったため、オンラインの学習者にとっては満足度が低いのではないかと

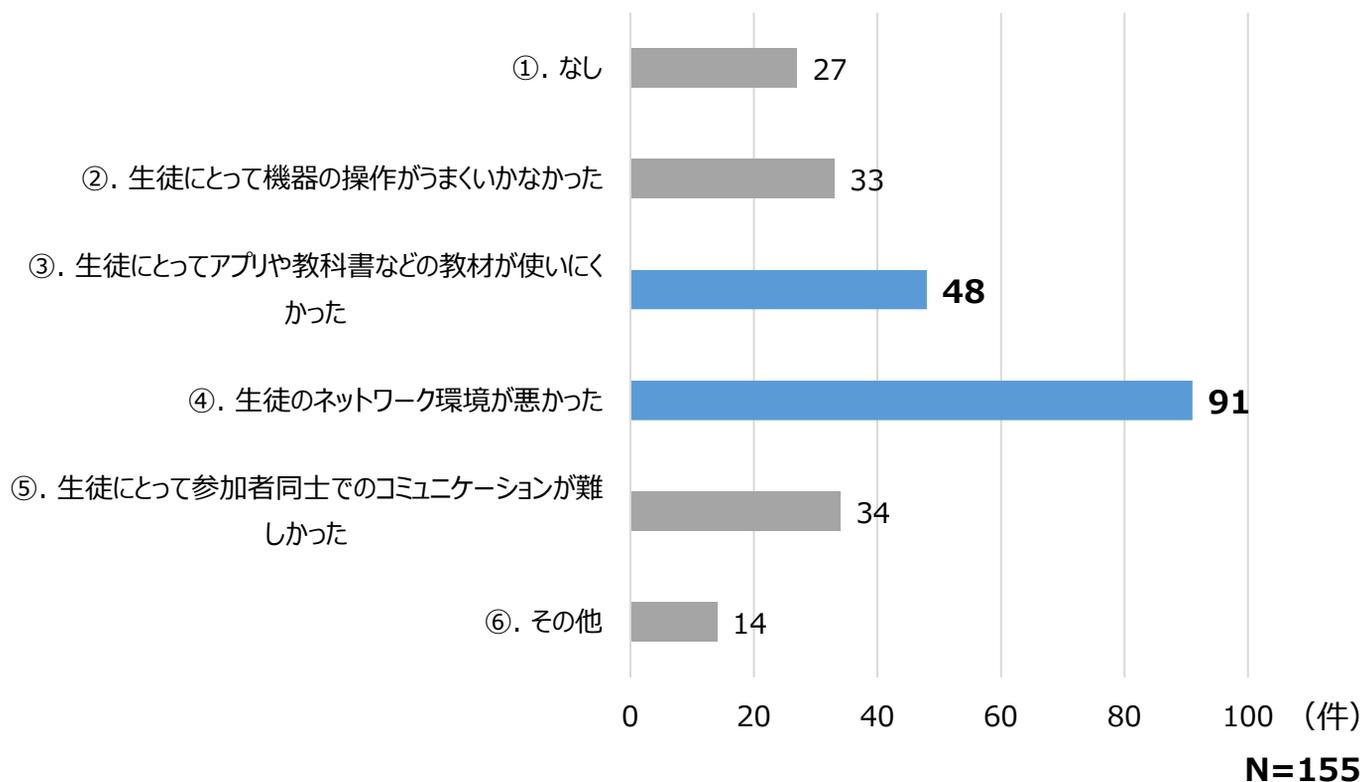
### 3 効果検証【実証事業】アンケート結果（一部抜粋）

改善点として、学習者のネットワーク環境の悪さが一番多く挙げられ、その次にアプリや教材の使いにくさが挙げられました。また、オンラインでは学習者が回答を見たり翻訳機能を使ってカンニングしても発見できず、能力の正確な評価が難しい点等も挙げられました。

#### 【アンケート結果 運営（授業の参加環境） 3/4】

#### 〈教師アンケート〉

質問項目17：改善が必要だと思われる点があれば教えてください



#### その他の回答：

- 事前の準備期間が非常に短かった点
- 学習者のレベルのばらつきや授業が対象としているレベルと異なる学習者の参加を可能な限り減らすために、事前の学習者のレベルチェックをより丁寧に行う必要があった点
- 時々マイクを使用しない学習者がいた点
- 教師側のインターネット接続環境が悪かった点
- 使用したLMS（learning box）が使いにくく、十分に活用できなかった点
- 授業中に聴解問題を行う際に解答を見ながら答えてしまう学習者がおり、あまり練習にならなかった点
- 自分の言葉で話さずに翻訳機を使う学習者がいた点。オンラインではなかなか強く禁止できず、学習者管理の面では課題を感じた
- オンラインでは学習者の能力の評価が曖昧になってしまう点
- 学習者の学習継続を教師側でルール化する点
- 「書く」能力を測るのが難しかった点

※受領した回答から一部抜粋

### 3 効果検証【実証事業】アンケート結果（一部抜粋）

全体の約90%の教師がオンライン授業環境は活用しやすかったと回答しており、特に教材の共有がやりやすかったことが理由として挙げられています。一方で、オンラインのスキルが不足していたり機能が使いにくいことを理由に、活用しにくかったという回答もありました。

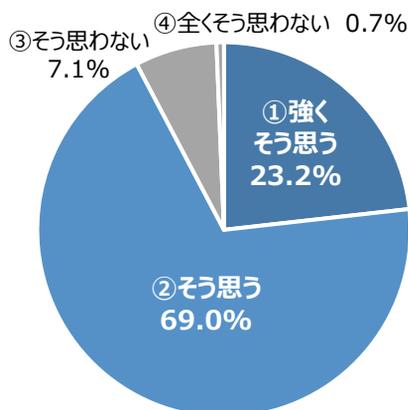
#### 【アンケート結果 運営（授業の参加環境） 4/4】

#### 〈教師アンケート〉

質問項目18：今回のクラスで活用したオンライン授業環境（Zoom等）は、教師として活用しやすいものでしたか

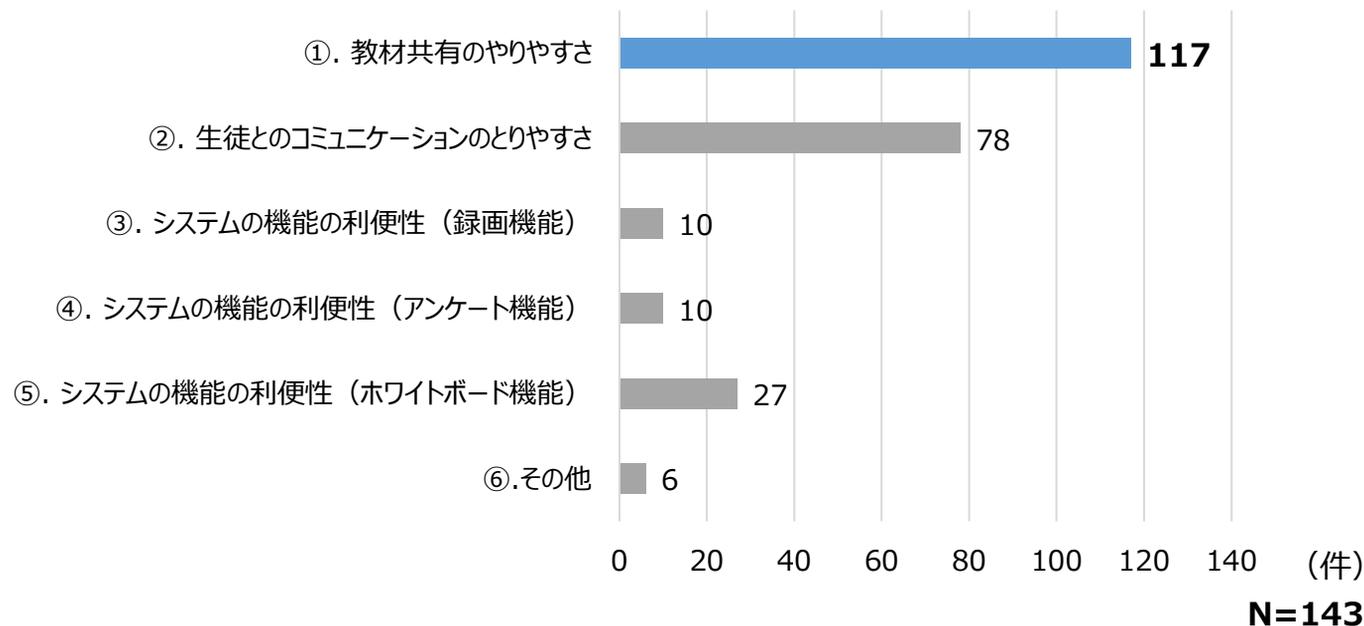
選択式

- ①強くそう思う
- ②そう思う
- ③そう思わない
- ④全くそう思わない



N=155

#### 質問項目19：問18で①②を選択した方はその理由を教えてください



N=143

#### 質問項目20：問18で③④を選択した方はその理由を教えてください

| 選択肢       | 回答内容  |
|-----------|---|
| ③そう思わない   | 学習者の母国がZoomに規制をかけており、別のプラットフォームで開催する必要があったため  |
|           | 教師のスキルが不足していたため                               |
|           | ブレイクアウト機能が使えなかったため                            |
|           | インターネット環境やデバイスの個人差があり、どうしても学習者の受講環境にばらつきが出るため |
|           | オンライン授業では学習者の反応を読み取ることが難しいため                  |
|           | 電子黒板などと連動させないと使いにくいため                         |
| ④全くそう思わない | ハイブリッドだと限界があるため<br>負担増になったため                  |

※受領した回答から一部抜粋

N=12

### 3 効果検証【実証事業】アンケート結果（一部抜粋）

オンライン授業活用により負担が軽減したとの回答は約60%にとどまり、一定程度の負担が発生することが明らかとなりました。理由として、オンライン特有の準備が発生すること、学習者の理解度を把握しにくく事後のフォローが必要なこと等が挙げられました。

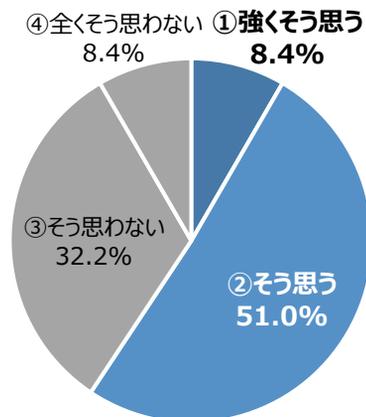
#### 【アンケート結果 運営（授業の受入環境） 1/2】

##### 〈教師アンケート〉

質問項目25：今回実証したオンライン授業やLMS等を継続的に実施する場合、これまでの対面授業と比較して、先生の授業準備や実施に係る負担は軽減されると思いますか

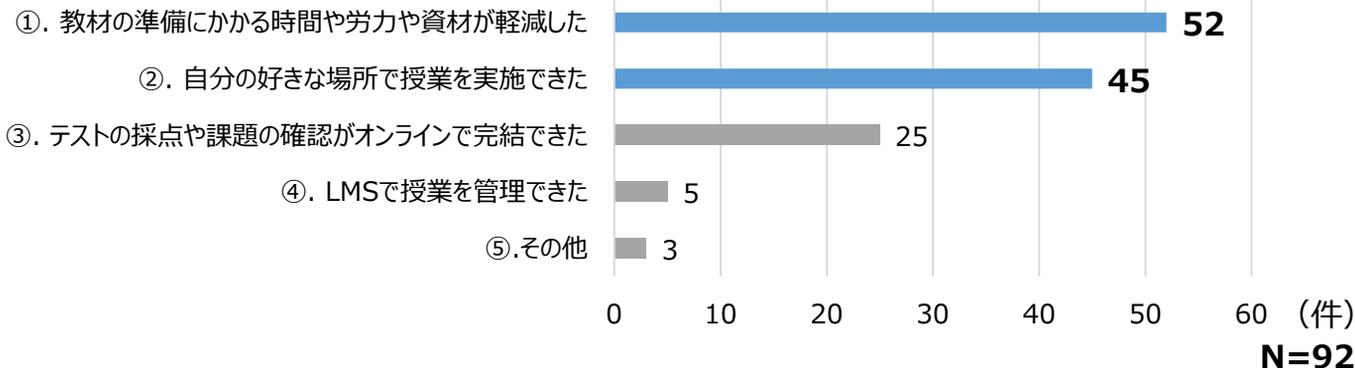
選択式

- ① 強くそう思う
- ② そう思う
- ③ そう思わない
- ④ 全くそう思わない



N=155

#### 質問項目26：問25で①②を選択した方はその理由を教えてください



#### 質問項目27：問25で③④を選択した方はその理由を教えてください

| 選択肢         | 回答内容   |
|-------------|--|
| ③. そう思わない   | 入国前学習者とEメールでやり取りをする際に一定の時間がかかったため                                  |
|             | 対面授業と比べて学習者の日本語能力スピードが下がることから、授業後のフォローアップの手間がより煩雑になったため            |
|             | 待ち時間やネット環境に気を遣う時間が多いため   |
|             | オンライン対応のための授業準備や機材操作の習熟が求められるため、特にITスキルが不足した教師の場合は負担が大きくなると考えられるため |
|             | 機材のセッティングにかかる時間が毎回発生したため   |
|             | ハイブリッド授業では対面授業にプラスしてオンラインの学習者が追加されることになり、両方に気を配りながら授業を進める必要があったため  |
|             | オンラインは双方向になりにくく、学習者の声を拾いにくいいため                                     |
|             | オンライン授業のほうが伝え方に工夫が必要なため  |
| ④. 全くそう思わない | オンライン用の工夫が必要であり、対面では不要な準備も発生するため                                   |
|             | 学習者のレベルと準備のばらつきが大きく、対面であればカバーできたと思われるがオンラインではカバーすることが難しかったため       |
|             | 対面では把握できるような学習者の表情や理解状況等がオンラインだと伝わりにくく、そのための配慮が必要なため               |

※受領した回答から一部抜粋

N=63

### 3 効果検証【実証事業】アンケート結果（一部抜粋）

全体の約95%の教師が「今後もオンライン教育に取り組みたい」と回答しており、その理由として学習者のモチベーションの高さを挙げています。一方で、授業準備や実施に負担がかかるため取り組みたくない、との意見も複数受領しています。

#### 【アンケート結果 運営（授業の受入環境） 2/2】

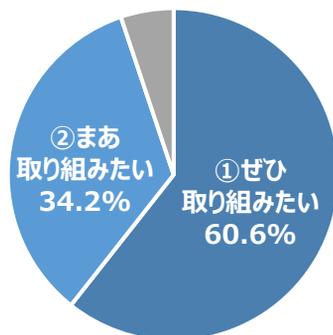
##### 〈教師アンケート〉

質問項目31：今後もオンライン教育に取り組んでいきたいと考えますか

選択式

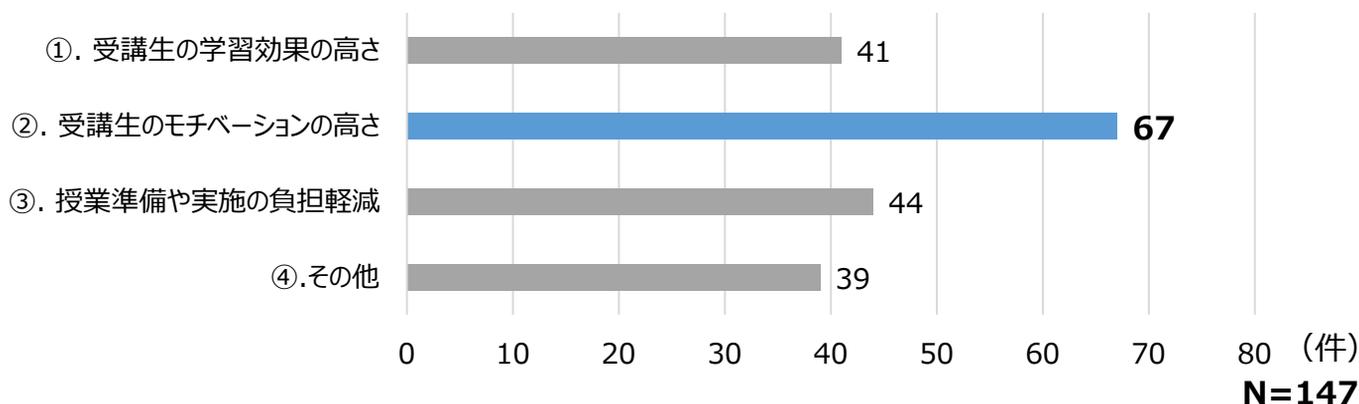
- ①ぜひ取り組みたい
- ②まあ取り組みたい
- ③取り組みたくない

③取り組みたくない 5.2%



N=155

質問項目32：問31で①②を選択した方はその理由を教えてください

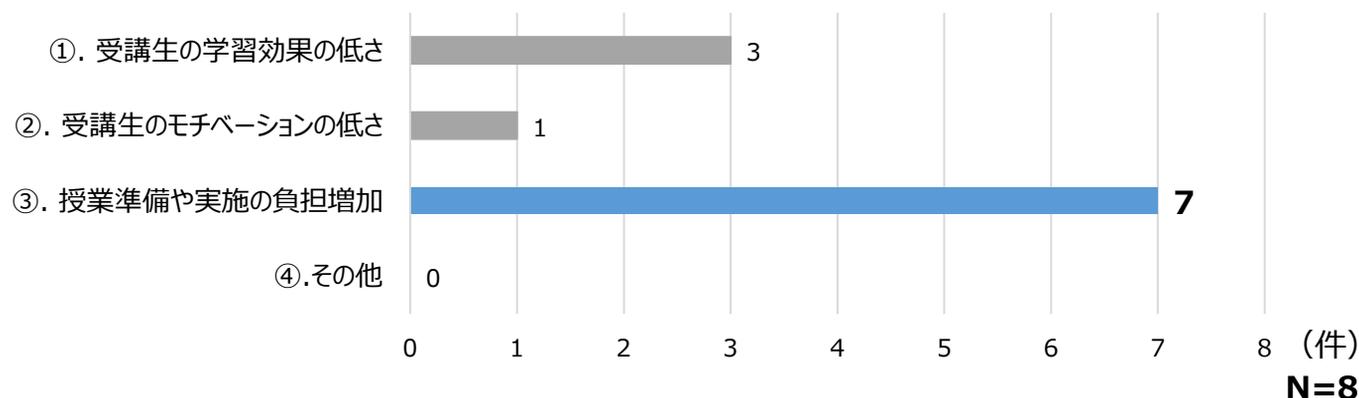


##### その他の回答：

- どこにいても授業に参加できるので、場所の問題がなくなり、日本語学習者の増加につながるため
- 来日予定の留学生に対して、事前に能力レベルを把握できるため。また、学習のモチベーションを上げることができるため
- 来日していない学習者に対して教育の機会が提供できるため。また、交流することができるため
- 今後オンラインでの授業の需要が増えると思うため
- 新型コロナウイルスのような非常事態になった場合に教育を進める際に必要であるため

※受領した回答から一部抜粋

質問項目33：問31で③を選択した方はその理由を教えてください



### 3 効果検証【実証事業】アンケート結果（一部抜粋）

約98%の経営者が「今後も本プログラムに限らずオンライン教育に取り組んでいきたい」と考えており、学習者からのニーズがあること、学習者のモチベーションが高いこと等を主な理由として挙げています。

#### 【アンケート結果 運営（事業の継続性） 1/2】

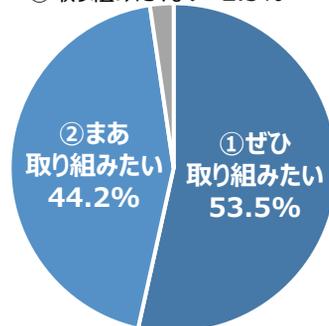
##### 〈経営者アンケート〉

質問項目11：今後も本プログラムに限らず、オンライン教育に取り組んでいきたいと考えますか

選択式

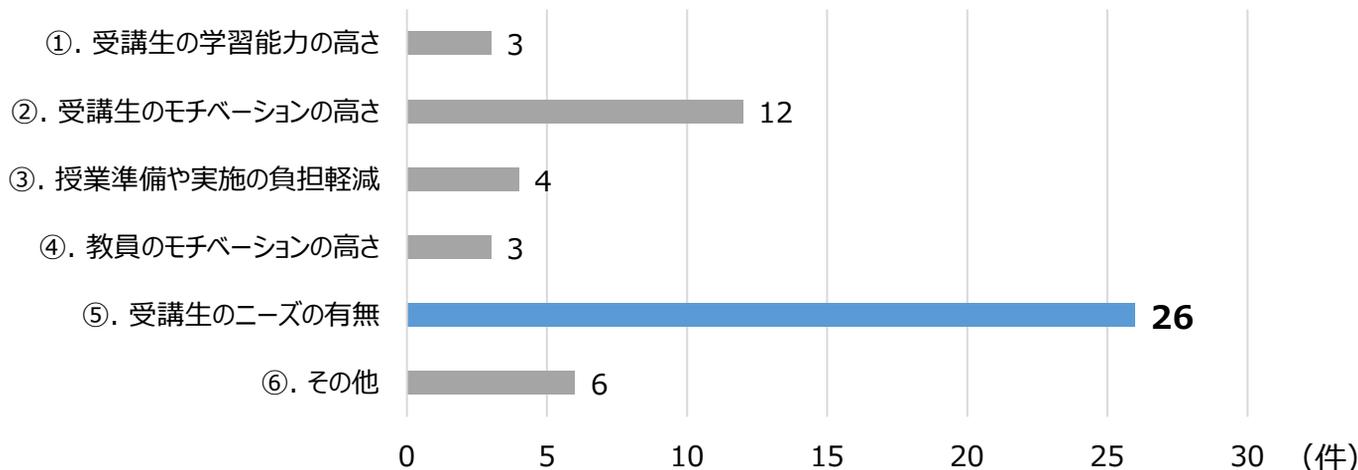
- ①ぜひ取り組みたい
- ②まあ取り組みたい
- ③取り組みたくない

③取り組みたくない 2.3%



N=43

質問項目12：問11で①②を選択した方はその理由を教えてください



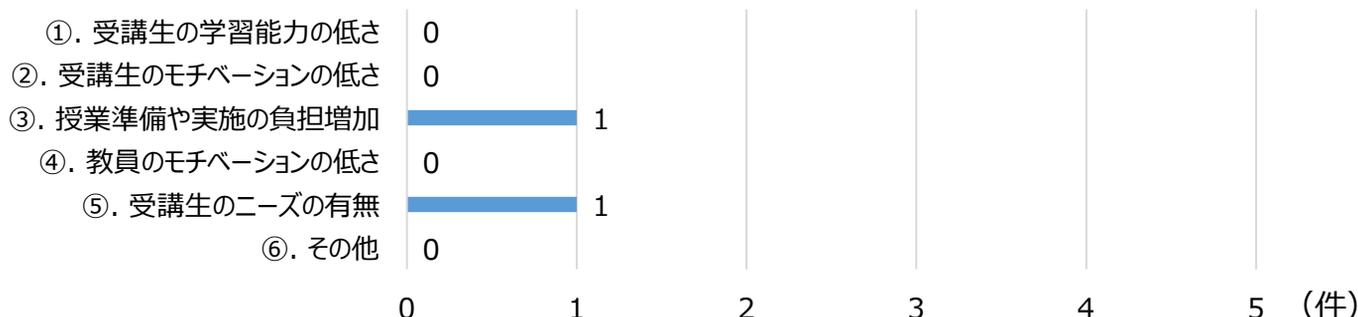
N=42

##### その他の回答：

- ▶ 新型コロナウイルスのような非常事態発生の際に必要なため
- ▶ 多様な環境下での対応能力強化のため
- ▶ 学習者の日本語レベルを確認できるため
- ▶ 新たなマネタイズポイントの創出のため

※受領した回答から一部抜粋

質問項目13：問11で③を選択した方はその理由を教えてください



N=1

### 3 効果検証【実証事業】アンケート結果（一部抜粋）

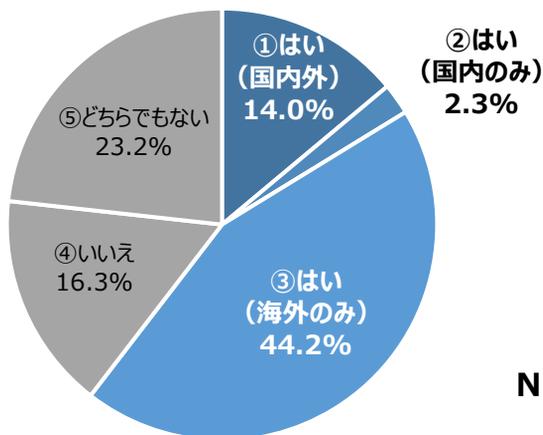
全体の約60%の経営者が「国内外の潜在的な日本語学習者を取り込めた」と回答しています。そのうち概ねが「海外の学習者を取り込めた」と回答しており、オンラインにより世界中の幅広い学習者に日本語教育を提供できる可能性があることが明らかとなりました。

#### 【アンケート結果 運営（事業の継続性） 2/2】

##### 〈経営者アンケート〉

質問項目18：プログラムの提供を通して、国内外の潜在的な日本語学習者を取り込むことができましたか  
選択式

- ①はい（国内外）
- ②はい（国内のみ）
- ③はい（海外のみ）
- ④いいえ
- ⑤どちらでもない



##### 質問項目19：その理由を教えてください

| 選択肢       | 回答内容   |
|-----------|--|
| ①はい（国内外）  | オンライン授業を体験した学習者から入学の要望を受領した。国内外の企業に対してビジネス日本語の教育を提供することが可能になったため                       |
|           | 特に専門学校での体験授業には多くの外国人が参加しており、専門学校と連携を取りながら来日前コース等が提供できるのではないかと感じたため                     |
|           | 配偶者など日本語に触れていない人たちに日本語教育を提供しうることが判明したため  |
| ②はい（国内のみ） | 時差により、海外の学習者に対しては案内に苦戦したため   |
|           | このプログラムを通じて入学希望者を発掘することができたため  |
| ③はい（海外のみ） | 留学が決まっていない学習者にとっては、具体的に日本留学のイメージができたと思われるため  |
|           | 今までは日本留学決定後から来日するまでの期間に学習者に対して連絡することはほとんどなかったが、オンライン授業を行うことで入国前から学習者と教師がやりとりすることができたため |
|           | オンライン授業の回数を重ねるとネット上でクラスの一体感が生まれ、日本で会いたいという雰囲気醸成できたため                                   |
|           | オンライン授業をきっかけに日本に興味を持つ学習者がいたため  |
|           | 日本語学習ツールが増えることにより日本語学習者がいつでもどこでも簡単に勉強でき、学習者募集に繋がる可能性を感じたため                             |
| ④いいえ      | オンライン形態の教育は既に様々な企業が取り組んでおり、国内外の新規学習者に対して、魅力的な宣伝をすることが出来なかったため                          |
|           | 本校への入学予定者を対象に募集したため、潜在的な日本語学習者へのアプローチは実施していなかったため                                      |
| ⑤どちらでもない  | 授業に参加した大多数は当校への入学希望者であったため。また、それ以外の学習者は欠席が多かったり続かなかったりしたため                             |
|           | 募集期間が短かったことが原因で学習者が集まらなかったため   |
|           | 今回は学習者は集まらなかったが、今後継続すれば次第に効果が表れ、潜在的な学習者取り込みにつながると思われるため                                |

※受領した回答から一部抜粋

N=43

### 3 効果検証【実証事業】アンケート概要

言語活動・レベル・開催手段の観点のうち、どの範囲までであればオンライン日本語教育として成立しうるかを可視化することを目的として、前述のアンケートデータを元にクロス分析を行いました。

#### 効果検証分析の概要

前述のアンケートデータ結果をもとに、「日本語能力の向上」に関する設問を軸に、学習者及び教師のそれぞれの視点から、「言語活動」「レベル」「開催手段」の観点からクロス分析を実施した。

|         |  |
|---------|--|
| 効果検証の目的 | アンケート調査結果を踏まえ、開催手段・レベル・能力のマトリックス（「言語活動」「開催手段」「レベル」）を考慮し、どの範囲までであればオンライン日本語教育として成立しうるかを可視化すること  |
| 分析対象    | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習者および教師を対象に実施したアンケートを対象に分析を実施</li> <li>実施したアンケートのうち、「学習者の受講前後の理解度向上に資する内容であるかどうか」また「教師が学習者の能力向上に資する内容であったかどうか」の項目を対象アンケートから確認（対象は、以下のとおり）</li> </ul> <p>①学習者アンケート：Q「日本語能力が向上したか」<br/>         &lt;&lt;回答尺度&gt;&gt;<br/>         「4：非常に向上した」「3：向上した」「2：向上しなかった」「1：全く向上しなかった」</p> <p>②教師アンケート：Q「学習者の次の各能力について、今回のクラスに参加する前と比べてどの程度向上したと思いますか？」<br/>         &lt;&lt;回答尺度&gt;&gt;<br/>         「4：非常に効果があった」「3：ある程度効果があった」「2：あまり効果がなかった」「1：全く効果がなかった」</p> |
| 分析方法    | <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査結果を用いたクロス分析により実施</li> </ul> <p>① 言語活動：話す（やりとり）、話す（発表）、聞く、読む、書く、日本事情・日本理解<br/>         ② 開催手段：オンライン、ハイブリッド、オンライン+ハイブリッド、ハイフレックス<br/>         ③ レベル：A1、A2、B1、B2、C</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分析パターンは以下のとおり</li> </ul> <p>【①言語活動×③レベル】によるクロス分析：「どの言語活動・レベルまでであれば、オンラインによる日本語能力が向上するのか」を検証<br/>         【②開催手段×①言語活動】によるクロス分析：「どの開催手段を用いた場合、どの言語活動が向上するのか」を検証</p>  |

#### クロス分析の結果

##### ●言語活動×レベル | 学習者回答

学習者の回答から、「聞く」「読む」「日本事情・日本理解」は、全レベルで能力が向上している。他方、「話す」「書く」はレベルが上がる毎に日本語能力の向上度合が下がる傾向にある。

(対象授業数：175件、学習者回答数：1,167件)

3.0以上

|      |           | レベル  |      |      |      |      |
|------|-----------|------|------|------|------|------|
|      |           | A1   | A2   | B1   | B2   | C    |
| 言語活動 | 話す（やりとり）  | 3.27 | 3.19 | 3.11 | 3.04 | 2.88 |
|      | 話す（発表）    | 3.20 | 3.12 | 3.05 | 3.03 | 2.73 |
|      | 聞く        | 3.28 | 3.25 | 3.25 | 3.29 | 3.31 |
|      | 読む        | 3.30 | 3.22 | 3.17 | 3.13 | 3.00 |
|      | 書く        | 3.15 | 3.01 | 2.88 | 2.80 | 2.62 |
|      | 日本事情・日本理解 | 3.20 | 3.15 | 3.22 | 3.21 | 3.08 |

#### クロス分析の結果

##### ●クロス分析（言語活動×レベル） | 教師回答

教師の回答から、「読む」「書く」を除けば、オンライン日本語教育においても、学習者の日本語能力の向上に資すると評価する傾向が見られる

(対象授業数：175件、教師回答数：1,167件)

3.0以上

|      |           | レベル  |      |      |      |      |
|------|-----------|------|------|------|------|------|
|      |           | A1   | A2   | B1   | B2   | C*   |
| 言語活動 | 話す（やりとり）  | 3.20 | 3.20 | 3.15 | 3.21 | 3.00 |
|      | 話す（発表）    | 3.10 | 3.18 | 3.06 | 3.20 | 3.00 |
|      | 聞く        | 3.13 | 3.16 | 3.14 | 3.12 | 3.00 |
|      | 読む        | 2.86 | 3.04 | 2.96 | 2.94 | 3.00 |
|      | 書く        | 2.61 | 2.67 | 2.50 | 2.71 | 3.00 |
|      | 日本事情・日本理解 | 3.10 | 3.09 | 3.29 | 3.40 | 3.00 |

\*レベルCは、教師アンケートの対象母数が少ないことから参考値扱い

##### ●クロス分析（開催手段×言語活動） | 学習者回答

学習者の回答から、どの開催手段を用いても、各言語活動において日本語能力の向上しているものの、その中でも受講の選択肢の多いハイフレックス型の効果が高いと評価する傾向が見られる

(対象授業数：175件、学習者回答数：1,167件)

3.0以上

|      |              | 言語活動     |        |      |      |      |           |
|------|--------------|----------|--------|------|------|------|-----------|
|      |              | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く   | 読む   | 書く   | 日本事情・日本理解 |
| 開催手段 | オンライン        | 3.25     | 3.18   | 3.33 | 3.28 | 3.07 | 3.23      |
|      | ハイブリッド       | 3.18     | 3.13   | 3.25 | 3.26 | 3.10 | 3.22      |
|      | オンライン+オンデマンド | 3.18     | 3.13   | 3.18 | 3.24 | 3.03 | 3.11      |
|      | ハイフレックス      | 3.30     | 3.20   | 3.28 | 3.35 | 3.13 | 3.21      |

##### ●クロス分析（開催手段×言語活動） | 教師回答

教師側の回答から、どの開催手法を用いても「話す」「聞く」は高まると評価しているが、「読む」「書く」に対する効果に対し低く評価する傾向も見られる

(対象授業数：175件、学習者回答数：1,167件)

3.0以上

|      |              | 言語活動     |        |      |      |      |           |
|------|--------------|----------|--------|------|------|------|-----------|
|      |              | 話す（やりとり） | 話す（発表） | 聞く   | 読む   | 書く   | 日本事情・日本理解 |
| 開催手段 | オンライン        | 3.22     | 3.13   | 3.12 | 2.94 | 2.64 | 3.16      |
|      | ハイブリッド       | 2.95     | 3.07   | 3.00 | 2.89 | 2.75 | 3.14      |
|      | オンライン+オンデマンド | 3.18     | 3.15   | 3.11 | 2.96 | 2.75 | 2.95      |
|      | ハイフレックス      | 3.14     | 2.92   | 3.33 | 3.13 | 2.71 | 3.09      |

【用語の定義】

ハイブリッド・・・対面授業とオンライン授業を組み合わせたもの

オンデマンド・・・録画した授業を配信するもの（反転事業の事前学習等）

ハイフレックス・・・ハイブリッド型とオンデマンド型を組み合わせたもの

アンケート結果を基にヒアリング候補先の抽出を行い、有識者の意見を踏まえて最終的なヒアリング対象を選定、ヒアリングを実施しました。

〈ヒアリング対象・グッドプラクティス選定プロセス〉

49事業者175クラス

#### Step0

##### 事務局による形式的なヒアリング候補の提案

以下の5つの視点からヒアリング候補の事務局案を検討

##### 有識者の評価の「合計点」の上位75%の日本語教育機関

事業趣旨に沿った計画の充実度が実証成果に影響すると想定し、実証事業申請時の事業計画に対する有識者評価を活用

##### 本事業の対象となる海外からの学習者数が4名以上のクラス

本事業では海外の外国人留学生に向けた日本語教育環境を構築するために、オンラインを活用した日本語教育の実証を行うため、本事業の対象となる留学生の参加者数が一定数以上のクラスを対象とする

##### 学習者アンケートの回答者数が4名以上のクラス

定量的な効果や成果を把握するために、学習者アンケートの回答者数が一定数以上のクラスを対象とする

##### 学習者アンケート「総合満足度」が4点～1点の4段階評価のうち3点以上のクラス

主に質と構成の総合的な評価が得られる学習者の総合満足度を活用  
取得n数が多く客観的評価が得られる学習者アンケートを教師アンケートより優先

##### 教師アンケート「総合満足度」が4点～1点の4段階評価のうち3点以上のクラス

質と構成と運営の総合的な評価が得られる教師の総合満足度を活用

有識者によるヒアリング候補選定に向けた  
事前準備

#### Step1

全実証事業日本語教育機関を対象としたグッドプラクティスのヒアリング候補の精査・選定  
事務局が提案するヒアリング候補を踏まえつつ、有識者の専門的知見から横展開すべき実証事例を選定

##### 有識者参考資料

- ・全実証事業日本語教育機関成果一覧リスト（ステップ0でまとめた情報のサマリー）
- ・有識者への送付時点で各校から提出のあった成果報告書

#### Step2

有識者との協議結果を踏まえ、実証事業日本語教育機関へのヒアリングを実施  
ヒアリング数は有識者との協議の上決定

#### Step3

ヒアリング結果を踏まえ、有識者会議・確認を踏まえて、グッドプラクティスを決定

有識者によるヒアリング候補選定  
グッドプラクティス選定

ヒアリングによる更なる深堀を行うことで、オンラインによる日本語教育に関する成果や課題を定性的に把握し、グッドプラクティス（別冊）を作成しました。

## 〈ヒアリング概要〉

|      |  |
|------|--|
| 目的   | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ヒアリングによる更なる深堀を行うことで、オンラインによる日本語教育に関する成果や課題を定性的に把握する。また、ヒアリング結果を基にグッドプラクティスを作成する</li> <li>▶ 特に質・構成・運営の観点から成果や課題および各クラスが実施した工夫等についての深堀を行い、今後のオンライン教育の推進に参考となる情報を収集する</li> </ul> |
| 対象者  | 抽出フローに従って選定したクラスの日本語教育機関経営者・教師   |
| 実施期間 | 2023年1月～2月   |
| 実施方法 | オンラインZoomによるインタビュー 各クラス60分程度   |

## 〈ヒアリングの観点〉

|    |   |
|----|---|
| 全体 | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ オンラインによる日本語教育の成果や課題について定性的な評価・意見を把握する</li> <li>▶ 継続的な運営に向けた改善点や各事業者が行う予定の今後の取組等について把握する</li> </ul>           |
| 質  | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ クラスにおける質を高める上で、工夫した点等を把握する（利用した教材や教材を有効活用するに際して実施した工夫点や改善点を把握等）</li> </ul>                                   |
| 構成 | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 対面授業と比較して、オンライン授業におけるカリキュラム構成の工夫点や変更点を把握する（教材の組合せやオンライン提供手法の組合せ等）</li> </ul>                                 |
| 運営 | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ オンライン教育を行うにあたっての事前準備や、学習者へのフォロー等運営における工夫点を把握する</li> <li>▶ 対面授業と比較したオンライン授業の運営における負担の軽減や増加について把握する</li> </ul> |

## 〈グッドプラクティス作成概要〉

|      |  |  |
|------|--|--|
| 作成目的 | 各学校がオンライン教育において実施した取組内容や成果、課題、実施における工夫点等を記載することで、今後オンライン教育を行う日本語教育機関にとって参考となるような事例集を作成する |  |
| 掲載項目 | 事業概要   | 日本語教育機関の概要を記載  |
|      | 背景と目的  | 実証事業へ参加した背景と目的を記載  |
|      | 取組内容   | オンライン教育における取組内容（クラスの基本情報／カリキュラム概要）を記載                      |
|      | 特徴や工夫点   | オンライン教育における取組の特徴や工夫点を質・構成・運営の3つの観点で記載                      |
|      | 成果と課題  | 実証事業における全体的な成果と課題、および各クラスごとに定めた目標（Can-do／独自目標）に対する成果と課題を記載 |
|      | 今後の取組  | 実証事業を経て、今後各日本語教育機関が行う予定のオンライン教育に関する取り組みを記載                 |

ヒアリング対象選定プロセスに基づき、ヒアリング対象として選定。  
ヒアリング結果を踏まえ、計28件のグッドプラクティスへの落とし込みを行いました。

〈ヒアリング対象一覧〉

| 機関番号       | 機関名                    | #  | クラス名  | 日本語レベル |    |    |    |   | 手段    |        |        |         |
|------------|------------------------|----|---|--------|----|----|----|---|-------|--------|--------|---------|
|            |                        |    |   | A1     | A2 | B1 | B2 | C | オンライン | ハイブリッド | オンデマンド | ハイフレックス |
| A01        | A.C.C.国際交流学園           | 1  | 留学生（就職）を対象としたレベルA1のハイブリッド型授業                      | ●      |    |    |    |   |       | ●      |        |         |
| A02        | 神戸東洋日本語学院              | 2  | 留学生（進学・就職・一般）を対象としたレベルA1のハイフレックス型授業①              | ●      |    |    |    |   |       | ●      | ●      | ●       |
|            |                        | 3  | 留学生（進学・就職・一般）を対象としたレベルA2のハイフレックス型授業①              |        | ●  |    |    |   |       | ●      | ●      | ●       |
| A03        | エール学園日本語教育学科           | 4  | 中上級ビジネス日本語  | ●      | ●  |    |    |   |       | ●      |        |         |
|            |                        | 5  | 初級日本語会話   |        |    | ●  | ●  |   |       | ●      |        |         |
| A04        | 熊本YMCA学院日本語科           | 6  | 留学生（進学）を対象とした入門、A1のオンライン型授業 + オンデマンド学習            | ●      |    |    |    |   |       | ●      | ●      |         |
| A05        | 日本語センター                | 7  | 初級オンラインコース（一般）                                    |        | ●  |    |    |   |       | ●      |        |         |
|            |                        | 8  | JLPT対策オンラインコース                                    | ●      |    |    |    |   |       | ●      |        |         |
| A07        | 国書日本語学校                | 9  | 日本語初級 バングラデシュクラス                                  | ●      |    |    |    |   |       | ●      |        |         |
|            |                        | 10 | JLPT N2 中国クラス/JLPT N2 ミャンマークラス/JLPT N3 中国・モンゴルクラス |        |    | ●  | ●  | ● |       | ●      |        |         |
| A12        | 日立さくら日本語学校             | 11 | さくらP/さくらR   | ●      |    |    |    |   |       | ●      |        | ●       |
|            |                        | 12 | さくらN  | ●      | ●  |    |    |   |       | ●      |        | ●       |
| A18        | ジエット日本語学校              | 13 | 日本事情体験型 + テキストで学ぶサマーコース                           |        | ●  | ●  |    |   |       | ●      |        |         |
| A19        | 静岡インターナショナルスクール        | 14 | JLPT対策コースAクラス                                     | ●      |    |    |    |   |       | ●      |        |         |
| A20        | 広島YMCA専門学校             | 15 | いろいろクラス   | ●      | ●  |    |    |   |       | ●      |        |         |
|            |                        | 16 | おしゃべりクラス  | ●      | ●  |    |    |   |       | ●      |        |         |
| A42<br>A43 | ARMS日本語学校/<br>H&A日本語学校 | 17 | JLPT N5実力アップ/JLPT N4実力アップ                         |        | ●  |    |    |   |       |        | ●      | ●       |
|            |                        | 18 | 1からスタート初級クラス（オンライン） / 1からスタート初級クラス（ハイフレックス）       | ●      |    |    |    |   |       | ●      |        | ●       |
|            |                        | 19 | コミュニケーション日本語コース 入門                                | ●      |    |    |    |   |       | ●      |        |         |
| A45        | 名古屋国際学院                | 20 | オンライン留学準備150時間コース                                 | ●      | ●  |    |    |   |       | ●      |        |         |
| A47        | 国際言語文化センター附属日本語学校      | 21 | 渡日前フォローアップクラス1/渡日前フォローアップクラス2/在沖外国人生活者クラス         | ●      |    |    |    |   |       | ●      |        |         |
| B01        | 京都励学国際学院               | 22 | 初中級実力養成クラスA/クラスB                                  | ●      | ●  |    |    |   |       | ●      |        |         |
| B02        | 大阪YMCA国際専門学校 日本語学科     | 23 | 初級1   | ●      |    |    |    |   |       | ●      |        | ●       |
|            |                        | 24 | 初級2   | ●      |    |    |    |   |       | ●      |        | ●       |
|            |                        | 25 | 初級3   |        | ●  |    |    |   |       |        | ●      | ●       |
|            |                        | 26 | 初級4   |        | ●  |    |    |   |       |        | ●      | ●       |
| B03        | コミュニカ学院                | 27 | AM  | ●      |    |    |    |   |       | ●      | ●      |         |
| B05        | 青山スクールオブジャパニーズ         | 28 | インドネシアクラス①/②                                      | ●      |    |    |    |   |       | ●      |        |         |

# 3 効果検証【実証事業】グッドプラクティス概要

各日本語教育機関がオンライン教育において実施した取組内容や成果・課題、実施における工夫点等を記載することで、今後オンライン教育を行う日本語教育機関にとって参考となるよう事例（グッドプラクティス）集（別冊）を作成しました。

## ＜グッドプラクティス概要＞

|      |   |  |
|------|---|--|
| 作成目的 | 各日本語教育機関がオンライン教育において実施した取組内容や成果、課題、実施における工夫点等を記載することで、今後オンライン教育を行う日本語教育機関にとって参考となるような事例集を作成する |  |
| 作成数  | 計28件（レベル内訳：A1：20件、A2：12件、B1：3件、B2：2件、C：1件）  |  |
| 掲載項目 | 事業概要  | 日本語教育機関の概要を記載  |
|      | 背景と目的   | 実証事業へ参加した背景と目的を記載  |
|      | 取組内容  | オンライン教育における取組内容（クラスの基本情報／カリキュラム概要）を記載                      |
|      | 特徴や工夫点  | オンライン教育における取組の特徴や工夫点を質・構成・運営の3つの観点で記載                      |
|      | 成果と課題   | 実証事業における全体的な成果と課題、および各クラスごとに定めた目標（Can-do／独自目標）に対する成果と課題を記載 |
|      | 今後の取組   | 実証事業を経て、今後各日本語教育機関が行う予定のオンライン教育に関する取り組みを記載                 |

## ＜参考グッドプラクティス 整理例＞

エール学園日本語教育学科（大阪府大阪市）  
実施クラス：中上級ビジネス日本語

B1    B2    オンライン    話す（やりとり）    話す（発表）    聞く    読む    書く    日本事情・日本語理解    その他

**事業者概要**

|      |       |       |    |        |            |
|------|-------|-------|----|--------|------------|
| 設立年度 | 1967年 | 主要コース | 進学 | 主要な受講生 | 大学進学目的の留学生 |
|------|-------|-------|----|--------|------------|

**事業概要**

- エールは50年以上の大学進学指導の歴史、10万人の実績、20年以上の留学生教育をもとに、留学生の志望大学合格を実現
- 大阪の日本語学校から東京・名古屋・九州などの大学・大学院にも多数進学実績あり
- 独自の日本語能力判定試験を実施。弱点を細かく分析でき、客観的に実力が把握でき、学生からも教師からも高い評価を得ている

**実証結果のサマリ**

- オンライン授業を通して受講者が日本の生活やマナーを学ぶことができ、日本留学へのモチベーション維持に繋がった。今後も、海外在住生向けのクラスを対象にオンライン授業の継続を検討したい
- 話す・聞くといった能力はオンラインでの能力向上を図りやすい一方で、読む・書くといった能力はオンラインでの能力向上は難しいと感じた。そのため、今後はオンライン授業において4つの能力をバランスよく向上できるような方法を検討する必要があると考える。

**実証事業背景**

新型コロナウイルスの影響により海外からの日本留学希望者が減少している状況において、これまで当学園が増ってきたネットワークを生かして日本語の魅力を海外に発信して留学希望者の掘り起こしを行った。また、海外における教員の不足により、留学希望者からの会話授業のニーズがあった。

**実証目的**

潜在的学習者の掘り起こしや留学モチベーションの維持に向けたフォローを実施を目的とし、本事業へ参加した

**取組内容**

■クラスの基本情報

|          |                           |          |                                     |
|----------|---------------------------|----------|-------------------------------------|
| レベル      | B1,B2                     | 言語能力     | 話す（やりとり）、話す（発表）、聞く、読む、書く、日本事情・日本語理解 |
| 提供方法     | オンライン                     | 対象受講生    | 中上級ビジネス日本語                          |
| 参加スタイル   | オンライン                     | 受講生人数    | 2クラス37名                             |
| 受講生の主要国籍 | ベトナム                      | 実施期間     | 2022年8月～11月                         |
| 使用教材     | Japanese Express、オリジナルPPT | 受講生の使用機器 | PC、携帯電話／スマートフォン、iPad／タブレット          |

■単点目標 Can-Do

【聴衆の前での講演】事前に用意されたプレゼンテーションをはっきりと行うことができる。ある見方に賛成、反対の理由を挙げて、決別の選択の利点と不利な点を示すことができる。

■独自目標

- ①受講生による満足度アンケートにおいて「満足」が75%以上
- ②ビジネス場面における日本語表現の理解と発話の定着

■カリキュラムの概要

- 日本語を専攻しているベトナムの大学生に対して、中上級レベルのビジネス日本語会話の習得を目的とした授業を実施
- 日本留学後の日本就職や現地日系企業就職を目指す受講者のニーズを満たすため、ビジネスマナーや日本企業理解に関するテーマも並行して扱うことで実践的な内容を構成
- 日本事情の理解においては事務局からのデジタル教材を使用することで、効率的なオンライン授業の運営を試みた。受講前と受講後にWEB聴解試験を行い、基本的なビジネス日本語会話の理解度を測るとともに、講座終盤では受講生によるプレゼンテーションにより習得度の評価を行うこととした。

| 週       | 対象スキル              | 目標とする到達レベル                                    | 活用教材     | 手法    |
|---------|--------------------|---|----------|-------|
| 第1-5週   | 話す（やりとり）・聞く        | 日本語を使った簡単なコミュニケーション、ビジネスマナーを学ぶ                | オリジナルPPT | オンライン |
| 第6-10週  | 日本事情（知能・読解、食のマナー等） | 日本語（知能・読解、食のマナー等）を学ぶ                          | オリジナルPPT | オンライン |
| 11週-14週 | 話す（発表）             | 学生は旅行会社の社員という設定で「ベトナムのおすすめ紹介」に関するプレゼンテーションを実施 | オリジナルPPT | オンライン |

**取組の特徴や工夫点**

**質**

- 教材は受講生のレベルや興味に合わせてオリジナルに作成し、写真を多く盛り込み、視覚で理解しやすい工夫を行うことで、オンライン授業における理解度を高めた
- 読む・書くはオンライン授業での確認が難しく成果を測るのが困難だったが、「読む」は教材を活用して、生徒が読み上げ、また、「書く」はビジネスメールの書き方をカリキュラムに入れ、メールを送ってもらうことで指導を行い、成果を確認した

**構成**

- 対国の機会、日本事情について、生徒は日常的なマナーや食文化を自ら学ぶことができたため授業でのフォーカスはしないが、今回は学生が全員ベトナムにいたため、日本でしか知ることができないような内容を入れ込むことで日本の生活を体験できるようにした。例：レストランマナー等
- カリキュラムを日本の日常場面から、ビジネス場面に移行していく構成とすることで、生徒の理解がより深まったと考える

**運営**

- 教師の事前準備として、オンライン授業への取組のみならず効果、各種ツールの活用と応用に関するWEB研修動画の確認を行うとともに、デジタル教材の内容把握と授業への展開のための教材研究を実施した
- 受講生に対してSNS（LINE）等を活用した定期的な連絡（授業のアナウンス等）を行うことで生徒の受講モチベーション維持に貢献した
- 当初想定のカリキュラムにこだわらず、生徒の興味分野に応じて柔軟な授業を行った（例：七五三について知りたがりという要望への対応等）

**成果と課題**

【成果】

- オンライン授業を通して受講者が日本の生活やマナーを学ぶことができ、日本留学へのモチベーション維持ができた。
- カリキュラムを日本の日常場面から、ビジネス場面に移行していく構成とすることで、生徒の理解がより深まったと考える

【課題】

- 話す・聞くといった能力はオンラインでの能力向上を図りやすい一方で、読む・書くといった能力はオンラインでの能力向上は難しいと感じた。そのため、今後はオンライン授業において4つの能力をバランスよく向上できるような方法を検討する必要があると考える

| 目標  | 成果   | 発見した課題  |
|---|--|---|
| 【聴衆の前での講演】事前に用意されたプレゼンテーションをはっきりと行うことができる。ある見方に賛成、反対の理由を挙げて、決別の理由を示すことができる。 | プレゼンテーションに向けた練習を複数回行うことで、最終的にプレゼンテーション能力の向上が見られた。プレゼンテーションでは、業についての紹介も行った。   | 発表用資料のPPT作成などにおいて、生徒間で作成スキルレベルが異なっていたため、スキルの高い生徒から他のフォローを行う必要があった |
| ①受講生による満足度アンケートにおいて「満足」が75%以上<br>②ビジネス場面における日本語表現の理解と発話の定着                  | ①講座終了後のアンケート調査の結果、回答した全員が7割以上満足（76.2%）または「満足」（23.8%）と回答と目標を達成した<br>②受講前後の試験では、聴解試験（10点満点）で平均0.75ポイントの上昇、インタビュー及びプレゼン形式の会話試験（10点満点）で平均2.26ポイントの上昇が見られたことから、当初の目標は達成と考える | ビジネス場面において、実演が好ましいシーン（例：名刺交換など）について、実演ができなため、写真等を表示することで対応した      |

**今後の取組**

- 今後のオンライン教育は①コロナの状況で必要とされる場合、②海外に在住している生徒へのクラスを開催する場合、の2つの状況において実施を継続していきたいと考えている
- オンラインで学習できる英文法の動画を作成し、動画を閲覧した後に、オンラインで確認テストを実施する仕組みを現在開発しており、今後実用を試みしていきたい

### 3 効果検証【実証事業】得られた知見・示唆

オンライン教育は、学習者の日本語習得の向上を期待できるものであり、多くの教師・日本語教育機関は課題がありつつも今後の継続的運用を前向きに検討しています。実証事業の効果検証から、今後多数の日本語教育機関がオンライン日本語教育を実施するに際し、一般的に留意すべきと考えられる知見・示唆を整理しました。

※下記以外に、参考となる個別実証事業ごとの示唆・知見は、各実証事業実施校ごとに取りまとめたグッドプラクティス（別冊）に整理

#### 質 教材・授業の質を担保するために

##### 教材

|          |  |
|----------|--|
| 「書く」への対応 | ✓ 「書く」に関し、対面と比較して記載動作を確認しづらい為、 <b>学習者の習得状況を確認しづらい側面</b> がある。学習者が記載した文字は、映像・画像共有することで確認が可能            |
| 初級・中級対応  | ✓ 「話す」（やりとり）、「聞く」に関して、 <b>日本人教師のクラスに継続参加</b> することで、比較的成果を見込みやすく、また <b>学習者の満足度も高い</b> 傾向。映像を活用した教材要望有 |
| 上級対応     | ✓ 学習者のレベルに沿い <b>教材難易度を適切に調整</b> することで必要<br>✓ <b>JLPT試験対策に重きを置いたクラス</b> が多く見られた                       |

##### 授業

|            |  |
|------------|--|
| 学習者の期待通訳対応 | ✓ <b>日本人の教師から学べる</b> こと自体、 <b>学習者のモチベーションに好影響</b> 。初期段階で通訳を入れることも有効であるが、 <b>継続すると学習者・教師ともに通訳に頼る</b> クラスが見られた |
| 人数         | ✓ 対面と同様、オンラインにおいても <b>少人数で授業を実施</b> する方が、学習者の意識が高まり、また教師のフォローが行き届きやすいとの声（教師）があった                             |

#### 構成 集中・継続的授業参加を促すカリキュラムとするために

|               |   |
|---------------|---|
| オンライン教材の組合せ   | ✓ 午前のクラスでスーパー日本語を活用し、午後のクラスでいどりを活用する等、 <b>学習教材にバリエーション</b> をつけることで、学習者の集中を維持する為の工夫が見られた               |
| オンライン手法の組合せ   | ✓ 事前学習をサイトやアプリケーションを活用し、Zoom（オンライン）で教師がポイントを解説する等、 <b>事前学習と授業で異なるオンライン手法を活用</b> する日本語教育機関が多く見られた      |
| 学習者の興味と連動した構成 | ✓ 学習者満足度の高いクラスで、 <b>オンライン教材の構成を組換え</b> 、学習者の <b>興味関心が高いと想定する日本文化を題材とした教材を初期段階に組込む</b> 等の対応が見られた       |
| 授業内構成         | ✓ 多くのクラスでは、 <b>授業ルーチン</b> を設定して授業を実施。 <b>語彙・文法を授業スタートで学習し、学んだことをロールプレイングで実践する</b> 等の流れで実施するクラスが多く見られた |

#### 運営

#### 円滑なオペレーションを実現するために

|             |  |           |  |
|-------------|--|-----------|--|
| 募集          | ①②の学習者募集を実施した日本語教育機関が見られた<br>✓ ① 母国で日本語を学び、 <b>日本留学が決定</b> している<br>✓ ② ①と同様のエージェント経由で、 <b>留学に興味</b> がある（留学未決定）                 | 事前準備      | ✓ WEBやアプリを活用する場合、 <b>国によっては規制がかかっている</b> 等の理由で活用が難しい場合があることに留意が必要<br>✓ 学習者に対するレクチャーは <b>①クラス開始前にエージェントからのレクチャー②集合研修を実施</b> する等の対応が見られた |
| LMS活用       | ✓ Google Classroom だと、 <b>ルビをうつことができない等の事情から、別途LMSを活用</b> した日本語教育機関が見られた。 <b>機能が過剰に設定</b> されていたため、 <b>使いにくさを顕著に感じた</b> 等の声があった | コミュニケーション | ✓ 対面授業と比較し、 <b>学習者間、学習者-教師間の情報交換が希薄になりがち</b> であることに配慮し、 <b>SNSを活用して学習者間コミュニケーションを促す</b> 等の取組が見られた                                      |
| クラス分け（習得状況） | ✓ <b>学習者の習得レベルにバラツキがあると、授業レベルについていくことができない学習者の参加率が低下</b> したクラスが見られた<br>✓ 学習者の習得状況を把握し、適切なクラス分けを実施することが望ましい                     | クラス分け（国）  | ✓ ①「無料」は「価値が低い」という印象が根強い文化、②母国語の文法と日本語に馴染みの有無、③漢字圏・非漢字圏等に留意したクラス分けを実施する日本語教育機関が見られた  |

### 実施事項と成果物

コロナ禍において、我が国においてオンライン教育が増加した経緯があるものの、各機関の取組は区々である。質の高い日本語教育をオンライン環境において実現することは不可欠とされ、本事業期間中に渡日前「日本語履修歴（150時間以上）」がオンライン教育でも認められることが明文化される等、その必要性は一層高まっている。

本事業では、49校164クラスの実証事業を展開し、実証事業日本語教育機関に対し、質・構成・運営の観点でアンケート・ヒアリング調査を実施。対象者・活用したオンライン手法等のパターン別に能力向上度、取組の工夫、成果・課題等を把握した上で、オンライン教育を実施する際に前提として把握しておくべき知見・示唆を整理している。参考となりうる各日本語教育機関の取組は、グッドプラクティス集（別冊）として集約した。特段、グッドプラクティス集は、これまで各日本語教育機関の固有のナレッジとして蓄積されてきたものが、課題を含めて事例として整理されており、日本語教育機関が参照しやすいツールとして一定の有用性があると考えられる。

また、日本語教育機関のモデルとなりうる教材・カリキュラム開発を図り、自主事業として5つの事業を展開しており、それぞれ効果検証を実施し、成果・課題を整理している。

### 成果と今後の方向性

#### <留学生の日本語習得度向上>

総論として、参画した日本語教育機関の多くは、限られた期間であったものの本実証事業を通じてオンライン日本語教育が日本語習得に対して一定の成果があることを確認（あるいは再確認）できた。オンラインを活用した日本語教育は、従来多くの日本語教育機関が課題と認識してきた入学願書受付～渡日・授業開始までの日本語学習の空白期間等を有効活用でき、留学モチベーションの向上、渡日前の日本語習得度の底上げ、ひいては日本語教育機関卒業時の習得度向上に期待できるものと考えられる。

これら成果の確認やこれまでの各校の取組等を鑑み、実証事業に参加した多くの日本語教育機関はオンライン日本語教育の継続的な展開意向を示している。

#### <求められる多様性への対応>

他方で、従来（オフライン）クラスにおける母国語の特性や文化の違いを考慮した対応に加えて、オンラインを活用した母国からの学習者に対応するには、ICT環境や授業参加環境、参加モチベーション等のバラツキ、時差等を考慮する必要がある。授業品質の担保や運営の最適化に向けて新たな課題を認識したと言える。オンライン日本語教育は、個々の学習者の状況に応じ日本語学習に参加しやすい環境を提供できる側面がある一方で、日本語教育機関に目を向けると、多様化する学習者のニーズに応じ、より高度な教育品質の担保・カリキュラム構成・運営等の最適化が求められていると言えるのではないかと。

有識者からは、教師の育成過程にオンラインを活用した日本語教育の特性を学ぶカリキュラムを検討する必要があるのではないかと等の声が上がった。

#### <オンライン教育の持続>

前述したとおり多くの日本語教育機関は、オンライン日本語教育の継続的な展開意向を示している。また、新規に日本語留学を検討する学生にアプローチし新たな学習者の獲得に一定の成果のあった日本語教育機関も見られた。他方で、オンライン教育を継続的に実施するためのマネタイズのポイントを整理し、明確に経営に組み込むことができない日本語教育機関が多く見受けられた。ヒアリングを実施したところ、多くの日本語教育機関が検討段階にある様子を伺えた。日本語教育の質を継続的に担保していく観点から、収益化のナレッジを今後獲得していく必要があるのではないかと。

#### <日本語教育のニーズを見据えた、今後の方向性>

各国の取組に目を向けると、共生社会を実現する等の観点から留学生のみならず滞在する生活者等にも目を向けた言語教育が充実化しており、今回独自に調査した各国では、ともにオンライン教育を組み入れている。日本においても同様の取組が加速しており、多様化する日本語教育のニーズに対応する日本語教育の質の確保が求められており、オンライン教育も必要不可欠な要素である。

渡航の本格的な規制緩和を受け、今後オンライン・オフラインを併用した授業が活性化することが想定される。ICT環境の変化に応じオンライン教育の特性を踏まえ、教授内容によってどのように授業形態を組み合わせ、学びとしての質を向上させていくか。オンライン・オフラインの総合的なモデルを確立させていくとともに、高度化する教育に対応していく人材を担保していく必要があると考えられる。

## 5 【参考】独自調査 海外調査事例

※本調査は、本事業全体総括を取りまとめるに際し、外部環境を把握するために独自に調査したものです。

### 【調査事例①：オーストラリア連邦】

| 全体概要     |  |
|----------|--|
| 言語名      | 英語   |
| 母国語政策の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> <li>第二次世界大戦後、オーストラリアではアジアや東欧、中東といった地域から広く難民・移民の受け入れを実施。受け入れた難民・移民の定住を支援するために、政府が成人移民教育制度を構築</li> <li>成人移民教育制度の一環として、1948年に「Adult Migrant English Program (AMEP)」が設立。AMEPは州政府の権限で運営されており、移民のオーストラリア定住を英語教育を通じて支援している</li> </ul>  |
| 学習制度概要   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● Adult Migrant English Program (邦訳：成人向け移民英語教育プログラム) <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ プログラムへの参加にあたりAustralian Core Skills Framework (ACSF) による評価が実施され、評価結果をもとにAMEPの担当者との面談が実施される</li> <li>➢ 担当者との面談では、受講希望者の将来的なキャリアへの希望等も踏まえたインタビューが行われ、評価結果と併せて受講クラスが決定される</li> </ul> </li> </ul> |

### 【学習制度の詳細】

|        |   |      |   |
|--------|---|------|---|
| 所管官庁   | Australian Government<br>Department of Home Affairs<br>(オーストラリア内務省)   | 実施機関 | 政府指定の機関<br>(州立の職業訓練専門学校、市民大学、<br>語学/専門学校、教会等) |
| 目的     | オーストラリアに居住する移民の英語スキルを向上させ、オーストラリアへの定住を促すこと  |      |   |
| 対象者    | <ul style="list-style-type: none"> <li>18歳以上の移民と人道的入国者で、英語が全くまたはほとんど話せない人（永住ビザ保持者、一部の一時ビザ保持者、以前に適格ビザを保持していた国民を含む）</li> <li>15-17歳の移住民も状況に応じて適応する場合もある</li> </ul>  |      |   |
| 学習内容   | 英語に加え、オーストラリアが重視する価値、文化、法律などオーストラリア社会に関する知識（具体的には、教育システム、医療制度、交通システム等）  |      |   |
| カリキュラム | <ul style="list-style-type: none"> <li>「就職を前提とした英語クラス」と「英会話クラス」の2クラスから構成される</li> <li>法律で定められた 510 時間をいずれかのクラス、または両クラスを組み合わせて利用することができる <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ <b>就職を前提とした英語クラス</b>：職場で役立つ英語、または持続的な雇用につながる、スキル強化トレーニングのための英語を学ぶ</li> <li>➢ <b>英会話クラス</b>：英会話能力を向上させ、地域社会で人々と交流し、自立した生活を送るために必要な英語を学ぶ</li> </ul> </li> </ul> |      |   |
| 受講料    | 無料  | 受講時間 | 510時間（無料受講の上限）                                |
| 形式     | 通学・オンライン双方  | 教材   | 指定なし。サービスプロバイダーが学習者に<br>適した教材をその都度選定          |
| 事前テスト  | <ul style="list-style-type: none"> <li>The International Second Language Proficiency Ratings (ISLPR)を用いて事前テストを実施。テストの結果により3つのレベルに振り分けられる</li> <li>面接や過去の教育に関しても質問をされる</li> </ul>  |      |   |
| 効果測定   | <ul style="list-style-type: none"> <li>Australian Core Skills Framework (ACSF) を用いて評価</li> <li>「学ぶ」「読む」「書く」「口頭でのコミュニケーション」「計算力」の5つのスキルを、場面や難易度によって多面的に評価する</li> </ul>   |      |   |
| 修了要件   | <ul style="list-style-type: none"> <li>510時間の受講が終わり次第、基本的に修了</li> <li>例外として、成長が見られない場合は、別クラスでAMEP Extendで490時間追加可能</li> </ul>   |      |   |

※本調査は、本事業全体総括を取りまとめるに際し、外部環境を把握するために独自に調査したものです。

【調査事例②：カナダ連邦】

全体概要

|          |  |
|----------|--|
| 言語名      | 英語   |
| 母国語政策の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> <li>1971年、世界で初めて多文化主義政策を導入し、1988年に多文化主義法を制定。多文化主義を通じ、移民の統合に成功した国家のモデルケースとされることも多い</li> <li>1992年、永住者が基本的な言語能力の向上およびカナダに関する知識を提供することを目的としてLanguage Instruction for Newcomers to Canada (LINC) が発足。<b>移民政策の中に言語教育プログラムが明確に位置付けられており、連邦政府による予算措置がなされ、プログラムが運営</b>されている</li> </ul>                      |
| 学習制度概要   | <p>【永住者対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Language Instruction for Newcomers to Canada (LINC) (邦訳：新移民向けの語学教育)             <ul style="list-style-type: none"> <li>Canadian Language Benchmarks (CLB) に定められている基準に基づきプログラムが作成されており、全国的な質・内容の標準化がはかられている</li> <li>プログラムの修了時には、CLBに基づくテストが実施され、効果測定が行われる</li> </ul> </li> </ul> |

【学習制度の詳細】

|        |  |      |                                    |
|--------|--|------|------------------------------------|
| 所管官庁   | Canadian Government<br>Department of Immigration,<br>Refugees and Citizenship (移民・難民・市民権省)   | 実施機関 | 政府指定の機関<br>(市民団体、教会、教育委員会、<br>大学等) |
| 目的     | カナダに永住するために必要な英語力とカナダ社会への移民の順応   |      |                                    |
| 対象者    | カナダの永住権保持者もしくは条約難民   |      |                                    |
| 学習内容   | 英語に加え、地元のコミュニティやカナダの文化など   |      |                                    |
| カリキュラム | <ul style="list-style-type: none"> <li>LINCとして実施される授業はいずれもCanadian Language Benchmarks (CLB) の基準を満たすことが必須</li> <li>LINCを運営する実施機関は、政府が作成したCLBの各レベルに応じたガイドライン“Can Do Statement”をもとにプログラムを作成しており、授業の質を担保している</li> </ul>                               |      |                                    |
| 受講料    | 無料   | 受講時間 | 制限なし (一部の州では独自ルールを設けている)           |
| 形式     | 通学・オンライン双方   | 教材   | 指定なし。担当教師が学習者に適した教材をその都度選定         |
| 事前テスト  | <ul style="list-style-type: none"> <li>The Canadian Language Benchmarks Placement Test (CLBPT)と呼ばれるプレイスメントテストを事前に受験し、受講クラスが決定される (オンライン受講可)</li> <li>テスト結果は2年間有効</li> <li>テストの内容は、Reading, Listening, Writing, Speakingの4項目</li> </ul>             |      |                                    |
| 効果測定   | <ul style="list-style-type: none"> <li>Canadian Language Benchmark (CLB)を用いて評価</li> <li>CLBでは言語レベルを3つのステージ、12のレベルに分類しており、それぞれを評価するための具体的な指標を定めている</li> <li>Listening, Speaking, Reading, Writingの4技能について、CLBの各レベルにおけるコンピテンシーレベルが定義されている</li> </ul> |      |                                    |
| 修了要件   | <ul style="list-style-type: none"> <li>クラスの修了要件：クラス期間の満了をもって終了</li> <li>プログラムの修了要件：プログラム修了時にCLBPTを実施し効果測定を実施 (LINCレベル5までの英語レベル取得を目標としているが、達成しなくても卒業可能)</li> </ul>  |      |                                    |

## 5 【参考】独自調査 海外調査事例

※本調査は、本事業全体総括を取りまとめるに際し、外部環境を把握するために独自に調査したものです。

### 【調査事例③：ドイツ連邦共和国】

| 全体概要     |   |
|----------|---|
| 言語名      | ドイツ語  |
| 母国語政策の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> <li>2008年より世界各国の教育機関でのドイツ語学習を支援する「未来のパートナー学校」(PASCH) が国のイニシアティブとして導入され、これまで世界120カ国で60万人の学習者がこのプログラムでドイツ語を勉強している</li> <li>欧州議会の定める“Common European Framework of Reference for Languages” (CEFR) に基づき、ドイツ語を含む言語学習のレベルが定められており、準拠した形で母国語学習が体系化されている</li> </ul>                          |
| 学習制度概要   | <p>【永住者対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Integrationskurs (邦訳：統合クラス)               <ul style="list-style-type: none"> <li>語学教育機関等で実施され、語学クラスとオリエンテーションクラスの2部で構成される</li> <li>語学クラスでは、日常生活の中での会話やドイツ語を書くために必要な語彙、日常会話、手紙の作成等を学ぶ</li> <li>オリエンテーションクラスでは、ドイツの法制度や文化、近代の歴史等ドイツの生活について学ぶ</li> </ul> </li> </ul> |

### 【学習制度の詳細】

|        |  |      |   |
|--------|--|------|---|
| 所管官庁   | Bundesamt für Migration und Flüchtlinge (BAMF：連邦移民・難民庁)  | 実施機関 | 政府指定の機関 (市民大学、民間の語学・専門学校、カルチャーセンター等)          |
| 目的     | ドイツに居住する外国人の経済的、文化的および社会的な生活への統合を促進すること  |      |   |
| 対象者    | 長期滞在の外国人、EU加盟国の国民、またはドイツ語の知識が十分でないドイツ人   |      |   |
| 学習内容   | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活での使用を中心としたドイツ語</li> <li>ドイツの法制度や文化、近代の歴史</li> </ul>   |      |   |
| カリキュラム | <ul style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーションクラスと語学クラスの2つのクラスで構成</li> <li>語学クラスは各100レッスンの6セッションから構成。最初の300レッスンをベーシッククラス、後半の300レッスンをアドバンスクラスとしている</li> <li>女性・親・若者・読み書きができない人などを対象とした特別なインテグレーションクラスも存在し、1000レッスンで構成されている</li> </ul> |      |   |
| 受講料    | 1レッスン当たり2.2ユーロ (2022年時点)   | 受講時間 | 700レッスン (45分/レッスン 全525時間)                     |
| 形式     | 通学・オンライン双方   | 教材   | 連邦移民・難民庁の指定する要件を基に作成された学習教材から、各教育機関が使用する教材を選定 |
| 事前テスト  | <ul style="list-style-type: none"> <li>運営機関がクラス開始前に参加者のレベルチェックテストを実施 (受験料無料)</li> </ul>  |      |   |
| 効果測定   | <ul style="list-style-type: none"> <li>Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) を用いて評価</li> <li>公的機関等が、CEFRに基づき、話す・聞く・書く・読むの4技能を測定するテストを実施</li> </ul>   |      |   |
| 修了要件   | <ul style="list-style-type: none"> <li>無料の修了テスト (語学テストおよび「ドイツでの生活」テスト) を受験し、合格する必要がある</li> <li>語学テストに合格すれば十分なドイツ語能力 (言語レベル) を習得したことが認められる。その後「ドイツでの生活」テストに合格すれば、インテグレーションクラスを修了したことになる。その後、「インテグレーション証明書」が発行される</li> </ul>             |      |   |

## 5 【参考】独自調査 海外調査事例

※本調査は、本事業全体総括を取りまとめるに際し、外部環境を把握するために独自に調査したものです。

### 【調査事例④：大韓民国】

| 全体概要     |   |
|----------|---|
| 言語名      | 韓国語   |
| 母国語政策の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> <li>世界各国に韓国文化院（Cultural Centers、Culture and Information Officers、Culture and Information Officers）を約40拠点有し、言語を含む韓国文化を発信する拠点となっている</li> <li>韓国文化院には、一般市民を対象とした韓国政府公認の韓国語教育機関である「世宗学堂」があり、韓国語教育事業の実施と韓国文化を知らせるための各種講座等の支援を行っている</li> </ul>                 |
| 学習制度概要   | <p>【永住者対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Korean Immigration &amp; Integration Program（社会統合プログラム） <ul style="list-style-type: none"> <li>レベル0-5の6段階に渡って展開されており、7つのクラスから構成される</li> <li>KIIPの受講により発行される証明書が在留資格の変更申請や永住権の申請、国籍申請の基本書類になるため、在留資格との関係性が非常に深い</li> </ul> </li> </ul> |

### 【学習制度の詳細】

|        |   |      |                                  |
|--------|---|------|----------------------------------|
| 所管官庁   | Ministry of Justice Korea<br>Immigration Service<br>(韓国法務省)   | 実施期間 | 政府指定の期間等は存在しない。<br>地域の文化センター等で開講 |
| 目的     | 韓国に居住する外国人が韓国で生活していくうえで必要となる語学や一般教養を習得すること  |      |                                  |
| 対象者    | 移民  |      |                                  |
| 学習内容   | <ul style="list-style-type: none"> <li>韓国語</li> <li>社会・文化・政治・経済・歴史・法律・地理といった、韓国社会の構成員として知っておくべき法制度や生活に関する情報</li> </ul>  |      |                                  |
| カリキュラム | <ul style="list-style-type: none"> <li>KIIPはレベル0-5の6段階に渡って展開されており、7つのクラスから構成される</li> <li>レベル5のクラスは、基本・深化の2クラスに分かれている</li> <li>KIIPの受講により発行される証明書が在留資格の変更申請や永住権の申請、国籍申請の基本書類になり、レベル5まで履修を完了すると、帰化申請にあたって必要な韓国語能力証明の免除や実態調査の免除、在留資格変更の際の加点付与等が行われることから、在留資格との関係性が非常に深い</li> </ul> |      |                                  |
| 受講料    | 無料  | 受講時間 | 515時間                            |
| 形式     | 通学・オンライン双方  | 教材   | 指定テキストがあり、学習者は自費で購入する必要がある       |
| 事前テスト  | <ul style="list-style-type: none"> <li>WritingとSpeakingのテストを行い、結果によってクラス分けが行われる</li> <li>テストを受けた日から2年以内に割り当てられたKIIPのクラスを受講する必要がある</li> <li>事前テストの申請料は学習者の自己負担</li> </ul>  |      |                                  |
| 効果測定   | <p>中間評価が存在し、レベル4のクラスの学習者はKLCT：Korea Language and Culture Testを受験する必要がある</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>合格者には合格証明書が発行され、レベル5への進級が認められる</li> </ul>  |      |                                  |
| 修了要件   | <ul style="list-style-type: none"> <li>レベル5のクラスの学習者は、総合評価（KIPRAT：Korea Immigration and Permanent Residence Aptitude TestもしくはKINAT：Korea Immigration and Naturalization Aptitude Test）を受験し、合格する必要がある</li> <li>合格者には、合格証に加え永住資格修了認定または移民帰化適格修了認定証が発行される</li> </ul>                |      |                                  |